

第三調

「スポタ」の小晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に主日の讚頌第三章。其一は二次。第三調。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。
ハリストス救世主よ、爾の十字架にて死の權は滅され、悪魔の誘惑は空しくせられたり。信を以て救はるる人の族は恒に歌を爾に奉る。
主よ、爾の復活にて萬有は照され、樂園は再開されたり。悉くの造物は爾を讃め揚げて、恒に歌を爾に奉る。
我は父及び子の能力を崇め、聖神の權を歌ひ、分れず造られざる神性、一體の三者、世に王たる者を讃め揚ぐ。

光榮、今も、生神女讚詞、定理歌。第三調。

最大なる奇跡や、生みし者は童貞女、生れし者は世より先なる神なり、預言せられし産、性に超えて成りたる者なり。嗚呼畏るべき奥密や、思はるれども言ひ難し、見らるれども悟られず。福なる哉爾至淨なる少女、地上のアダムの女にして、至上の神の母と現れたる者なり。彼に我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

第三調 「スポタ」の小晩課 四九三

第三調 「スポタ」の小晩課 四九四

次ぎて「穩なる光」。提綱、「主は王たり」、三次。句、主は能力を衣、又之を帯にせり。次に「主よ、我等を守り、罪なくして此の晩」。司祭聯禱を誦せず。我等直に左の讚頌を歌ふ。

挿句に主日の讚頌、第三調。

己の苦しみにて日を晦くし、己の復活の光にて萬物を照ししハリストス、人を慈む主よ、我等の晩の歌を納れ給へ。

次に生神女の讚頌三章。第三調。

句、我爾の名を萬世に誌さしめん。
潔き者よ、我等爾を神靈の約匱、神の録しし石板として我が立法者及び造成主を納るる者と識る。彼に我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

句、女よ、之を聴き、之を觀、爾の耳を傾けよ。

婚姻に與らざる潔き者よ、爾の腹に入りて身を取りし性の見られぬ神言は爾を地に於て天と現したり。故に爾は衆人に不死の露を降し給ふ。

句、民中の富める者は爾の顔を拜まん。

童貞女よ、我等は爾の祈禱に由りて救を得、此に縁りて常に患難及び誘惑の暴風を免る。故に求む、絶えず我が爲に我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

光榮、今も、生神女讚詞、第三調。

至淨なるマリヤよ、我等は爾に依りて人の性の復興及び重生を知る、蓋萬物の造成主

は爾の腹に我が合成を受けて、我等を地獄及び死より起して、我等に永遠の生命を賜へり。故に我等爾に呼ぶ、地下の者を天上に合せし永貞童女よ、慶べ、地の四極の恃頼と轉達と保護よ、慶べ、爾の子の復活にて萬有を照し、世界に大なる憐を賜ふ者よ、慶べ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に主日の讃詞。光榮、今も、其生神女讃詞、及び發放詞。



「スポタ」の大晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に十句を立てて、主日の讃頌を歌ふ。第三調。

句、我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讃榮せしめ給へ。

ハリストス救世主よ、爾の十字架にて死の權は滅され、悪魔の誘惑は空しくせられ

第三調 「スポタ」の大晩課 四九五

第三調 「スポタ」の大晩課 四九六

たり。信を以て救はるる人の族は恒に歌を爾に奉る。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

主よ、爾の復活にて萬有は照され、樂園は再開かれたり。悉くの造物は爾を讃め揚げて、恒に歌を爾に奉る。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

我は父及び子の能力を崇め。聖神の權を歌ひ、分れず造られざる神性、一體の三者、世に王たる者を讃め揚ぐ。

又アナトリーの讃頌、同調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

ハリストスよ、我等爾の尊き十字架に伏拜し、爾の復活を歌頌讃榮す、蓋爾の傷に因りて我等皆癒されたり。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

我等は童貞女より身を取りし救世主を歌ふ、蓋我等の爲に十字架に釘せられ、三日目に復活して、我等に大なる憐を賜へり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

ハリストスは降りて、地獄に在る者に福音して曰へり、勇めよ、今勝てり、我は復活なり、我死の門を破りて、爾等を引き上げん。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

ハリストス神よ、我等爾の至淨なる家に立つに堪へざる者は晩の歌を奉りて、深き心より籲ぶ、爾の三日目の復活にて世界を照しし人を愛する主よ、爾の民を爾の諸敵

の手より脱れしめ給へ。

他の讚頌、至聖生神女に捧ぐ、月課經の讚頌の無き所に之を歌ふ。アモレイのパワ
エルの作、第七調。

句、願はくはイズライリは主を待まん、蓋 憐 は主にあり、大なる贖 も彼にあり、彼
はイズライリを其 悉 くの不法より贖はん。

童貞女よ、我何事に遇ひても爾の神聖なる恩寵を呼ぶ者に慈憐を垂れて、速に聴き給
へ、蓋我が靈の望を一切爾に負はせたり。我萬事に於て爾の神聖なる慮を待
む、爾我に將來の光榮及び神聖なる生命をも獲しめ給へ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

生神女よ、我が諸慾の炭は我の中に燃えたり。祈る、女宰よ、怒と憤、沉湎と邪淫、
貪婪と頑固、怠惰と煩悶、驕慢と良心に戻ることにより吾が靈を脱れしめて、我を救

第三調 「スポタ」の大晩課 四九七

第三調 「スポタ」の大晩課 四九八

ひ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

我等皆 潔き良心を以て生神女の前に俯伏して、心の内より絶えず呼ばん、聖なる女宰
よ、我等衆を愠怒と忿恨、災禍と誘惑より救ひ給へ。蓋我等は爾を垣牆及び保固と
して獲て、爾の旃幃の下に趨り附きて、爾に依りて救はる。

光榮、今も、生神女讚詞。

最尊者よ、我等如何で爾が神人を生みしに驚かざらん。至りて玷なき者よ、爾は夫
の誘を受けずして、世の無き先より母なく父より生れ、聊かも變易、或は混淆、或
は分離を受けず、二の性の質を全うして守れる子を父なく身にて生めり。故に母、
童貞女、女宰よ、正しく爾を生神女と承け認むる者の靈の救はれんことを彼に祈り給
へ。

次ぎて香爐捧持の聖入。「穩なる光」。提綱及び聯禱。

挿句に主日の讚頌、第三調。

己の苦にて日を晦くし、己の復活の光にて萬物を照ししハリストス、人を慈む主
よ、我等の晩の歌を納れ給へ。

他の讚頌

句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

主よ、爾が生命を施す復活は全世界を照して、爾の朽ちたる造物を興せり。故に我等
アダムの詛を脱して呼ぶ、全能の主よ、光榮は爾に歸す。

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

爾は變易せざる神にして、身にて苦を受けて變易せり。造物は爾が十字架に懸れ
るを見るに堪へずして、恐懼に由りて變じ、歎息して爾の恒忍を讃め揚げたり。爾
は地獄に降り、三日目に復活して、世界に生命と大なる憐とを賜へり。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

ハリストスよ、爾は我が族を死より救はん爲に死を忍び、三日目に死より復活して、爾を神と識認せし者を己と偕に復活せしめて、世界を照し給へり。主よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

爾は種なく聖神に由りて、父の旨を以て、神の子、世の無き先に母なく父より生れし者を妊み、我等の爲に父なく爾より在りし者を身にて生み、嬰たる者を乳にて養へり。彼に我等の靈を諸難より脱れしめんことを息めずして禱り給へ。

第三調 「スポタ」の大晩課 四九九

第三調 「スポタ」の晩堂課 五〇〇

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に、

主日の讃詞、第三調。

天に在る者樂しめよ、地に在る者悦べよ、主は其臂の力を顯して、死を以て死を滅し、復活の首となり、我等を地獄の腹より救ひ、世界に大なる憐を賜ひたればなり。

光榮、今も、生神女讃詞。

生神童貞女よ、我等は爾我が族の救の爲に轉達する者を讃め歌ふ、爾の子吾が神は人を愛するに因りて、爾より取りし身にて十字架の苦を受け、我等を滅込より救ひたればなり。

~~~~~

「スポタ」の晩堂課

至聖なる生神女の規程。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。至淨なる神の聘女よ、我等信者は、清き歌を以て、爾父の惠及び聖神の降臨に由りて、神の母と爲りし者を讃榮し、天使首と偕に歌頌を以て、我が救の爲に、爾を祝讚す。

昔エワは造成の時にアダムの肋骨より造られ、ハリストスは生神女の腹より顯れ給へり。是れ吾が神にして、變易なく人と爲り、永遠の主にして、時に順ひし者なり。

光榮

潔き童貞女よ、エワの腹を苦の中に子を生むことに定罪せし主は爾の腹に入り給へり。是れ我が神にして、身を以て言ひ難く現れて、原母の債を解き給ひし者なり。

今も



かみ はは われら つみ おもに よ しつぼう ふかみ おちい ねつせつ なんじ よ じよさい  
神の母よ、我等罪の重負に因りて失望の深處に陥りて、熱切に爾に呼ぶ、女宰よ、  
われら ざいあく うち おぼ もの たす たま われら かみ つぎ ひどりなんじ たのみ  
我等罪悪の中に溺るる者を援け給へ、我等は神の次に獨爾を頼とすればなり。

### 第三歌頌

第三調 「スポタ」の晩堂課 五〇一

第三調 「スポタ」の晩堂課 五〇二

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者  
よ、爾の愛に我を固め給へ。

至淨なる生神女よ、アアロンの杖、潤なくして華さきたる者は爾を預象せり、蓋爾  
は種なく、變易せずして身を取りし神を生み給へり。

至淨なる者よ、預言者は神を以て爾を神聖なる火の燃ゆる燈としてて預見せり、  
蓋爾は世に在る者の爲に光照と永生とを顯し給へり。 光榮

我等天使首ガウリイルに就きて、共に歌を以て童貞女に呼ばん、慶べよ、爾に依り  
て原祖の定罪の詛が解かれたればなり。 今も

至聖なる生神女よ、我等罪なる者は爾を救の牆と有ちて救はる。女宰よ、我等の祈  
を棄つる勿れ、辱かしむる勿れ。

### 第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付した  
ればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

至淨なる者よ、昔アウワクムは神に感ぜられて、神を以て爾を神靈の山、諸徳の蔭  
と見て、言が身を取りて南たる爾より來りしを傳へたり。

女宰よ、ダニイルは神を以て爾を其童貞の潔淨を像る大なる斫られざる山と見たり、  
是より石たるハリストス言は斫られて、偶像の迷を滅し給へり。

### 光榮

潔き者よ、ダウィドは爾を奇異なる高き山と預言せり、蓋父の獨生子は爾に入り  
て、身を取ることを悦び給へり。故に我等神を以て爾に慶べよと呼ぶ。

### 今も

罪なる者及び謙卑の者の至仁にして熱切なる轉達者、神の母、至淨なる女宰よ、爾  
の諸僕を諸の災禍、憂愁及び諸罪より救ひ給へ。

### 第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して光榮の諸天使に繞らるる神を見し  
時に籲べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見  
せり。

イエッセイの根は凋まざる花を發きたり、是れ童貞女マリヤは種なくして、聖神に由  
りて父の旨を以て、無原なる神、異邦の諸國を其權内に有つ主、諸民の冀望なる者を生  
み給ひしなり。

第三調 「スポタ」の晩堂課 五〇三

平安の王は來りて、ダウイドの寶座に坐せり。嗚呼奇跡や、生神女よ、爾より身を取りし神は王と爲りて、不和を解き、モアフの諸侯を慄かせ、爾を女王として顯し給へり。

光榮

童貞女よ、イサイヤは爾の無玷なる華美、ハリストスが是に藉りて種なく身を衣たる者を顯して呼ぶ、光榮の主は輕き雲に乗りて來り、迷の幽暗を拂ひて、我等を照さん。

今も

童貞女よ、爾は聖神に因りて父と一體なる言を孕みて、之を二性に於て全き神及び全き人として生み給へり。我等信を以て其肉體の顯現を尊む。

第六歌頌

**イルモス**、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は匹びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

讚美たる者よ、睿智者は歌頌を以て爾を榻として豫象す、其上に爾より身を取りて、變易なく生れ給ひし實在の神は休ひて、爾を榮せり。

讚美たる童貞女よ、爾は選ばれたる衣の如くなれり、蓋言は爾より神聖なる紫袞衣として身を取り、神に合ふが如く妝はれて王と爲れり。

光榮

神の聘女よ、爾は神聖なる合成の容處、黄金よりも美しき者と爲れり、蓋爾に藉りて神は人と爲り、又神は人として人人に語り給へり。

今も

讚美たる童貞女よ、不敬虔にして爾を尊まざる者は爾の至榮なる肖像を見て媚嫉に嚙まれ、異端の毒惡に殺さる。

主憐めよ。三次。光榮、今も、

坐誦讚詞、第三調。

生神女よ、我熱切なる信より、不當の口、穢れたる心を以て爾に呼ぶ、我諸罪に溺れたる者を救へ、失望に因りて殺されたる者を宥め給へ、我が救はれて爾に呼ばん爲なり、慶べ、童貞女、「ハリスティアニン」等の扶助者よ。

第七歌頌

**イルモス**、昔三人の少者はペルシヤ人の尊める金の像に伏拜せずして、爐の中に歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

童貞女よ、荊棘と火焰とは相合せられ、兩ながら損はるるなく現れて、明に爾を預象す、蓋爾は神を生みて、童貞女に止まる。

童貞女母よ、ゲデオンの爲に顯れたる羊の毛及び露の奇跡は爾の産を前兆せり、

けだしなんじ ひとり しんせい ことば つゆ ごと おのれ はら やど たま  
蓋爾は獨神聖なる言を露の如く己の腹に宿し給へり。

## 光榮

わ つみ ひ われ ほのお た がた しめ いさぎよ もの なんじ じれん よ  
我が罪の火は我に「ゲエンナ」の焰の堪へ難きを示す。潔き者よ、爾の慈憐に由  
りて之を滅して、痛悔を以て我を光に導き給へ。

## 今も

しじょう しょうしんじょ われ ら みな なんじ しょうぞう とうと げんぞう なんじ つね かみ まえ われ ら  
至淨なる生神女よ、我等皆爾の肖像を尊みて、原像たる爾を常に神の前に我等の  
轉達者及び慈憐なる帡幪として有つ。

## 第八歌頌

イルモス、ワロイロンの爐が少者を焚かざりし如く、神性の火は童貞女を殘はざり  
き。故に我等信者は少者と共に呼ばん、主の造物は主を崇め讃めよ。  
父は爾を荊棘の間にある最美しき花の如く、華美の光明にて輝ける者として獲て、  
爾婚姻に與らざる聘女を聖神に由りて己の子の居處と爲すを悦び給へり。  
我靈を全くして爾天上の軍より至りて聖なる無玷の童貞女を讃榮す。蓋爾は彼等  
の造成主、混ぜざる合成を以て爾より身を取りし者を腹に宿し給へり。

## 光榮

どうていじょ なんじ どうてい そこない まも ちち むね よ こんいん あずか よめ な  
童貞女よ、爾は童貞を殘なく守りて、父の旨に因りて婚姻に與らざる聘女と爲り、  
光榮の神の臨みて蔭ふ處と爲りて、實に神の子の母と顯れたり。

## 今も

せい むけい み かみ せい どうていじょ い がた その せい こ ひと うま  
性の無形にして見えざる神は聖なる童貞女より言ひ難く其性に超えて人と生れて、  
一位に於て二性の者と見らる、聖書に示すが如し。

## 第九歌頌

イルモス、神に適ふ新なる奇跡や、主は顯に童貞女の閉せる戸を通り、入るときは  
無形の神にして、出づるときは人體を衣たる者となり、戸は元の儘閉せり。我等彼を神  
の母として、言ひ難く崇め讃む。  
聖なる根より聖なる實は生ず、蓋胎の荒れたる者は先祖の神の法に聖にせられて、凋  
まざる生命たる生神童貞女を生じたり、アンナは年老いて子を受けて悦ぶ。我等は此  
の子を神の母として讃榮す。  
潔き者よ、爾の産は神に適ふ新なる事なり、蓋爾の腹の中に父の指にて人の形は銘  
され、聖なる神に因りて聖なる子は身を取り給へり。我等彼を混淆なく神及び人とし  
て崇め讃む。

## 光榮

およそ ぎはん われ せ おこない こえ あ われ こ わ たましい いっさい きつもん  
凡の義判は我を責め、悪しき行は聲を揚げて我を懲らし、我が靈は一切の詰問

せられんことを知りて、「ゲエンナ」の焰に慄く。女宰よ、終の先に爾の祈祷を以  
て我を之より脱れしめ給へ。

## 今も

いさぎよ もの なんじ さん のち ふきゅう もの あらわ けだしせい こ み ばんゆう ぞうせいしゅ ちち  
潔き者よ、爾は産の後に不朽の者と現れたり、蓋性に超えて身にて萬有の造成主、父  
の性に離れずして人と爲りし者を生み、聖神に由りて童貞女に止まり給へり、故に我  
等爾を讚榮して歌を奉る。

次ぎて「常に福にして」。聖三祝文。主日の小讚詞、及び發放詞。

~~~~~

主日の夜半課

聖三者の規程、其冠詞は、三者、唯一の神元よ、爾を讚揚す。ミトロファンの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、
是れ崇め讚めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。
悟り難き唯一なる三位の神元よ、我に爾の三光の輝煌にて照さるるを得しめ給へ、
我が爾天使の口に頼りて三聖の歌を以て絶えず歌はるる主を歌頌せん爲なり。
悉くの無形の品位は敬みて唯一なる三光の神元を造成の原因として歌ふ、我等人人
の大數も同心に歌ひて、塵に屬する口を以て熱切に彼を讚榮す。

光榮

萬有の一元なる神よ、神學師等は宜しきに合ひて意義深く爾を智慧と、言、及び神
と名づけて、生れざる父より永遠に子の生るること、偕に又神聖なる神の出づること
を示す。

今も

性の仁愛なる神の言よ、爾は人の性を受けて、唯一の神性の三位なる一元の光を輝
かして、衆に爾を生みし至淨なる童貞女に至りて光榮なる者と顯し給へり。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者
よ、爾の愛に我を固め給へ。

昔イリヤは三たび水を薪の上に沃ぐことを命じて、形を以て唯一の神の三位を顯

第三調 主日の夜半課 五〇九

第三調 主日の夜半課 五一〇

せり。

地に生るる者の朽壞の性は爾唯一なる三光の變易せざる造成主を歌ひて、爾に呼ぶ、
主宰よ、我を種種の悪しき變易より援けて救ひ給へ。

光榮

萬有の神よ、我等信者は諸預言者、光榮なる使徒及び教の宣傳者の言と侔しきこと
を述べて、爾同能なる三者を讚榮す。

今も

至しじょう淨じゆなる者ものよ、ハリストスは人ひとを愛あいする主しゆとして、爾なんじに藉よりて最高いとたかき寶座ほうざより下くだりて、人ひとを高たかくし、衆しゆに三日さんじつの光ひかりを輝かがやかし給たまへり。

第三歌頌の後に坐誦讚詞、第三調。

主憐めよ、三次。

永えいざい在ゆいなる唯一いの主しゆ、無むげん原ちなる父この子こハリストス、及び神聖およなる神しんよ、爾なんじの諸僕しよぼくを憐あわれみ給たまへ、蓋けだし我等われ皆罪らを犯みなしたれども、爾なんじより離はなれざりき。故ゆえに祈いのる、三位さんいの主しゆよ、權けんを有もつ者ものとして、爾なんじの造物ぞうぶつを諸もろもろの誘惑いざないより救すくひ給たまへ。

光榮、今も、生神女讚詞。

純潔じゆんけつなる者ものよ、永えいざい在かみの神およ及び主しゆは仁慈じんじなるに因よりて、爾なんじより身みを取り、本性ほんせいを易かへずして、我等われに肖にたる者ものとなり給たまへり。故ゆえに我等われ彼らを神人かみびとと尊とうとみて、爾なんじを婚姻こんいんに與あずからざる生神女しやうしんじよと傳たねへて、爾なんじの種しんなき産さんの至大しだいなる奇跡きせきを讚榮さんえいす。

第四歌頌

イルモス、主しゆよ、爾なんじは強つよき愛あいを我等われに顯あらわせり、我等われの爲ために爾なんじの獨生子どくせいしを死しに付わたしたればなり。故ゆえに我等われ感謝かんしゃして爾なんじに呼よぶ、主しゆよ、光榮こうえいは爾なんじの力ちからに歸きす。

根ねよりするが如ごとく、父ちちより二ふたつの芽めは生しやうじたり、子こ及び義ぎなる神しん、父ちちと一性一體いつせいにして、同無原同尊どうむげんなる者ものなり。故ゆえに我等われ唯一ゆいの神性しんせいの三光さんこうを尊とうとむ。二次。

光榮

無むすう數れいの靈智れいなる者ものは絶たえず爾なんじ測はかり難がたき神かみを歌うたふ。彼等かれと偕ともに我等われ讚榮さんえいして言いふ、永えいざい在いの三者さんしやよ、人ひとを愛あいする主しゆなるに因よりて、爾なんじの諸僕しよぼくを救すくひ給たまへ。

今も

慈憐じれん多おほき神かみの言ことばよ、爾なんじは本性ほんせいを易かへずして我等われの爲ために人體じんたいを取り、唯一との神ゆいの三位かみの奥義さんいを教おしへて、我等われの中に爾なんじを愛あいする愛あいを燃もやし給たまへり。故ゆえに我等われ爾なんじを讚榮さんえいす。

第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象よしやうに於おいて崇たかき寶座ほうざに坐ざして光榮こうえいの諸天使しよてんしに繞めぐらるる神かみを見みし

第三調 主日の夜半課 五一

第三調 主日の夜半課 五一

時ときに籲よべり、噫あ我われ禍わざわいなる哉かな、我肉體われにくたいを取る神と、暮かみれざる光くと平安ひかりとを司へいあんる者つかさどを預見ものせり。

イサイヤは預象よしやうに於おいて唯一ゆいの神かみ、セラフィムしじやうの至淨こえなる聲もつを以さんいて三位さんえいに讚榮さんえいせらるる主しゆを見て、直ただちに三光さんこうの性せい、三日さんじつの唯一ゆい者を傳せんへん爲ために遣つかわされたり。二次。

光榮

曩さきに悉ことごとくの見みゆると見えざるの性せいを無むより造つくりし三日さんじつの唯一ゆい者ものよ、信しんを以もつて爾なんじ獨一どくいつの神かみを歌頌かしょうする者ものを諸もろもろの誘惑いざないより救すくひて、爾なんじの光榮こうえいを見るみを得えしめ給たまへ。

今も

光明潔淨こうめいなる神けつじやうの聘女かみ童女よめ貞女どうていじよよ、我等われ愛あいを以もつて爾なんじを歌頌讚美かしょうす。蓋けだし三者さんびの一位いちい、光榮こうえい

の主ハリストスは二性二旨にして爾より生れ給へり。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は匹びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

移住者たるアウラアムは唯一の主、三位に於て人の形を以て現れしを待ふことを得たり。二次。光榮

嗚呼三日の主よ、爾の諸僕の心を近づき難き光に向はしめて、我が靈に爾の光榮の光照を與へ給へ、我等が爾の言ひ難き華美に輝かされん爲なり。

今も

至淨なる者よ、我が爲に爾の腹より生れし光の門を啓き給へ、我が神性の三光の輝煌を仰ぎて、爾至りて光明なる女宰を讚榮せん爲なり。

第六歌頌の後に坐誦讚詞、第三調。

主憐めよ、三次

我等は一性一體の神の三日の權柄を歌ひて、三聖の聲を以て呼ばん、聖なる哉、無原の父、聖なる哉同無原の子、及び聖神、唯一の分れざる我が神、萬有の造成者、人を愛する主や。

光榮、今も、生神女讚詞。

純潔なる少女よ、如何にして容れ難き者は爾の腹に宿り、神の變易せざる性の混淆或は分離に與らずして身を取り、人として現れたる、此れ至大なる奇跡なり。故に我等信を以て常に爾を生神女と傳へて崇め讚む。

第七歌頌

イルモス、昔敬虔なる三人の少者をハルデイの焰に涼しくせし如く、我等をも神性の明るき火にて輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらると呼べばなり。

第三調 主日の夜半課 五一三

第三調 主日の夜半課 五一四

主宰よ、爾の光を施す光線を以て、我を爾の三光の神性の殿、全く明にして、諸罪諸欲の暗に與らざる者と爲し給へ。吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

我等は父、子、聖神の三位、又其各位の本質に於て唯一の神性を傳へて呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。光榮

昔三位の神はアウラアムにマムブリイの椽の傍に現れて、懇に遠人を待ふ徳の報としてイサアクを賜へり。我等今も彼を吾が先祖の神として崇め讚む。今も

神の恩寵を蒙れる純潔なる生神女よ、造物主は神に宜しきが如く爾の至淨なる童貞の腹に由りて人と成り、地に現れて、我等を神成し給へり。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讚め揚げよ。

根よりするが如く、無原の父より同無原にして子は生じ、聖神は出でて、永在なる三位の神性の唯一の光榮と能力とを顯せり。我等衆信者は之を世世に崇め歌ふ。二次。

光榮

父、其像なる言、及び聖神よ、爾は己の輝煌にて天の品位に黙さずして三聖の歌を以て爾の三光同能なる權柄を歌はんことを慫む。故に我等爾を萬世に崇め歌ふ。

今も

女宰生神女よ、預言者は神に感ぜられて、遙かに爾の産を見て、種なく性に超えて生れし者を讚榮せり。我等も同心に彼を主と歌ひて、萬世に崇め讚む。

第九歌頌

イルモス、神に適ふ新なる奇跡や、主は顯に童貞女の閉せる戸を通り、入るときは無形の神にして、出づるときは人體を衣たる者となり、戸は元の儘閉せり。我等彼を神の母として、言ひ難く崇め讚む。

神に肖たる無形の品位は三光の光榮を見ん爲に上に飛び擧らんと欲すれども、甚近づき難き光を畏みて、絶えず歌を奉る。彼等と同心に我等は爾唯一なる三者を崇め讚む。二次。

光榮

主宰、萬有の神よ、我等地上の者は智識と言とある靈を爾より受けて、飽かせられぬ愛を以て全き心より爾實に一性なる三位を歌ふ。故に慈憐なる主よ、仁愛を以て我等を宥め給へ。今も

萬有の造成主よ、我等を唯一なる三光の神元の光明なる殿と爲し、潔く爾に奉事し

第三調 主日の夜半課 五一五

第三調 主日の早課 五一六

て、靈智の眼を以て爾の言ひ難き光榮を見るを得しめ給へ、唯一なる生神女の祈祷に由りてなり。我等宜しきに合ひて彼を至榮なる者として崇め讚む。

次にグリゴリイ シナイトの聖三讚歌、「爾神言を讚榮するは」、及び其他夜半課の式。本書の末に載す。



主日の早課

六段の聖詠の後に、

「主は神なり」に主日の讚詞、第三調、「天に在る者樂しめよ」。光榮、今も、生神女讚詞、「生神童貞女よ、我等は爾我が族の救の爲に」。次に常例の聖詠の誦讀。

第一の誦文の後に主日の坐誦讚詞、第三調。

ハリストスは寝りし者の初實として死より興き、造物に先だちて生れし者、萬物を造りし主は、我が族の朽ちたる性を己の内に改め給へり。死よ、爾は已に君たらず、萬有の主宰は爾の權を破りたればなり。

句、主我が神よ、起きて、爾の手を挙げよ、苦しめらるる者を永く忘るる勿れ。
主よ、爾は身にて死を嘗めて、爾の復活にて死の苦を斷ち、人を之に勝たん爲に固めて、初の詛を敗らしめ給へり。我が生命を衛る主よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

生神女よ、ガウリイルは爾が童貞の美しきと爾が潔淨の光れるとを奇として呼べり、如何なる爾に適ふ讚美を爾に獻げん、如何に爾を名づけん、我訝りて驚く。故に命ぜられし如く爾に呼ぶ、恩寵を蒙れる者、慶べよ。

第二の誦文の後に主日の坐誦讃詞、第三調。

主よ、地獄は爾の變易なき神性と自由なる苦とに驚きて、哭きて言へり、我不朽の肉體の合成に慄く、見えざる者が竊に我と戦ふを見る。故に我が執へたる者も呼ぶ、ハリストスよ、光榮は爾の復活に歸す。

句、主よ、我心を盡して爾を讚め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。

我等信者は十字架に釘せらるることの測り難き、復活の言ひ難き神聖なる奥義を傳ふ、蓋今死と地獄とは虜にせられ、人類は不朽を衣たり。故に我等感謝して爾に籲ぶ、ハリストスよ、光榮は爾の復活に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

第三調 主日の早課 五一七

第三調 主日の早課 五一八

生神女よ、爾は父および聖神と一體なる測り難く像り難き主を奥密に爾の腹に容れ給へり、我等は爾の産に由りて聖三者の惟一なる混淆せざる能力を世界に讚榮せんことを悟れり。故に感謝して爾に呼ぶ、恩寵を蒙れる者、慶べよ。

「ネポロチニ」の後に應答歌、第三調。

顯現にて驚かし、言語にて慰むる光明の天使は攜香女に言へり、何ぞ生ける者を墓に尋ぬる、墓を空しくせし者は興きたり。彼が朽壞を變へて親ら變らざる者なるを悟りて、神に謂へ、爾の所爲は何ぞ驚くべき、人の族を救ひ給ひしに因る。

品第詞、第三調。第一倡和詞、毎句復唱す。

言よ、爾はシオンの虜をワフィロンより引き出せり、我をも諸愆より生命に引き寄せ給へ。

南風の時に神聖なる涙を以て播く者は、喜を以て永生の穂を刈る。

光榮

聖神には凡の善き賜は屬す、蓋彼は父及び子と偕に輝き、萬物は彼に頼りて生き且動く。今も、同上。

第二倡和詞。

若し主諸徳の家を造らば我等徒に勞す、主靈を蔽はんに、誰も我等の城を破らざらん。

聖神の腹の果たる諸聖人は、父の子なると均しく、恒に爾ハリストスの子なり。

光榮

聖神に藉りて一切の聖事、一切の智慧は洞察せらる、蓋彼に縁りて萬物は生存す。
我等父及び言に於けるが如く彼に務めん、其神なればなり。

今も、同上。

第三偈和詞。

主を畏れて誠の道を行く者は福なり、生命の諸果を食はんとすればなり。
牧師長よ、爾の諸子が善業の枝を持ちて、爾の席を環れるを見て、樂しめよ。

光榮

聖神より凡の光榮の富は出で、彼より凡の造物に恩寵と生命とは賜はる。故に彼は父及び言と齋しく歌はるるなり。

今も、同上

提綱、第三調。

第三調 主日の早課 五一九

第三調 主日の早課 五二〇

諸民に言ふべし、主は王たり、故に世界は堅固にして揺かざらん。

句、新なる歌を主に歌へ、全地よ、主に歌へ。

「凡そ呼吸ある者」。句、「神を其聖所に讃め揚げよ」。主日の早課の福音經。

「ハリストスの復活を見て」。第五十聖詠。其他常例の如し。

主日の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

土を擬定して、罪を犯しし者の爲に汗の果として荆棘を出すことを命ぜし主、法に戻る手より身にて荆棘の冠を受けし者は、是れ吾が神なり。彼は詛を滅し給へり、光榮を顯したればなり。

苦に與る生ける身を受けしに因りて死を懼れし者は、死に勝ちて之を破る者と顯れたり、是れ吾が神なり。彼は殘虐者と戦ひて、衆人を己と偕に復活せしめ給へり、光榮を顯したればなり。

生神女讚詞

萬族は爾種なく生みし者を眞の生神女と讚榮す、蓋爾の聖にせられし腹に降りし者は是れ吾が神なり。彼は我等の爲に我等に肖たる者と爲りて、爾より神及び人として生れ給へり。

又十字架復活の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、人人よ、童貞女より我が救の爲に生れて、地の物を天の物と一に爲しし主に新なる歌を歌はん、彼光榮を顯したればなり。

つみ あい ざんぎやくしゃ どれい じんるい しんせい ち もつ あがな これ
罪を愛する残虐者に奴隷とせられし人類を、ハリストスは神聖なる血を以て贖ひ、之
あらた しんせい たま こうえい あらわ
を新にして神成し給へり、光榮を顯したればなり。
いのち ほうぞう し ゴく もの あまん し な せい ふし もの
生命の寶藏たるハリストスは死に屬する者として甘じて死を嘗め、性の不死なる者
ししや い たま こうえい あらわ
として死者を生かし給へり、光榮を顯したればなり。

又至聖なる生神女の規程、其冠詞は、生神女よ、我第三の歌を爾に奉る。第三調。

第一歌頌 イルモス同上

どうていじょ てんじよう およそ せい ちじよう もの とも じごく もの よろ かな なんじ み
童貞女よ、天上の凡の性は地上の者と偕に、地獄の者も、宜しきに合ひて、爾より身
と しゅ まえ ひざ かが あらわ
を取りし主の前に膝を屈む、彼光榮を顯したればなり。
しょうじょ おおい かな なんじ よ わぼく かみ ゆたか しょ おん ほどこ しゅ なんじ み と
少女よ、大なる哉爾に藉る和睦や、神として豊に諸恩を施す主は爾より身を取り

第三調 主日の早課 五二一

第三調 主日の早課 五二二

て、神聖なる神を我等に賜へり、光榮を顯したればなり。

カタワシヤ
共頌、「我が口を開きて」。

第三歌頌

イルモス、ことば つく せいしん そな ばんぶつ む いた しじよう ぜんのうしや
言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者
なんじ あい われ かた たま
よ、爾の愛に我を固め給へ。

ハリストスよ、なんじ じゅうじか もつ ふけんしや はずか けだしおとしあな ほ これ お
爾の十字架を以て不虔者は辱しめられたり、蓋 阱 を掘り、之を竣
みずか そのうち おちい けんび もの つの なんじ ふつかつ よ あ
へて、自ら其中に陥り、謙卑の者の角は爾の復活に藉りて擧げられたり。

ひと あい しゅ せいきやう でんどう しょみん こうふ みず うみ あふ ごと けだしなんじ ほか
人を愛する主よ、聖教の傳道が諸民に廣布するは水の海に溢るるが如し、蓋 爾は墓
ふつかつ せい さんしや ひかり あらわ たま
より復活して、聖三者の光を顯し給へり。

生神女讃詞

えいえん おう しゅ い まち こうえい こと なんじ おい つた じよさい なんじ よ
永遠に王たる主の活ける城邑よ、光榮の事は爾に於て傳へられたり、女宰よ、爾に藉
かみ ちじよう もの とも お
りて神が地上の者と偕に居りたればなり。

又

イルモス、しゅさい われら かため なんじ ちから もつ でき ゆみ お たて やぶ たま
主宰ハリストス、我等の防固よ、爾は力を以て敵の弓を折り、盾を壊り給
しゅ なんじ せい
へり。主よ、爾は聖なり。

しじよう じゅうじか なんじ じゃきやう けがれ きよめ あらわ けだしいた しんせい
至淨なる十字架よ、爾は邪教の汚穢の潔淨と現れたり、蓋至りて神聖なるイイス
なんじ うえ て たま
は爾の上に手を舒べ給へり。

いのち う はか われら しゅう しんじや なんじ ふくはい けだし わ まこと かみ なんじ
生命を受けし墓よ、我等衆信者は爾に伏拜すべし、蓋 ハリストス 我が眞の神は爾
うち ほうむ ふつかつ たま
の中に葬られて、復活し給へり。

又 イルモス同上

ハリストスよ、よげんしや い ごと ね つえ どうていじょ なんじはな
預言者の言ひし如く、イエッセイの根よりせし杖たる童貞女は爾花
もの われら ため ひら たま しゅ なんじ せい
たる者を我等の爲に發き給へり。主よ、爾は聖なり。

ち うま もの かみ たいごう ため なんじ どうていじょ われら にくたい う まず
地に生るる者を神に體合せしめん爲に爾は童貞女より我等の肉體を受けて、貧しく
たま しゅ なんじ せい
なり給へり。主よ、爾は聖なり。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

ハリストスよ、爾は慈憐に因りて瘡痕と毀傷とを受け、頬を批つ陵辱を忍び、恒忍にして唾せらるるを堪へ、此等を以て我が爲に救を成し給へり。主よ、光榮は爾の力に歸す。

至榮なる生命よ、爾は貧しき者を苦より、乏しき者を嘆より救はん爲に、死に屬する身にて死を受け、壞りし者を壞り、衆人を己と偕に復活せしめ給へり、光榮を顯

第三調 主日の早課 五二三

第三調 主日の早課 五二四

したればなり。

生神女讃詞

主ハリストスよ、爾の苦にて獲たる牧群を記念し、爾の至榮なる母の慈憐なる禱を受けて、迫害せらるる者を顧みて、爾の力を以て之を救ひ給へ。

又

イルモス、人を愛する主よ、爾の誕生の奧義は奇異にして言ひ難し。我爾の風聲を聞きて懼れ、且楽しみて爾に呼ぶ、光榮は爾の力に歸す。

人を愛する主よ、爾は己の像に循ひて人を造り、髑髏の處に十字架に釘せられて、其罪を犯すに因りて死せしを救ひ給へり。

主よ、爾墓より復活せしに、死は其呑みたる死者を還し、地獄の朽壞せしむる國は破られたり。

生神女讃詞

潔きマリヤ、黄金の香爐よ、聖三者の一なる神言は混淆なく爾の内に降り、身を取りて世界を薫らせ給へり。

又 イルモス同上

神聖なる智慧の測度を以て山を建てし主宰よ、爾は石として山たる童貞女より人の手に由らずして研られたり。人を愛する主よ、光榮は爾の力に歸す。

主宰言よ、爾は我等の病める性を醫し給へり、之に童貞女の内に於て最良き效能ある薬料たる爾の至淨なる神性を合せしを以てなり。

童貞女より身を取り、人と爲りて我に體合せし主言よ、爾は私の分なり、我が望む所の嗣業なり。

第五歌頌

イルモス、爾萬物を造りし主、悟り難き平安に、朝の禱を奉る、爾の誠は光なるに因りて、我に之を教へ給へ。

義を以て全地を審判する見ざる所なき主よ、爾はエウレイ人の媚嫉に因りて不義なる審判者に付されて、古のアダムを定罪より脱れしめ給へり。

死より復活せしハリストスよ、爾の十字架の勝たれぬ力を以て爾の平安を爾の諸教會に與へて、我が靈を救ひ給へ。

生神女讃詞

永貞童女よ、爾は獨萬物の中に容れられざる神の言を容れて、天より至りて宏き聖なる幕と顯れたり。

又

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘じて人人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。

第三調 主日の早課 五二五

第三調 主日の早課 五二六

嗚呼我がハリストスよ、爾は戈を以て脅を刺されて、人の肋骨より造られ、衆人の滅亡の縁由と爲りし者を詛より解き給へり。

性に於て父と同一なるハリストス、我が救世主よ、爾は至淨至尊なる爾の肉體の聖にせられし殿を死より復活せしめ給へり。

又 イルモス同上

童貞女よ、神の言たる爾の子、始めて造られシアダムの造成主は爾より己の爲に生ける身を造りたれども、造物に非ず。

童貞女よ、父と同一なる神の言たる爾の子主イエスは二性に於て完全なる一位、全き神及び人たるなり。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は匹びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

主宰よ、爾の仁慈なる降臨に因りて、慈憐と洪恩との淵は我を圍めり。蓋爾は身を取り、僕の形を受けて、我を神成して、己と偕に光榮を獲しめ給へり。

殺す者は殺されし主の生かされたるを見て、死に服せり。ハリストスよ、是れ爾の復活の表式、爾の至淨なる苦の勝利の記號なり。

生神女讃詞

智慧に超えて獨造成主及び人人の轉達者と爲りし至淨なる者よ、爾の子が罪を犯しし爾の諸僕に慈憐を垂れて、援助を施さんことを祈り給へ。

又

イルモス、イオナは地獄の住所に居る形像と爲りて呼べり、人を愛する主よ、我が生命を淪滅より引き上げ給へ。

爾は傷を受けて、地獄に傷つけられし者を十字架の苦に因りて己と偕に復活せしめ給へり。故に我爾に呼ぶ、人を愛する主よ、我が生命を淪滅より引き上げ給へ。

ハリストスよ、地獄の門は恐懼に因りて爾の爲に啓かれ、敵の器は劫さる。故に女等は爾を迎へて、悲に易へて喜を受けたり。

又 イルモス同上

形なき者は不朽なる童貞女より我等に肖たる身を受け、形及び物體と爲りて、神性

を易へずして人と現れ給へり。
至淨なる者よ、我を諸罪の淵及び諸慾の烈風より脱れしめ給へ。蓋爾は信を以て爾に趨り附く者の爲に港なり、奇跡の淵なり。

第三調 主日の早課 五二七

第三調 主日の早課 五二八

小讃詞、第三調。

慈憐なる主よ、爾は今墓より復活して、我等を死の門より升せ給へり。今アダムは樂しみ、エワは歡び、諸預言者は列祖と偕に絶えず爾の權柄の神聖なる能力を讚め歌ふ。

同讃詞

天地は今樂しみて、同心にハリストス神を讚め歌ふべし、彼が囚へられし者を墓より復活せしめしに囚る。萬物皆喜びて、萬有の造成主及び我等の贖罪主に宜しきに合ふ歌を奉る。蓋彼は今生命を施す主として、人人を地獄より升せて天に擧げ、敵の傲慢を墜し、己の權柄の神聖なる能力を以て地獄の門を破り給ふ。

第七歌頌

イルモス、昔敬虔なる三人の少者をハルデイの焰に涼しくせし如く、我等をも神性の明るき火にて輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらると呼べばなり。造物主の十字架に釘せらるる時、殿の美しき幔は裂けて、聖書に隠れたる眞理を信者に顯せり。故に彼等呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。ハリストスよ、爾の脅の刺されしに、爾は、定制に由りて、地に滴る生命を施す神聖なる血の点滴を以て、地より造られし者を改め造り給へり。故に彼等呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

聖三者讃詞

我等信者は善なる神を父及び獨生の子と偕に讚榮し、三位の中に唯一の元、唯一の神性を尊みて呼ばん、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

又

イルモス、驕れる苛虐者は少者の玩具と爲れり。蓋彼等は七倍燃されたる焰を塵の如く履みて歌へり、主我が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。日は十字架に懸れる者の凡庸の人に非ずして肉體を取りし神なるを見て晦みたり。我等彼に歌ふ、主我が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。地獄は神性の堅固なる主、不朽を賜ふ者を受けて、恐れて義者の靈を吐き出せり。蓋彼等呼べり、主我が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

生神女讃詞

至淨なる者よ、潔き心を以て爾を神の母と承け認むる者り爲に爾は祝福の最尊き寶藏と顯れたり、蓋爾より我が先祖の神は身を取り給へり。

又 イルモス同上

第三調 主日の早課 五二九

光榮の主、天上の軍を其權内に持つ者、父と偕に坐する者は童貞女の手を抱かる。
 主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。
 死は猛烈なれども、爾に附きたれば、爾之を滅せり、童貞女より神性に合せられたる身を取りたればなり。主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。
 我等皆爾神を生みし者を生神女と知れり、三者の一位、爾より身を取りし者を生みたればなり。至淨なる者よ、爾の腹の果は祝福せられたり。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。
 爾の十字架の髑髏の處に樹てられしに、殿の裝飾は裂かれ、造物は恐懼に由りて傾きて歌へり、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。
 ハリストスよ、爾は墓より復活して、木に縁りて誘はれて陥りし者を神聖なる力を以て改め給へり。故に彼呼びて云ふ、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

生神女讃詞

至淨なる神の母よ、爾は神の殿、活ける居處、及び約匱と顯れたり、爾は造物主を人人と和げ給へり。我等悉くの造物は宜しきに合ひて爾を歌ひて、萬世に崇め讃む。

又

イルモス、敬神の少者は無形の火にて物質の火の焰を滅して歌へり、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。
 神の言は苦を受けざりき、神の性は苦に與らざる者なればなり、神は人體にて苦を受け給へり。我等彼に歌ふ、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。
 救世主よ、爾は死に屬する者として寝ね、不死の者として復活して、歌ふ者を死より救ひ給ふ、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

聖三者讃詞

我等は敬虔を抱きて三位なる神性、言ひ難く合せらるる者に奉事して歌ふ、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

又 イルモス同上

爾は母として無形の品位に超えて神に近くなり給へり。恩寵を蒙れる童貞女よ、我等爾の産を祝讃して、萬世に崇め讃む。

爾の本性の華美は至りて美しくして、其輝煌は神性の肉體なり。恩寵を蒙れる童貞女よ、我等爾の産を祝讃して、萬世に崇め讃む。

次ぎて生神女の歌、「我が靈は主を崇め」、附唱と共に、「ヘルウィムより尊く」。

第九歌頌

イルモス、神に適ふ新なる奇蹟や、主は顯に童貞女の閉せる戸を通り、入るときは無形の神にして、出づるときは人體を衣たる者となり、戸は元の儘閉せり。我等彼を神の母として、言ひ難く崇め讃む。

神の言よ、爾造物主が木に擧げられ、神が諸僕の爲に身にて苦を受け、氣息なくして墓に臥し、死者を地獄より解き給ひしを見るは畏るべき哉。故にハリストスよ、我等爾を全能者として崇め讃む。

ハリストスよ、爾は死者として墓に置かれて、列祖を死の朽壞より救ひ、生命の花を發きて、死者を復活せしめ、人の性を光に導き、神聖なる不朽を之に衣せ給へり。故に我等爾を永在の光の泉として崇め讃む。

生神女讃詞

純潔なる者よ、爾は神の殿及び寶座と現れたり、至上者は之に入り、夫なく爾より生れて、爾の體の門を啓かざりき。故に潔き者よ、爾の息めざる祈禱を以て諸敵を速に我が皇帝に服せしめ給へ。

又

イルモス、潔き者よ、我等は爾の至淨なる産に欣ばしく感ぜられ、爾の慕はしき美德を奇として、天使の歌を以て宜しきに合ひて爾を神の母として崇め讃む。

ハリストスよ、爾は尊からざる死より衆人に尊きを流し、十字架に釘せらるるに因りて死に屬する性を以て死を嘗めて、我に不朽を賜へり、人を愛する主なればなり。

ハリストスよ、爾は墓より復活して我を救ひ、我を升せて、爾の父に攜へ、彼と偕に其右に坐せしめ給へり、爾の仁慈の至大なるに因りてなり。

又 イルモス同上

童貞女よ、敬虔なる信者は爾を讃美して飽くことを知らず。神聖なる望より望に進みて、我等常に爾を神の母として崇め讃む。

ハリストスよ、爾は我等の爲に愧を得ざる轉達者として爾を生みし者を賜へり。彼の祈禱に因りて、爾は我等に宏恩を施す仁慈なる神、父より爾に縁りて出づる主を與へ給ふ。

第三調 主日の早課 五三三

第三調 主日の早課 五三四

カタワシヤ

共頌の後に小聯禱。次ぎて、主我等の神は聖なり、及び光耀歌。

「凡そ呼吸ある者」に主日の讃頌。第三調。

句、彼等の爲に記されし審判を行はん爲なり、斯の榮は其悉くの聖人に在り。

萬民來りて、畏るべき奧密の力を悟れ、蓋ハリストス吾が救世主、太初より有る言は、我等の爲に十字架に釘せられ、甘じて葬られ、死より復活せり、萬有を救はん爲なり。我等彼に伏拜せん。

句、神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。
主よ、爾の番兵は具に奇跡を告げたれども、虚しき集會は彼等の手に賄賂を充てて、
爾の復活、世界が讃榮する者を隠さんと思へり。我等を憐み給へ。

句、其權能に依りて彼を讃め揚げよ、其至嚴なるに依りて彼を讃め揚げよ。
復活の證明を受けて、皆歡喜に充たされたり、蓋マリヤ「マグダリナ」墓に來りて、石
に坐する衣の輝ける天使に遇へり、彼言へり、何ぞ生ける者を死者の中に尋ぬる、此
に在らず、其言ひし如く復活し、爾等に先だちてガリレヤに往く。

句、角の聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。
人を愛する主宰よ、我等爾の光に於て光を觀ん、蓋爾は死より復活して、人類に救
を賜へり、悉くの造物が爾獨罪なき者を讃榮せん爲なり。我等を憐み給へ。

又讃頌、アナトリイの作。同調。

句、鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。
主よ、攜香女は涙を垂れて、朝の歌を爾に獻げたり。蓋芳しき香料を攜へて、爾
の墓に至り、爾の至淨なる體に傳らんと欲せり。然れども石に坐する天使は彼等に
福音せり、何ぞ生ける者を死者の中に尋ぬる、彼は死を滅して、神として復活し、衆
に大なる憐を賜へり。

句、和聲の鉞を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鉞を以て彼を讃め揚げよ。凡そ呼吸ある者
は主を讃め揚げよ。
生命を施す爾の墓に於て光れる天使は攜香女に謂へり、贖罪主は墓を空しくし、地獄
を虜にして、三日目に復活せり、獨神及び全能者なればなり。

句、主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。
七日の首の日、マリヤ「マグダリナ」來りて、爾を墓に尋ねしに、遇はずして、哭
きて呼べり、我が救世主よ、哀しい哉、衆の王よ、爾は竊まれたり。生命を報ずる二
の天使は墓の中より彼に呼べり、婦よ、何ぞ哭ける、彼曰ふ、我哭く、蓋人我が主
を墓より取れり、我其何處に彼を置きしを知らず。此を言ひて、顧みて爾を見て、直

第三調 主日の早課 五三五

第三調 主日の聖體禮儀 五三六

に呼べり、我が主、我が神よ、光榮は爾に歸す。
句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。
エウレイ人は生命を墓に閉せり、然れども盜賊は舌を以て樂を啓きて、呼びて曰へ
り、私の爲に我と共に十字架に釘せられ、我と共に木に懸りたる者は、父と共に寶座
に坐する者として我に現れたり、蓋彼はハリストス我等の救主、大なる憐を有つ者
なり。

光榮、福音の讃頌。

今も、生神女讃詞、「生神童貞女よ、爾は至りて讃美たる者なり」。

大詠頌。次ぎて讃詞。

いますくい せかい およ われら はか ふっかつ わ いのち かしら しゅ うた その し し
今救は世界に及べり。我等墓より復活せし吾が生命の首なる主に歌ふ、其死にて死
ほろぼ われら しょうり おおい じれん たま
を滅し、我等に勝利と大なる慈憐とを賜へばなり。

聯禱及び發放詞。



リトゥルギヤ
聖體禮儀には眞福詞、第三調。

ハリストスよ、爾は誠なんじ いましめ そむ げんそに背きし原祖らくえんアダムを樂園より逐ひ出せり。然れども爾、洪恩お いだなる主よ、十字架しかに在りて爾を承け認めし盜賊、救世主よ、爾の國なんじに於て我を憶ひ給へと呼ぶ者を其中こうおんに入れ給へり。

句、心の清き者は福さいわいなり、彼等神を見んとすればなり。

生命を賜ふ主よ、爾は罪を犯しし我等を死の詛なに定めたり。然れども爾、罪なき主宰しゅさいよ、爾の體なんじにて苦を受けて、死すべき人人、我等をも爾の國なんじに於て憶ひ給へと呼ぶ者を活かし給へり。

句、和平を行ふ者は福さいわいなり、彼等神の子と名づけられんとすればなり。

主、救世主よ、爾は死より復活して、其復活を以て我等を諸の苦くるしみより復活せしめ、死の悉くことごとの力を滅し給へり。故に我等信を以て爾に呼ぶ、我等をも爾の國なんじに於て憶ひ給へ。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福さいわいなり、天國は彼等の有なればなり。

爾は神なるに因りて、爾の三日の葬ほうむりを以て地獄じごくに在る殺されし者ものを活かして、己と共に起し、仁慈なるに因りて、我等衆人、恒に信を以て爾に、我等をも爾の國なんじに於て憶ひ給へと呼ぶ者に不朽ふきゆうを流し給へり。

句、人我の爲に爾等を語り、窘逐し、爾等の事を譎りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福さいわいなり。

ハリストス救世主よ、爾は死より復活して、先づ攜香女けいこうじよに現れて、慶べよと呼び、

第三調 主日の聖體禮儀 五三七

第三調 主日の聖體禮儀 五三八

且彼等を以て爾の友に爾の復活を報らせ給ふ。故に我等信を以て爾に呼ぶ、我等をも爾の國なんじに於て憶ひ給へ。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

モイセイは山の上やまに手を伸べて、十字架を預象して、アマリクあまくに勝てり。我等皆信を以て之を悪鬼あくきに對する堅固なる武器として受けて呼ぶ、我等をも爾の國なんじに於て憶ひ給へ。

光榮

我等信者は父と子と聖神、唯一の神、唯一の主を崇め歌ふ。聖三者は獨一の日より三光の輝くが如く、我等衆を照し給ふ。故に我等呼ぶ、我等をも爾の國なんじに於て憶ひ給へ。

今も、生神女讃詞

神の門よ、慶べ、身を取りし造物主は此に藉りて出でて、其封印を損はざりき。神聖の雨たるハリストスを抱く軽き雲よ、慶べ、階梯及び天の寶座よ、慶べ、樹蔭繁き斫られざる尊き神の山よ、慶べ。

提綱、第三調。

我が神に歌ひ歌へよ、我が王に歌ひ歌へよ。

句、萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ。

「アイルイヤ」、主よ、我爾を恃む、願はくは我世世に差を得ざらん。

句、我が爲に堅固なる避所となりて、我に常に隠るるを得しめ給へ。



主日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に傷感の讃頌、第三調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

天の父よ、我大に罪を犯し、爾本性の仁慈慈憐なる主宰を悲しましめて、今爾に歸る者を蕩子の如く受けて、爾が傭人の一と爲し給へ。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

我不當の者は懶惰を極めて度生し、既に生命の終に近づきて我を待つ審判及び神より遠ざけらるることを思はず。救世主よ、我を反正せしめて、此等より脱れしめ給へ。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

至善の主よ、我が卑微なる靈を「ゲエンナ」及び切齒より、其他凡の永遠の苦より脱れしめ給へ、我が信を以て爾本性の慈憐仁愛なる神を歌はん爲なり。

次に月課經の聖人の讃頌。光榮、聖人の、今も、生神女讃詞。若し月課經なくば、

第三調 主日の晩課 五三九

第三調 主日の晩課 五四〇

聖なる無形軍の讃頌、同調。

句、願はくはイブライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイブライリを其悉くの不法より贖はん。

主よ、爾は衆に爾が仁慈の富を顯して、無形の品位を造り、今黙さざる聲を以て智慧に超ゆる爾の光榮を讃榮する者を無より有と爲し給へり。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

主宰ハリストスよ、爾の天使の能力は大なり。彼等は無形にして世界を巡りて、爾より受けし能力を以て諸教會を護り、且爾に全地の爲に祈る。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

爾に奉事する天軍は爾の獨一なる三日の華美を見て、世界に居る者の爲に第二の光と現れ、齊しく輝きて、我等に神聖なる光明を賜ふ。

光榮、今も、生神女讃詞。

萬物を宰制する至淨なる者よ、我靈の諸慾に厲しく制せらるる者を爾の熱心なる轉達及び母の祈禱を以て釋きて、爾の子及び神に服役せしめ給へ。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。「主よ、我等を守り」

挿句に傷感の讃頌、第三調。

ハリストスよ、我等は暮の歌を香爐及び屬神の詩賦と共に爾に奉る、我等の靈を憐みて救ひ給へ。

句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

主我が神よ、我を救ひ給へ、爾は衆人の爲に救なればなり。諸慾の烈風は我を擾し、我が不法の重負は我を溺らす。我に援助の手を授けて、我を痛悔の光に升せ給へ、爾獨慈憐にして人を愛する主なればなり。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に壓き足れり。我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮とに壓き足れり。

主よ、爾の十字架の能力は大なり、蓋一の處に建てられて、全世界に行動し、漁者の中より使徒、異邦人の中より致命者を現して、我等の靈の爲に祈らしむ。

光榮、今も、生神女讃詞。

生神女、爾に祈る衆人の轉達者よ、我等爾に因りて勇を得、爾を以て誇と爲す、我が悉くの倚賴は爾に在り、爾より生れし者に爾の不當なる諸僕の爲に祈り給へ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞及び發放詞。



第三調 主日の晩課 五四一

第三調 主日の晩堂課 五四二

主日の晩堂課

至聖なる生神女に奉る祈禱の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

獨大名にして至聖なる童貞女マリヤ、ヘルワイムより尊榮なる者、ダワイドの女、イアコフの榮、我が神の母よ、爾の光榮は極めて大なり。我等皆信を以て爾を讃榮す。

いさぎよ もの なんじ ことば もつ てん まく ごと は しゅ ひと ごと なんじ て いた かれ
潔き者よ、爾は言を以て天を幔の如く張りたる主を人の如く爾の手に抱きたり。彼
に我が 靈を無知なる諸慾及び 諸の憂患より脱れしめんことを常に祈り給へ。

光榮

よよ さきき よてい どうていじょ いた いさぎよ しこんい もの こうえい おう すえ とき
世の先より預定せられし童貞女、至りて潔き紫袞衣なる者よ、光榮の王は末の時
に於て爾を衣て、原祖アダムの皮の衣を掩ひ給へり。祈る、今我をも掩ひ給へ。

今も

どうていじょ なんじ は 堪へ 難き 火たる ハリストス を 生みて、 人類を 朽壞せしめし 古の 罪を 潤
せり。祈る、爾の 祈禱を以て我が 靈の 諸慾の 流を 潤し給へ。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者
よ、爾の愛に我を固め給へ。

いさぎよ もの じんじ ていせい よ ばんゆう しゅさい なんじ こ な ゆえ じよさい
潔き者よ、仁慈なる定制に因りて萬有の主宰は爾の子と名づけられたり。故に女宰
よ、爾の祈禱を以て我を諸慾の奴役より救ひ給へ。

すくい みなとおよ むよく いずみ う しじょう もの われ なんじ ぼく すみやか にくよく あらし のが
救の港及び無慾の泉を生みし至淨なる者よ、我爾の僕を速に肉慾の烈風より脱れ
しめ給へ。

光榮

しじょう もの なんじ い ひかり いた こうめい ともしび な せかい てら いの
至淨なる者よ、爾は入らざる光の至りて光明なる燈と爲りて、世界を照せり。祈
る、爾の光線にて我が 靈の雲を拂ひ給へ。

今も

いのち たま いた がた う じよさい われ おお あくよく よ たましい ししゃ
生命を賜ふハリストスを言ひ難く生みし女宰よ、我多くの悪慾に因りて靈の死者と
爲りし者を活かし給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり。我等の爲に爾の獨生子を死に付した
ればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

第三調 主日の晩堂課 五四三

第三調 主日の晩堂課 五四四

にくたい おもい たたかい われ せ わ たましい トラ およそ ちえ こ わへい う じよさい
肉體の意念の戦は我を攻めて、我が 靈を執ふ、凡の智慧に超ゆる和平を生みし女宰
よ、爾の和平を我に與へ給へ。

しじょう もの なんじ しん れい こうりょう はら せかい ため なが ゆえ わ たましい しよよく けがれ
至淨なる者よ、爾は神靈の香料を腹より世界の爲に流せり。故に我が 靈を諸慾の汚
より潔めて、爾の祈禱を以て無慾の香料を我に與へ給へ。

光榮

われ なんじ いのち かみびと い こがね つぼ し いの きかつ
我爾の生命の「マンナ」たる神人ハリストスを容れし黄金の壺と知りて祈る。飢渴
に苦しめる吾が 靈を養ひて、恩寵の流を飲ましめ給へ。

今も

エワは先に不節制に因りて死を世に入れ爾は潔き童貞を以て眞の生命を入れたり。
故に爾の祈禱を以て我を罪の死より救ひ給へ。

第五歌頌

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘

じて人人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。
童貞女よ、我等の爲に救と爲りし爾の子は衆を朽壞より救ひ給へり。故に我を肉體
の意念及び諸慾の攻撃より救ひ給へ。

人を潔めし熾炭の鉗たる生神女よ、爾の祈禱の火を以て我が諸慾の思の荆棘を焚
き盡し給へ。 **光榮**

爾は仁愛に因りて我等の爲に屠られし神聖なる犢を生みし神の牝牛なり。彼の神聖
なる血を以て我が心を潔め給へ。 **今も**

我が先に得たる諸徳の美しき衣は我が懶惰に因りて剥がれたり。童貞女よ、爾は今爾
の祈禱に因りて更に美しきを我に衣せ給へ。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は**ハリス**とす。祈る、主宰教導者よ、爾
の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

凶悪者の甚しき攻撃は我が靈の殿を動かせり。地を水の上に建てたる**ハリス**
を生みし者よ、爾の祈禱を以て之を堅め給へ。

爾は最貴き眞珠を生みて、地上の者の債を解きたり。故に至淨なる者よ、速に我が罪
と慾と憂との縲紲を解き給へ。 **光榮**

爾の胎より生れし至善なる神は爾を信者の爲に避所及び神聖なる庇覆として與へた
り。故に至淨なる者よ、我をも爾の手にて覆ひて護り給へ。 **今も**

不當なる我屢度生の浪に危く溺らされ、常に悪敵の攻撃に荒らさるる者は今爾に

第三調 主日の晩堂課 五四五

第三調 主日の晩堂課 五四六

よ呼ぶ、生神女よ、我を援け給へ。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

坐誦讚詞、第三調。

言の神聖なる幕と爲りし獨一至淨なる童貞女母、潔淨を以て諸天使に超えたる者よ、
我衆人に超えて肉體の罪に汚されたる者を爾の祈禱の神聖なる水を以て潔めて、我
に大なる憐を與へ給へ。

第七歌頌

イルモス、昔敬虔なる三人の少者を**ハルデイ**の焰に涼しくせし如く、我等をも神性
の明るき火にて輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼べばなり。

詭譎なる悪鬼の會及び多くの肉慾は我を圍めり。戦に堅固なる**ハリス**を生みし
者よ、我を甚しき憂患及び厲しき攻撃より救ひ給へ。

潔き者よ、ヘルウィムの性の近づき難く、天使の品位の畏るべき唯一の主は爾の内
に入りて、我等を新にし給へり。女宰よ、彼に藉りて我を見えざる敵の爲に畏るべ
き者と顯し給へ。

光榮

童貞女よ、爾は生命の樹を生ぜし神靈の樂園と爲れり、アダムは之ら與りて死の果より救はれたり。故に我をも今楽しまして、諸慾の糧より脱れしめ給へ。

今も

人人の爲に救主を生み、我が先祖の神の聖にせられたる殿と爲りし者よ、我を肉慾の汚及び悪鬼の誘より脱れしめ給へ。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

世界に晝と夜との大なる光體を造りし光の雲なる神の母よ、爾の光線を以て我が諸慾諸罪の黒暗を悉く拂ひて、我を光の子と爲し給へ。

生神女よ、天より爾の腹に降りし雨を以て我が靈及び我が心を濡して潔め、諸の慾と愁との炎を滅し給へ、我が熱心にして爾を萬世に讃榮せん爲なり。

光榮

潔き者よ、爾は天地の萬性を無より造りし神の睿智を言ひ難く生み給へり。其言を以て我に智慧と智識とを與へ給へ、我が常に爾の神聖なる産を歌はん爲なり。

今も

世界の女宰よ、爾の祈祷に由りて我が靈體の濕され、我が諸罪の疾及び悪慾より速

第三調 主日の晩堂課 五四七

第三調 主日の晩堂課 五四八

に脱れんことを求めて爾に祈る、爾は衆人の醫治なればなり。

第九歌頌

イルモス、モイセイはシナイ山に於て棘の中に、爾を焚かれずして神性の火を胎内に孕みし者として觀、ダニエルは爾を截られざる山として觀、イサイヤは芽を萌しし杖、ダウイドの根より出でし者なりと呼べり。

潔き者よ、爾は神聖なる織機なり、之に藉りて聖神はハリストスの爲に衣たる肉體を織り給へり。祈る、爾の祈祷に由りて我に潔淨の衣を衣せ給へ。

神靈の葡萄、我等に不朽の酒を飲ましむる神聖なる房を生ぜし者よ、爾の祈祷を以て我が靈の爲に傷感と潔淨の酒とを流し給へ。

光榮

潔くして聖なる婚筵の宮、其中に神が神性を以て人性に配合せし者よ、爾に祈る、爾の祈祷を以て我を爾の子に合せて、神聖なる生命に與らしめ給へ。

今も

童貞女よ、爾は不朽の泉たるハリストスを生みて、人性の朽壞の草場を變化せり。祈る、爾の祈祷を以て、我を焦し我を擾す諸慾の猛烈なるを殺し給へ。

次ぎて「常に福にして」、及び躬拜。聖三祝文。「天に在す」の後に諸讚詞。其他常例の如し、並に發放詞。



月曜日の早課

第一の誦文の後に傷感の坐誦讃詞、第三調。

吾が靈よ、地上に在る時に痛悔せよ、蓋塵は墓に在りて歌はず、罪過より救はず。ハリストス神に呼べ、心を知る主よ、我爾の前に罪を犯せり、神よ、我を定罪せざる先に我を宥め、我を憐み給へ。

句、主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ。

吾が靈よ、罪過の中に在りて何の時に至るか、痛悔を延ばして何の時に至るか。將來の審判を念に抱きてハリストス神に籲べ、心を知る主よ、我罪を犯せり、罪なき主よ、我を憐み給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

生神女よ、ガウリイルは爾が童貞の美しきと爾が潔淨の光れるとを奇として呼べり、如何なる爾に適ふ讚美を爾に獻げん、如何に爾を名づけん、我訝りて驚く。故

第三調 月曜日の早課 五四九

第三調 月曜日の早課 五五〇

に命ぜられし如く爾に呼ぶ、恩寵を蒙れる者、慶べよ。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

畏るべき審判には我罪する者なきに攻められ、證する者なきに定罪せらる、蓋良心の書は啓かれ、隠れたる所爲は顯る。神よ、此の公衆の觀る所に我が行ひし事を糾さざる前に我を潔め、我を救ひ給へ。

句、主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ。

主よ、爾は我が諸罪の深處を知る。ペトルに於けるが如く、我に援助の手を授けて、我を救ひ給へ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

致命者讃詞

至りて讚美たる受難者よ、爾等の忍耐の勇敢は悪敵の詭計に勝てり、故に爾等は永遠の福を獲たり。眞理の證者よ、ハリストスを愛する人人の群を救はんことを主に祈り給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

マリヤ・童貞女・母、聖なる山、エデムの樂園たる者よ、慶べ、爾よりハリストス神、種なき言、世界の爲に生命を生ぜし主は生れ給へり。

第三の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

嗚呼至りて義なる審判者よ、我等が爾の偏頗なき審判座、神聖なる審判の前に立ち、天軍も慄きて爾の前に立たん時、我如何にして其時爾の前に現れん、我が所爲は

ていざい およ ひ あた いの なんじ てん しら きとう よ そのとき われ なた われ すく たま
定罪及び火に當る。祈る、爾の天使等の祈祷に由りて、其時我を宥め、我を救ひ給へ。

しゅさい なんじ ぜんのうしや ことば もつ てん ち ばんぶつ つく てん し ひんい おのの なんじ まえ
主宰よ、爾は全能者として言を以て天地の萬物を造れり。天使の品位は慄きて爾の前に立ち、爾に息めざる讚美を奉りて、爾の光を以て地の四極を照す。彼等と偕に我等も爾に呼ぶ、爾の慈憐に由りて我等を救ひ給へ。

光榮、今も、生神女讚詞。

どうていじょ なんじ こうさく ぶどう き いた うるわ ふさ しゅう れいたい たの
童貞女よ、爾は耕作せられざる葡萄の樹として、至りて美しき房、衆の靈體を樂しましむる救の酒を我等に流す者を生ぜり。故に我等常に爾を諸福の縁由として讚美して、天使と偕に爾に呼ぶ、恩寵を蒙れる者、慶べよ。

傷感の規程、我が主イイスス ハリストス及び其聖なる致命者に奉る。イオシフ師の作。第三調。

第一歌頌

イルモス、主よ、爾は海を分ちて、ファラオンの兵車を深處に掩ひ、歌を以て爾

第三調 月曜日の早課 五五一

第三調 月曜日の早課 五五二

ほ あ なんじ すす たま
を讚め揚ぐるイスラエリ民を救ひ給へり。
つみ しゅ わ おんち せいじん くらやみ われ のが むかし いんぶ おい
罪なき主よ、我が無智にして行ひし諸罪の黒暗より我を脱れしめて、昔淫婦に於てせし如く、我に傷感の涙を與へ給へ。

あまん ほらあな うま じんあい しゅ われ ふとう おこない よ どうぞく そうくつ な もの しょうとく
甘じて洞窟に生れし仁愛の主よ、我不當の行に因りて盜賊の巢窟と爲りし者を諸徳に因りて爾の殿と爲し給へ。 致命者讚詞

かみ かん ちんめいしや なんじら せいしん みちびき よ くるしみ あらし とお しんせい
神に感ぜらるる致命者よ、爾等は聖神の指導に依りて苦の烈風を過りて、神聖なる港に到れり。 致命者讚詞

さんび ちんめいしや なんじら せいしん おんちよう てら よろこ じゃきよう いと ふか くらやみ のが
讚美たる致命者よ、爾等は聖神の恩寵に照されて、喜びて邪教の最深き黒暗より脱れたり。 生神女讚詞

つみ おか もの たすけ おちい もの あらため しせい しけつ どうていじょ われ たざい もの しょうかん
罪を犯しし者の扶助、陥りし者の更新たる至聖至潔なる童貞女よ、我多罪の者に傷感の痛悔を與へ給へ。

又聖なる無形天軍の規程。其冠詞は、無形軍に第三の歌を奉る。フェオファンの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、人人よ、童貞女より我が救の爲に生れて、地の物を天の物と一に爲しし主に新なる歌を歌はん、彼光榮を顯したればなり。

むげん ひかり ばんぶつ てら かみ なんじ ぐん てんたつ よ わ おもい てら たま
無原の光にして萬物を照すハリストス神よ、爾の軍の轉達に因りて我が思念を照し給へ。

きゅうせいしゅ てん し ひんい てん し よろ ごと なんじ いた ゆたか おんちよう あずか よろこ
救世主よ、天使の品位は天使に宜しきが如く爾の至りて豊なる恩寵に與るを悦びて、奥密に爾の美しき光明に輝かさる。

いのち ほどこ しょうん たま ぜん しん ちち いた しゅ しんせい おんちよう もつ てん ぐん かた
生命を施し、諸恩を賜ふ善なる神、父より出づる主は神聖なる恩寵を以て天軍を堅

めて、善の動かざる者と爲し給へり。

生神女讃詞

無形の品位の首長、光榮なるガウリイルよ、今も歡喜の聲を以て恩寵を蒙れる者に呼べ、純潔なる者よ、慶べ。

第三歌頌

イルモス、獨慈憐の深き主よ、我を固めよ、ペトルに於けるが如く、我に手を伸べて、我を救ひ給へ。

人を愛する主よ、溺るるペトルを救ひし如く、斯く我をも我が罪惡の深處より引き上げ給へ。

詭譎の者は諸慾を以て我を殺せり。生を施す主よ、爾は痛悔を以て我を活かし給へ。

致命者讃詞

第三調 月曜日の早課 五五三

第三調 月曜日の早課 五五四

致命者は非義に有形の火を以て焚かれて、無形にして無形の光を慕ふ望を以て燃えたり。

致命者讃詞

致命者は裂かれて、詭譎の者の惡謀及び殘虐を空しくなして、榮冠を獲たり。

生神女讃詞

女宰マリヤよ、我靈を滅す多くの慾に縛られたる者を爾の祈禱を以て解き給へ。

又

イルモス、主宰ハリストス、我等の防固よ、爾は力を以て敵の弓を折り、盾を壞り給へり。主よ、爾は聖なり。

至善なる主よ、爾は奧密に爾の無形の光明にて輝ける天使の品位を爾の仁慈を流す河と顯し給へり。

主宰ハリストスよ、爾は己の仁慈と能力との富を顯さん爲に靈智なる軍を造りて、爾の光榮に與る者と爲し給へり。

ハリストスよ、爾は奉事する輝ける天使の軍は慄きて爾の前に立ちて、常に爾の無量なる能力を崇め歌ふ。

生神女讃詞

神の母よ、全き人の主宰は本性を易へずして爾より全き人を受けて、爾を恩寵の泉と顯し給へり。

第四歌頌

イルモス、主よ、豈爾は河に向ひて怒るか、河に向ひて爾の憤を洩らすか、或は海に向ひて爾の怒を發するか。

主よ、我が慾の縲紲を解き、痛悔を以て我を縛りて、爾の福に與る者と爲し給へ。日たるハリストスよ、我に痛悔の光明なる模式を輝かして、我が惡の深き夜を除き給へ。

致命者讚詞

睿智なる受難者よ、爾等は熾炭の如く邪教を焚きて、黒暗に居る人人を照す者と顯れたり。

致命者讚詞

致命者よ、爾等はハリストスの死の状に效ひて己を種種の苦に委ねたり、故に神聖なる生命を嗣ぎ給へり。

生神女讚詞

罪を犯す者の轉達者なる潔き者よ、我に實の痛悔を與へて、我が諸慾の煩擾を鎮め給へ。

又

イルモス、人を愛する主よ、爾の誕生の奥義は奇異にして言ひ難し。我爾の風聲を聽

第三調 月曜日の早課 五五五

第三調 月曜日の早課 五五六

きて懼れ、且樂しみて爾に呼ぶ、光榮は爾の力に歸す。

三日の光明を受けて輝ける雲たる天軍は三位の神の意旨を以て造られて、聖神の力を以て宰らる。

救世主よ、天使等は世界に爾を信ずるを望む者に守護者として遣されて、爾の敬虔なる諸僕を護りて、彼等の救を助く。

天使等は爾に近づくに由りて奥密に爾の神元の光に照されて呼ぶ、人を愛する主よ、光榮は爾の力に歸す。

生神女讚詞

純潔なる者よ、我僕として祈りて今爾の帡幪の下に来る。神の母、無慾の縁由なる主を生みし者よ、我を諸慾の煩擾より脱れしめ給へ。

第五歌頌

イルモス、ハリストス神よ、爾の暮れざる光にて我が謙卑の靈を照して、爾を畏るる畏に導き給へ、爾の誠は光なればなり。

人を愛する主よ、爾の審判に於て我を善行に裸體なる者として立たしむる勿れ、痛悔を以て神聖なる業の衣を我に衣せ給へ。

我諸慾の武器に傷つけられて、失望の坎に陥りたり。主宰よ、我を棄つる勿れ、滅匹の坎より出して我を醫し給へ。

致命者讚詞

受難者よ、爾等は鐵塔にて厲しく搔かれ、瘡痕にて苦しめられ、劍にて殺されしに、偶像の前に膝を屈めざりき。

致命者讚詞

聖なる致命者よ、世界は常に爾等の種種の苦を崇めて仰ぎ見る、此等に由りて爾等は天上に天使等と偕に居るを得たればなり。

生神女讚詞

獨言に縁りて地上に身を以て神の言を生みて童貞女に止まりし者よ、我を無知の行より脱れしめ給へ、我が尊き言を以て爾を讃め歌はん爲なり。

又

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘
じて人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。

信者よ、我等父と、子と、聖神との三光の光に照されて、天使の軍と共に惟一なる神
を崇め歌はん。

天使の品位は神性の入らざる光に照され、自らも輝ける燈と爲りて、豊に神の恩寵
を地上の者に傳ふ。

聖神の恩寵に輝けるセラフィム等は黙さざる聲を以て三聖の歌を神に奉りて、我等
に無原なる一性一體の三者を尊まんことを教ふ。

第三調 月曜日の早課 五五七

第三調 月曜日の早課 五五八

生神女讃詞

至りて潔き生神女よ、天使首ガウリイルは天より降りて、生を施す主を種なく生
まんことを爾に福音せり。

第六歌頌

イルモス、人を愛する主よ、凶悪なる諸敵に攻められて、將に及びんとする我等を棄
つる勿れ。救世主よ、預言者を猛獸より拯ひし如く、我等を拯ひ給へ。

ハリストスよ、我は古のファリセイの如く思を以て高ぶり、罪を以て甚しく墮落
せり、詭譎の者は之を見て楽しむ。十字架を以て彼を卑くせし主よ、今卑くなりたる我
を憐み給へ。

主宰よ、我不當の者は衆人に超えて我が度生に於て罪を好みて、爾の恒忍を竭した
れども、心尚頑陋なり。祈る、爾の仁慈を以て我を反正せしめ給へ。

致命者讃詞

法に戻る者は残忍なる旨に因りて、神智の致命者を定罪して、火を以て之を焚き、劍
を以て之を刺して、其實に黄金よりも輝ける者たるを顯し、且ハリストスと共に嗣業
と爲せり。

致命者讃詞

受難者よ、爾等は讎怨に満ちたる審判、至大なる辛勞、性に超ゆる苦を歴て、幽暗
の君に勝ちて、神より榮冠を受けたり。

生神女讃詞

我等は神の約匱、實に聖なる筵、我等の潔淨、神の活ける殿、純金の燈臺たる造成主
の眞の母を崇め歌ふ。

又

イルモス、イオナは地獄の住所に居る形像と爲りて呼べり、人を愛する主よ、我が生命
を淪滅より引き上げたまへ。

神元の有能なる第一の輝煌たる差役首は差役と首領と權柄、及び能力と共に黙さざ
る聲を以て呼びて、熱切に主を歌ふ。二次。

ちつじょ ひんい もつ わけい せかい たんせい かざ たま しゅ なんじ どうと きょうかい こ
秩序ある品位を以て無形の世界を端正に飾り給ひし主よ、爾の尊き教會をして此の
うるわ ちつじょ なら え たま
美しき秩序に效ふを得しめ給へ。

生神女讃詞

しょうしんどうていじょ なんじ うち い ことば なんじ いやし つね なが いずみ な たま いの
生神童貞女よ、爾の内に入りたる言は爾を醫治の常に流るる泉と爲し給へり。祈る、
わ たましい きず いや たま
吾が靈の創痕を痊し給へ。

第七歌頌

イルモス、^{みたり}三人の^{しょうしゃ}少者は^{いろり}爐に於て^{せいさんしゃ}聖三者を^{かたど}像りて、^ひ火の^{おどし}恐嚇を^ふ履み、^{うた}歌ひて^よ呼べ

第三調 月曜日の早課 五五九

第三調 月曜日の早課 五六〇

わ せんぞ かみ なんじ あが ほ
り、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。
あゝ たましい わ とぎ おわ せいせい もん かたわら あ ゆえ つうかい けつか あらわ もん いま
嗚呼靈よ、我が時は終る、逝世は門の側に在り、故に痛悔の結果を顯して、門の未
とぎ さき よ しゅ われ すく たま
だ閉ざされざる先にハリストスに呼べ、主よ、我を救ひ給へ。
われ らまこと ちしき すき もつ ころろ たがえ つうかい むぎ ま わ たましい こうさくしゃ
我等眞の智識の掣を以て心を耕して痛悔の麥を播かん、我が靈の耕作者たるハリ
よ ぎ ほ か ため
ストスに因りて義の穂を穫らん爲なり。

致命者讃詞

けいけん こうたい ふけいけん たたか もの ひんじゃ と もの しゅ ちめいしゃ ひんきゅう
敬虔の光體、不敬虔と戦ふ者、貧者を富ます者たる主の致命者よ、貧窮になりたる
わ いた ふとう たましい しょとく と たま
我が至りて不當なる靈を諸徳に富まし給へ。

致命者讃詞

ふか ころろ たんそく ぜいり すく わ びしょう たんそく う おのれ
深き心より歎息せし税吏を救ひしハリストスよ、我が微小なる歎息をも受けて、己
ひやくたい もつ なんじ えい じゆなんしゃ よ われ すく たま
の百體を以て爾を榮せし受難者に因りて我を救ひ給へ。

生神女讃詞

しゃざい みず なが いずみ わ ざいか ながれ か われ なみだ あまぐも あた たま わ つね
赦罪の水を流す泉よ、我が罪過の流を涸らして、我に涙の雨雲を與へ給へ、我が常
なんじ しょうしんじょ うた ため
に爾を生神女として歌はん爲なり。

又

イルモス、^{おご}驕れる^{くるしめびと}苛虐者は^{しょうしゃ}少者の^{がんぐ}玩具と爲れり。^な蓋彼等は^{けだしかれら}七倍燃されたる^{しちばい}焰を^{もや}塵の如
ほのお ちり ごと
く履みて歌へり、^ふ主我が^{うた}先祖の^{しゅ}神よ、^{せんぞ}爾は^{かみ}崇め^{なんじ}讃め^{あが}らる。^ほ
てん し ひんい なんじら あきらか ちえ いさめ もつ げんし ひかり み これ あずか
天使の品位よ、爾等は明なる智慧と勇ましき眼とを以て原始の光を觀て、之に與
よ だいに ひかり な よ せんぞ かみ なんじ あが ほ
るに因りて第二の光と爲りて呼ぶ、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。**二次。**
てん し ひんい なんじら かわ のぞみ あ あい みちび ぞうぶつ しゅ かび あずか
天使の品位よ、爾等は易らざる冀望と飽かざる愛とに導かれ、造物主の華美に與り
だいに こうたい な よ せんぞ かみ なんじ あが ほ
て第二の光體と爲りて呼ぶ、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

生神女讃詞

しょうしんじょ なんじ ちち はは えいえん う わげん ことば しんせい さん もつ み と もの
生神女よ、爾は父より母なく永遠に生るる無原の言を神聖なる産を以て身を取りし者
う たま じよさい なんじ はら み しゆくふく
として生み給へり。女宰よ、爾の腹の果は祝福せられたり。

第八歌頌

イルモス、^{かみ}神たる^{ちから}力を以て^{もつ}焰の中に^{ほのお}エウレイの^{うち}少者に^{しょうしゃ}降りて、^{くだ}現れし^{あらわ}主を、^{しゅ}司祭等
あが ばんせい ほ あ
よ、崇めて萬世に讃め揚げよ。

ハムは晒ふに因りて父の發せし言を以て奴隷と爲れり。吾が靈よ、爾は諸愆の奴隷
と爲りて、非禮に晒ひ、天の父に愧ぢずして何をか爲さん。
カインは無智の嫉妬に因りて弟を殺す者と爲れり。吾が靈よ、爾は彼に似たる者
と顯れて、他人を殺ししにあらず、乃度生の逸樂と迷惑とを以て己を殺せり。

致命者讃詞

第三調 月曜日の早課 五六一

第三調 月曜日の早課 五六二

我等集まりて、信を以て、主の選びたる眞珠、貴き器、神の恩寵の光にて輝ける燈
たるハリストスの受難者を宜しきに合ひて尊まん。

致命者讃詞

睿智なる受難者の血を香爐に勝りて受け給ひし言よ、彼等の祈祷に因りて痛悔を以
て爾に趨り附く者を救ひ給へ、爾獨慈憐の主なればなり。

生神女讃詞

我放蕩なる度生の甚しきを以て今地獄に近づけり。仁慈なる神を言ひ難く生みし者
として多くの慈憐を有つ少女よ、我を憐みて救ひ給へ。

又

イルモス、敬神の少者は無形の火にて物質の火の焰を滅して歌へり、主の悉くの造物
は主を崇め讃めよ。

爾萬有の造成主として、意思を以て諸天使を造りしに、彼等は畏れて爾の前に立ち
て呼べり、主の悉くの造物は主を崇め讃め、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

天の靈智者は神聖なる火に與るに因りて、焰の如くなりて呼ぶ、主の悉くの造物
は主を崇め讃め、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

爾は見ゆる萬物に先だちて、見えずして靈智なる諸天使を造りしに、彼等は絶えず爾
に呼ぶ、主の悉くの造物は主を崇め讃め、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

生神女讃詞

神の母童貞女よ、爾は言に超えて身を取りし父の言を生み給へり。悉くの造物は彼
を主として歌ひて、萬世に崇め讃む。

次ぎて生神女の歌詠を歌ふ、「我が靈は主を崇め」。

第九歌頌

イルモス、モイセイはシナイ山に於て棘の中に、爾を焚かれずして神性の火を胎内
に孕みし者として觀、ダニエルは爾を截られざる山として觀、イサイヤは芽を萌し
し杖、ダウィドの根より出でし者なりと呼べり。

イアコフは昔節制に因りて長たるを得、イサフは腹を制せずして長子の業を失へり。
不節制は如何にか悪しき、節制は如何にか大なる。嗚呼靈よ、不當なる事を避け、善
に進むを愛せよ。

無玷なるイオフは多く忍びたる者として榮冠を獲たり、蓋誘惑の河は溢れたれども、

かれ こころ ほしら うご ああ たましい つね おっしん かれ なら きょうあくしや あくぼう うご
彼の心の柱を動かさざりき。嗚呼 靈よ、常に熱心に彼に效ひて、凶悪者の悪謀に動
かされぬ者と爲れ。 **致命者讃詞**

第三調 月曜日の早課 五六三

じゆなんしや なんじら せいしん ひ よ するど つるぎ な でき ぐんたい き
ハリストスの受難者よ、爾等は聖神の火に因りて鋭き劍と爲りて、敵の軍隊を斫り、
おおい しょうり えい ばんゆう おう ぜんのう て えいかん う
大なる勝利に榮せられて、萬有の王の全能の手より榮冠を受けたり。

致命者讃詞

ちめいしや むてん たいすう わ はなはだ ざいあく たいすう きよ なんじら い がた
致命者の無玷なる大數よ、我が甚しき罪惡の大數を潔めんことを、爾等の言ひ難き
きんろう う むけい ぐん なんじら あわ しゆさい かみ いの たま
勤勞を受けて、無形の軍に爾等を合せたる主宰神に祈り給へ。

生神女讃詞

しゆさい うるわ みや われ ひかり いえ な たま とお られぬ もん わ ため つうかい みち ひら
主宰の美しき宮よ、我を光の家と爲し給へ、過られぬ門よ、我が爲に痛悔の途を啓
たま せい ち われ おんじゆう もの ち みちび たま じよさい われ しょよく いっさい けん
き給へ、聖なる地よ、我を溫柔の者の地に導き給へ、女宰よ、我を諸慾の一切の權
と たま
より解き給へ。

又

いさぎよ もの われら なんじ しじょう さん よろこ かん なんじ した びとく
イルモス、潔き者よ我等は爾の至淨なる産に欣ばしく感ぜられ、爾の慕はしき美德
を奇として、天使の歌を以て宜しきに合ひて爾を神の母として崇め讃む。
ああ いた しんせい かみ しょうし いまおおい だいいち ひかり まえ た ひんい なんじら われ
嗚呼至りて神聖なる神の諸天使、今大なる第一の光の前に立てる品位よ、爾等は我
ら しゅう よく ところ かな なんじら あが ほ もの ため もつとも ゆうき きとう しゃ な たま
等衆、能する所に適ひて爾等を崇め讃むる者の爲に最勇毅なる祈祷者と爲り給へ
り。 **二次。**

どうのう さんしや さんえい え その かがやき だいいち てら もの われら けいけん いだ
同能なる三者を讃榮するを得たる、其輝煌にて第一に照さるる者よ、我等敬虔を抱き
なんじら あが ほ もの だいに ひかり てら え たま
て爾等を崇め讃むる者をして第二の光に照さるるを得しめ給へ。

生神女讃詞

しょうしんじよ われら みななんじ わ すくい もとい し けだしなんじ しじょう さん その しんせい ち
生神女よ、我等皆爾を我が救の基なりと識る。蓋爾の至淨なる産は、其神聖なる血
を以て、爾を歌ひて忠信に讃榮する者を救ひ給へり。

次ぎて「常に福にして」。小聯禱、光耀歌、及び常例の聖詠。

挿句に傷感の讃頌、第三調。

しゅ わ ち ち おもい あつ わ あ ころ きよ たま お
主よ我が散らされたる思を聚め、我が荒れたる心を潔め給へ。ペトルに於けるが如
われ つうかい ぜいり お ごと たんそく いんぶ お ごと なみだ あた たま
く我に痛悔を、税吏に於けるが如く歎息を、淫婦に於けるが如く涙を與へ給へ、
わ おおい こえ もつ なんじ よ ため かみ われ すく たま なんじひとり じんじ ひと あい
我が大なる聲を以て爾に呼ばん爲なり、神よ、我を救ひ給へ、爾獨仁慈にして人を愛
しゅ
する主なればなり。

しゅ つと なんじ あわれみ もつ われら あ しか われら しょうがいうるこ たの
句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。
なんじ われら う ひ われら わざわい あ とし か われら たの たま ねが
爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はく
なんじ わざ なんじ しょぼく あらわ なんじ こうえい その しょうし あらわ
は爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

われしほ かしょう けん つみ おか ならわ けだしした かしょう とな たましい ふとう こと
我屢歌頌を獻じて、罪を犯すと顯れたり、蓋舌にて歌頌を唱へ、靈にて不當の事
おも かみ つうかい もつ ふたつ これ あらた われ すく たま
を思ふ。ハリストス神よ、痛悔を以て兩ながら之を改めて、我を救ひ給へ。

第三調 月曜日の早課 五六五

句、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給へ、我が手の工作を助け給へ。 致命者讃詞

衆民來りて、聖なる受難者の記憶を尊まん、蓋彼等は天使等及び人人の爲に觀玩と爲りて、ハリストスより勝利の榮冠を受けて、我等の靈の爲に祈り給ふ。

光榮、今も、生神女讃詞。

至聖至潔なる女宰、天の品位の榮譽、諸使徒の歌詠、諸預言者の成就なる者よ、我等の祈祷を納れ給へ。

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞及び聯禱。次に第一時課、及び發放詞。



月曜日の眞福詞、第三調。

ハリストスよ、爾は誠に背きし原祖アダムを樂園より逐ひ出せり。然れども爾、洪恩なる主よ、十字架に在りて爾を承け認めし盜賊、救世主よ、爾の國に於て我を憶ひ給へと呼ぶ者を其中に入れ給へり。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

ハリストスよ、爾の慈憐の多きに因りて我が罪惡の多きを顧みずして、我を救ひ給へ。救世主よ、審判の日に於て我を定罪及び永遠の苦より脱れしめ給へ、我が爾の仁慈を讃榮せん爲なり。

句、人我の爲に爾等を語り窘逐し、爾等の事を諷りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福なり。

ヘルウィムとセラフィム、寶座と天使首、能力と首領、主制と權柄、及び衆天使よ、造成主が地を審判せんとする時、其時我が罪過を顧みざらんことを祈り給へ、彼は人を愛する主なればなり。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

聖にせられし血を以て緋袞衣を染めたるハリストスの受難者は宜しきに合ひて天軍の王と偕に實に王たるを得て、我等常に熱心に彼等を尊む者の爲に罪過の赦を求む。

光榮

信者よ、我等は三位なる惟一の神性、父と言と聖なる撫恤者神とを敬虔に歌ひて、天使の聲を以て黙さずして呼ばん、聖、聖、聖なる哉爾神、我等の靈を救ふ主や。

今も、生神女讃詞。

光よりする光を生みし潔き童貞女、輝ける雲よ、我度生の諸慾及び逸樂に味まさ

れたる者を光に導きて、我を改めて、度生に於て善を爲しし者の今受けたる光榮を獲
んことを祈り給へ。



月曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に讚頌、第三調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人
の爾の前に敬まん爲なり。

ハリストスよ、變幻極なき蛇は我が内に善行に於ける倦怠を見て、直に罪の甘味を示
して、神聖なる誠に戻る苦き行を勸む、斯く我を欺きて、悪を善の如く取らしむ。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。

我終に至るまで直き途を棄てて、諸の不法と罪過との途を務めて行き、今死の門に近
づきて、迫りて呼ぶ、我が生命の途、吾が至善なるイイススよ、我を眞の痛悔の廣
きに向はしめて救ひ、我に更新を賜ひて、死の前に神聖なる赦罪を獲しめ給へ。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

我諸の罪、多くの過、不當なる行に殺されて、實に倚頼なき者として死して臥す、
唯一の我が望は生く、是れ爾の慈憐に於ける望なり。死者に呼吸と生命とを賜ひ、
我等を殺しし諸慾を殺すハリストスよ、速に我を永遠の死より脱れしめ給へ。

次ぎて月課經の讚頌、光榮、若し之れあらば聖人の、今も、生神女の。若し月課經
なくば、又聖大前驅イオアンの讚頌。

句、願はくはイズライリは主を待まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼
はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

爾の誕生を以て母の子なきこと、父の聲なきことを解きたる前驅よ、慈憐なる父の子、
産苦なくして智慧の生みし言たる萬有の主宰及び神に奉る爾の祈祷を以て、我が心
の善を生まざること、靈の果なきことを解きて、我を堅めて、彼が嘉することを言
ひ且行ふを得しめ給へ。

句、萬民よ、主を讚め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讚めよ。

ハリストスの爲に道を備へ、徑を直くし、其面前に遣はされし者よ、爾の祈祷と顯

第三調 月曜日の晩課 五六九

第三調 月曜日の晩課 五七〇

なる佑助とを以て我が心に彼に往く道を啓き給へ。其尊き足の行く處を整ふるに勝
へし者よ、我に溫柔なる者の足の行く所の天の地を歩むを得しめ給へ、我が愛を以
て爾轉達者を尊まん爲なり。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

地に在りて熱心に天使の度生に效ひし授洗イオアン、預言者の終末、新約の初致命者、

地下に在る者の爲に彼處に神の言の降ることの第一の傳教師、ハリストスに稱せられし者、羔及び贖罪主の友よ、爾の祈禱を以て爾の僕を敵の諸の誘惑及び種種の攻撃より脱れしめ給へ。

光榮、今も、生神女讚詞。

入らざる光の雲たる神の恩寵を蒙れる少女、祝福せられしマリヤよ、我無知にして罪過の幽暗に圍まるる者の爲に痛悔の光を輝かし給へ。至淨なる童貞女よ、爾の祈禱を以て爾の幃の下に趨り附く者を「ゲエンナ」の火及び外の幽暗より救ひて、暮れざる日に與る者と爲し給へ。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。

挿句に讚頌、第三調。

ハリストスよ、我等は暮の歌を香爐及び屬神の詩賦と共に爾に奉る、救世主よ、我等の靈を憐み給へ。

句、天に居る者よ、我目を舉げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

主我が神よ、我を救ひ給へ、爾は衆人の爲に救なればなり。諸慾の烈風は我を擾し、不法の重負は我を溺らす。我に援助の手を授けて、我を痛悔の光に升せ給へ、爾獨慈憐にして人を愛する主なればなり。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に鑿き足れり、我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮とに鑿き足れり。

ハリストスよ、爾の致命者の力は大なり、蓋彼等は墓に臥して悪鬼を逐ふ、聖三者に於ける信を以て正教の爲に戦ひて、敵の權を虚しくしたればなり。

光榮、今も、生神女讚詞。

女の中に聖なる生神女、聘女ならぬ母よ、爾が生みし王及び神に、其仁愛の主なるに因りて、我等を救はんことを祈り給へ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に讚詞、及び發放詞。



第三調 月曜日の晩課 五七一

第三調 月曜日の晩堂課 五七二

月曜日の晩堂課

至聖なる生神女の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區な匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讚めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

われ おこたり いのち ついや わ いのち おわり ちか しじょう もの いの なんじみずか すえ
我怠慢に生命を費して、我が生の終に近づけり。至淨なる者よ、祈る、爾親ら末
の時にだに我に傷感を與へ給へ、我が痛く我の無量の罪過を悔いて哭かん爲なり。
童貞女よ、我無知にして我が肉體の慾を以て神の像に依る華美を汚して、神の忿恚及び
烈しき火の罰を懼れたり。祈る、爾に趨り附く我を憐み給へ。

光榮

しせい しょうしんじょ われ ふとう もの ひざ かが なんじ たすけ もと なんじいた たましい き
至聖なる生神女よ、我不當の者は膝を屈めて爾の援助を求む。爾傷める靈に聽き
て、爾の祈祷の光線を以て我が憂の塞れる雲を拂ひ給へ。

今も

じょさい よく ふけ わ たましい うね なみだ ゆたか うるお たま われ ひやくばい み むす
女宰よ、慾に耽る吾が靈の畦に涙にて豊に濕さるるを賜ひて、我に百倍の實を結
ぶを得しめて、我が心を凡の樂に盈て給へ、我が爾を讚榮せん爲なり。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者
よ、爾の愛に我を固め給へ。

じんじ しょうしんじょ われ なみだ あまぐも あた これ もつ わ よく いろり け わ たましい
仁慈なる生神女よ、我に涙の雨雲を與へ、此を以て吾が慾の爐を滅して、我が靈
の諸の汚を滌ひ給へ。

しじょう もの われたましい りょうさん ふほう うち けが ことば われ かみ ぞう よ しじょう と
至淨なる者よ、我靈の良産を不法の中に汚して、言が我に神の像に依る嗣業を問は
ん時、我其詰問に戦く。

光榮

ざいか あらし いま われ かこ しつぼう ふかみ くだ いさぎよ もの われ て さず われ
罪過の烈風は今我を圍みて、失望の深處に下せり。潔き者よ、我に手を授けて我を
痛悔に導き給へ。

今も

じゅんけつ もの しんぱん とき なんじ ぼく およ その た およそ ぼつ のが なんじ
純潔なる者よ、審判の時に爾の僕を「ゲエンナ」及び其他の凡の罰より脱れしめて、爾
の子及び神の國に與る者と爲し給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付した
ればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

いさぎよ もの わ ふとう おこない みず わ ふこう たましい いた ゆえ われ ちり ぞく
潔き者よ、吾が不當の行の水は我が不幸なる靈にまで至れり。故に我塵に屬す

第三調 月曜日の晩堂課 五七三

第三調 月曜日の晩堂課 五七四

おもい かこ いた よ じょさい われ なんじ ぼく す なか
る思念に圍まれて、痛ましく呼ぶ、女宰よ、我爾の僕を棄つる母れ。

じゅんけつ もの わけい もうじゅう いま むざん われ かこ あわれみ わ ひび たましい たら
純潔なる者よ、無形の猛獸は今無慙に我を圍みて、憐なく我が卑微なる靈を執へ
んと謀る。至淨なる者よ、彼等が靈を害する頷を壊り給へ。

光榮

じょさい いの なんじ ぼく じれん た たま じゅんけつ もの なんじ たみ しょうらい ぼつ のが
女宰よ、祈る、爾の僕に慈憐を垂れ給へ。純潔なる者よ、爾の民を將來の罰より脱
れしめ給へ、我等が感謝して爾に呼ばん爲なり、萬有の女王よ、光榮は爾に歸す。

今も

しじょう もの はなむこ やわ きた ち しんぱん とき その とき われ こうめい ともしび もつ かけ
至淨なる者よ、新娶者が夜半に來りて地を審判せん時、其時我に光明なる燈を以て彼
を迎ふる爲に出でて、其降臨に伏拜するを得しめ給へ。

第五歌頌

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘
じて人人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。
實に犬の群は我を環り、悪鬼の黨は我を圍めり。至淨なる者よ、今彼等の謀を破
り給へ。
凶悪の者は今我の爲に 阱 を掘りて、我を此の中に落さんことを謀る。女宰よ、願
はくは爾の右の手に因りて、彼は自ら設けし穴に陥らん。

光榮

讃美たる者よ、爾の子の來らん時、願はくは我は其 愼 を以て責められざらん、其怒
を以て罰せられざらん、乃 爾の祈禱を以て我を救ひ給へ。

今も

潔き者よ、我が不當なる 靈の弱く且卑しきを見、又無形の敵の攻撃を見て、彼等
の害より我を脱れしめ給へ。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が 靈は匹びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾
の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。
純潔にして讃美たる生神女よ、萬有の造成主の指磨に因りて吾が 靈が體に別れん時、
我を悪む者の手より我を脱れしめ給へ。
神の母よ、傷感の流を以て我が悪事の濁りたる河を涸らして、審判の日に於て我を
安息の水に導き給へ。

光榮

至淨なる者よ、爾は吾が 靈の柔弱、吾が智慧の無力、肉體の不能を識る。故に爾
の僕を救ひ給へ、我爾を勝たれぬ保護者として得たればなり。

今も

第三調 月曜日の晩堂課 五七五

第三調 月曜日の晩堂課 五七六

無玷なる少女よ、我に 靈の涙の流を與へ給へ、我此を以て我が罪過の泥濁、諸愆
の紛擾、肉體の汚穢を滌はん。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

坐誦讚詞

慈憐なる主を腹に宿しし女宰よ、爾の帡幪の下に趨り附きて、熱心に爾の神聖なる
佑助を求むる者を宥めて憐み給へ。潔き者よ、彼が造物の主宰の前に立たん時、永遠
の火及び凡の定罪より彼を救ひ給へ。

第七歌頌

イルモス、昔三人の少者はペルシヤ人の尊める金の像に伏拜せずして、爐の中に歌
へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

潔き者よ、罪過の水は我に流れて我が 靈にまで至り、今を限の淵は我を圍めり、祈

る、其激浪より我を援け給へ。

潔き者よ、爾の慈憐の多きに因りて、我に爾の産の脅より出でたる血を灑ぎ、涙の流にて我を滌ひ、凡の汚より我を潔め給へ。

光榮

純潔なる者よ、我が靈に痛悔、心に謙遜を予へ給へ、我が常に無情に我を執へんと欲する者の凡の詭計より脱れん爲なり。

今も

女宰よ、慈憐なる神の母として信を以て爾の子に、先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ爾の諸僕に慈憐を垂れ給へ。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に悩まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

潔き者よ、爾の子の權柄を以て射る者の矢を折り給へ。願はくは其暴虐は今其頂に落ちん、我が歌はん爲なり、主の悉くの造物は主を歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

少女よ、爾の光を以て吾が味みたる心を照し、光の武器を以て我が爲に光の門を啓き給へ。蓋我呼ぶ、主の悉くの造物は主を崇め、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

光榮

我寝ねて死し、失望の墓に臥す。童貞女よ、爾親ら我を起して、我に勇ましく歌ふを得しめ給へ、主の悉くの造物は主を崇め、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

今も

第三調 月曜日の晩堂課 五七七

第三調 月曜日の晩堂課 五七八

潔き者よ、傷感を抱きて爾を尊む者を悪魔の網より脱れしめんことを絶えず祈り給へ。蓋彼等は爾の子に呼ぶ、主の悉くの造物は主を崇め、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

第九歌頌

イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生れし子を崇め讃む。

諸慾の浪と不淨なる思念の攻撃とは我が靈を擾し、悪人の烈風は常に我を惑はす。

童貞女よ、爾は仁愛なる者として、我を圍める危難より速に脱れしめ給へ。

卑微なる靈よ、爾の悪しき行を棄て、神の怒を干すを息めて、熱心に彼の誠を受けよ、生神女を爾の道を直くする者として有てばなり。

光榮

純潔なる者よ、萬有の主を生みし者として、我を諸慾と甚しき罪より釋きて、爾の多

くじれんの慈憐よに由りて我われを豊ゆたかに善行ぜんこうに富とましめ給へ、我たまが喜わびて愛よろこを以て爾あいを崇もつめ讃なんじめ讃あがめん爲ほなり。

今も

靈たましいよ、終おわりは近ちかづき、審判しんぱんは門もんの側かたわらに在り、耻あづべき行はを棄おこないて、善すなる度ぜん生どせいを始はじめよ、生神女しょうしんじょを凡およその悪あくより爾なんじを救すくふ扶助者ふじょしゃとして有たもてばなり。

次トロバリぎて「常トロバリに福トロバリにして」、及トロバリび躬拜トロバリ。聖三祝文トロバリ。「天トロバリに在トロバリす」のトロバリ後に讃詞トロバリ。其他常例トロバリの如トロバリし、及トロバリび發放詞トロバリ。



火曜日の早課

第一の誦文の後に傷感の坐誦讃詞、第三調。

吾わが靈たましいよ、地上ちじょうに寄寓きぐうする時ときに痛悔つうかいせよ、蓋塵けだしちりは墓はかに在りて歌あはず、罪過うたより救ざいかはず。ハリストスきん神しんに呼よべ、心こころを知る主しよ、我われ爾なんじの前まえに罪つみを犯おかせり、神かみよ、我われを定罪ていざいせざる先さきに我われを宥なだめ、我われを憐あわれみ給へ。

句、主しゅよ、爾なんじの憤いきどおりを以て我われを責もつむる母れ、爾われの怒せを以て我なを罰なんじする母れ。

吾わが靈たましいよ、罪過ざいかの中に在りて何あの時いづれに至るか、痛悔つうかいを延のばして何いづれの時ときに至るか。將來しょうらいの審判しんぱんを念おもひ抱いだきてハリストスかみ神しんに籲よべ、心こころを知る主しよ、我われ罪つみを犯おかせり、罪つみなき主しゅよ、我われを憐あわれみ給へ。

第三調 火曜日の早課 五七九

第三調 火曜日の早課 五八〇

光榮、今も、生神女讃詞。

我等われの避所かくれが及び能力およたる生神女ちから、世界しょうしんじょの堅固せかいなる扶助者けんご、獨ふじょしゃ祝福ひとりしゅくふくせられし者ものよ、爾なんじの祈きとうを以て爾もつの諸僕なんじを凡しよの危難しよより庇おほひ給へ。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

畏おそるべき審判しんぱんには我われ罪つみする者ものなきに攻せめられ、證しょうする者ものなきに定罪ていざいせらる、蓋良心けだしりょうしんの書しよは啓ひらかれ、隠かくれたる所しわざ爲あらわは顯かみる。神こよ、此この公衆こうしゅうの觀みる所ところに我わが行おこなひし事ことを糾たださざる先さきに我われを潔きよめ、我われを救すくひ給へ。

句、主しゅよ、爾なんじの憤いきどおりを以て我われを責もつむる母れ、爾われの怒せを以て我なを罰なんじする母れ。

主しゅよ、爾なんじは我われが諸罪しよざいの深處しんじゆを知る。ペトルおに於おけるが如ごとく、我われに援助たすけの手てを授さずけて、我われを救すくひ給へ。

句、神かみよ、爾なんじは爾なんじの聖所せいしよに於て嚴おごそなり。

最光明いとこうめいなる燈ともび、病やむ者ものの醫師い、讚美さんびたる聖受難者せいじゆなんしやよ、爾等なんじは信しんを以て輝もつく。蓋殘虐者けだしざんぎやくしやの苛虐くるしめを懼おそれずして、眞まことの十字架じゆうじかを勝かたれぬ勝利しょうりと有たもちて、偶像ぐうざうの邪教じやきやうを滅ほろぼし給へり。

光榮、今も、生神女讃詞。

至善なる女宰よ、信を以て爾の帟幪の下に趨り附く者を納れ給へ、我を諱む母れ、痛悔して祈る者を棄つる母れ。我が不當の口より祈祷を受けて、爾の轉達を以て我を諸の網より脱れしめ給へ、我が勇敢を以て爾に呼ばん爲なり、恩寵を蒙れる者、慶べよ。

第三の誦文の後に坐誦讚詞、第三調。

神福なる預言者及び前驅よ、我等は爾の帟幪の下に趨り附きて、信を以て靈の深處より呼ぶ、舊害危難の紛擾と諸愆の浪とを鎮め、諸敵の悪謀を空しくなして、我等の爲に大なる憐を求め給へ。

不當なる靈よ、爾の逝世の前に痛悔を以て爾の煩悶を拂ひ去り、泣きて寛容なるイイスス、人を愛する主に向ひて呼べ、主宰よ、我爾の前に罪を犯せり、求む、獨罪なき主よ、爾が慈憐なるを以て聖前驅の祈祷に因りて我を救ひ給へ。

光榮、今も、生神女讚詞。

神の恩寵を蒙れる女宰よ、爾に於て行はれし神の畏るべき奥密は測り難く、悟り難し、蓋爾は圍まれぬ者を孕み、其爾の至淨なる血より身を取りたるを生み給へり。潔き者よ、前驅と偕に彼に吾が靈の救はれんことを常に祈り給へ。

傷感の規程、我が主イイスス ハリストス 及び其聖なる致命者に奉る。其冠詞は、神

第三調 火曜日の早課 五八一

第三調 火曜日の早課 五八二

の言よ、我が歎息に耳を傾けよ。イオシフの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、奇妙至榮に奇迹を行ふ神よ、爾は淵を地と爲し、兵車を沈め、爾を我が王及び神として歌ふ人人を救ひ給へり。

信者よ、我等終の至らざる先に靈を全うして己の爲に泣かん。新娶者は近づく、我等光明なる燈の如く行を燃さん、神聖なる婚筵の宮に共に入るを得ん爲なり。昔マナッシヤは靈を全うして痛悔して救を得たり、蓋繋がれて桎梏の中より唯一の主宰に呼べり。靈よ、彼に效へ、然らば輒く救を得ん。

致命者讚詞

神聖なる致命者は目の抉らるること、手と足との截たるること、舌の切らるること、腿と臂との壞らるることを忍びて、イイスス ハリストス に感謝せり。

致命者讚詞

聖なる致命者よ、爾等の不朽體の枢は我等衆信者の爲に醫院と顯れたり。我等職として常に爾等を尊む者は此より靈と體との醫治を斟む。

生神女讚詞

不死の「マンナ」ハリストス を容るる靈智の壺たる讚め歌はるる童貞女よ、我を靈を殘ふ諸愆の侵害より救ひ給へ、我が信を以て敬虔に爾を讚榮せん爲なり。

又前驅イオアンの規程。

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、
是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。
無結果の胎の神聖なる果たる主の前驅よ、我が諸徳の果を結ばん爲に神に祈りて、
我が罪の無結果を解き、我が智慧より幽暗を掃ひ給へ。
大なる前驅よ、爾は信を以て地上に、全地を照しし光榮の日に先だつ星として現れ
たり。彼に祈りて、悪しき思に昧まされたる我が靈を照さんことを求め給へ。
地獄に在る者に近づく生命を神聖なる神に因りて預め知らせし光榮なる預言者前驅
よ、我が殺されたる靈を爾の祈祷を以て活かして、之を墓よりするが如く諸罪より起
し給へ。

生神女讃詞

童貞女よ、祈る、天使首と天使、及び諸聖人と偕に爾より我等に現れし主に祈りて、
第三調 火曜日の早課 五八三
第三調 火曜日の早課 五八四
我等爾を眞の生神女と承け認むる者の諸難より救はれんことを求め給へ。

第三歌頌

イルモス、果を結ばざる子なき靈よ、榮えたる果を獲て、楽しみて呼べ、神よ、我爾
に縁りて堅められたり、主よ、爾の外に聖なるはなく、義なるはなし。
我は無知に神の法に背きて、定罪せらるべき者にして、何を爲さん知らず。至りて義
なる審判者よ、爾の慈憐を以て我を宥めて救ひ給へ。
東の東たる仁愛の主、慈憐深き者よ、祈る、我の爲に義の光を輝かして、我を諸愆
の昏昧と苦の幽暗より脱れしめ給へ。

致命者讃詞

神靈の地の居住者、樂園の果の繁き樹たる聖致命者、神聖なる水を有つ泉よ、爾等
は聖なる飲料を注ぐ器と顯れたり。

致命者讃詞

衆くの肉體の中に一の風儀を有つ受難者致命者よ、爾等は敵たる世君の萬萬に勝ち
て、分れざる三者を傳へたり。 生神女讃詞
至淨なる童貞女母、衆人の女宰よ、我等衆痛悔してハリストスに趨り付き、諸罪の赦
を得んことを求むる者の爲に彼を慈憐なる者と爲し給へ。

又

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者
よ、爾の愛に我を固め給へ。
言の聲たりし授洗者よ、聲を以て爾を尊む者を今彼に向はしめ、爾の轉達を以て我等
に諸罪の赦を與へ給へ。
救世主よ、我爾の前に罪を犯して不法を行ひ、痛く過ちて靈を汚せり。故に爾に祈
る、爾の授洗者に因りて我を宥め給へ。

の やしな もの あらた ひと きょうどうしや ぜんく なんじ いの いつらく よ の
野に養はれたる者にして新なる人の嚮導者たる前驅よ、爾に祈る、逸樂に因りて野
に迷ひし我を痛悔の道に向はしめ給へ。

生神女讃詞

しじょう もの しよ しとせい よげんしや ちめいしや てんじょう ぐん とも なんじ こ なんじ
至淨なる者よ、諸使徒、聖にせられし預言者、致命者、天上の軍と偕に爾の子に爾
を歌ふ我等を宥めんことを祈り給へ。

第四歌頌

イルモス、 いさぎよ もの こかげ しげ やま なんじ しじょう たい よげん よ
イルモス、潔き者よ、アウワクムは樹蔭繁き山として爾の至淨なる體を預見して籲
べり、神は南より、聖なる者は樹蔭繁き山より來らん。

第三調 火曜日の早課 五八五

第三調 火曜日の早課 五八六

むかし ふ ふく ふじゆん ひとびと ため いわ みず なが そのかわき とど かみ わ か
昔不順の人人の爲に巖より水を流して、其渴を止めしハリストス神よ、我が洩
れたる靈より我を滌ふ傷感の滴を注ぎ給へ。

や もの いし きゆうせいしゆ じんじ よ なんじ じれん しき もつ わ ところ しょよく
病む者の醫師たる救世主よ、仁慈なるに因りて、爾が慈憐の指磨を以て我が心の諸慾
に痛悔の神聖なる良薬を傳けて、之を醫し給へ、我が信を以て爾を讃榮せん爲なり。

致命者讃詞

じゆなんしや なんじら い けつ にくたい お したしみ と なんじら くる ほつ もの
受難者よ、爾等は意を決し、肉體に於ける親を釋きて、爾等を苦しめんと欲する者
に己を付せり、故に造物主の親しき友と爲り給へり。

致命者讃詞

じゆなんしや なんじら たしゆ くるしめ よ いたくる たすう きず う ゆえ
ハリストスの受難者よ、爾等は多種の苦虐に因りて最苦しき多數の傷を受けたり、故
に屬神の賜の恩寵を獲て、我が諸慾の多年の病を退く。

生神女讃詞

いと こうめい しょうじよ よるこ かみことば なんじ うま われら わち ふとう おこない
最高名なる少女よ、慶べ、神言は爾より生れて、我等を無知にして不當なる行よ
り釋き給ふ。光れる雲、我等の憂悶の雲を拂ふ者よ、慶べ。

又

イルモス、 しゆ なんじ つよ あい われら あらわ われら ため なんじ びくせいし し わた
イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付した
ればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

しゆ ぜんく われなんじ み あらわ ことば こえ もの いの ことば もつ なんじ とうと しょよく
主の前驅よ、我爾身にて現れし言の聲たる者に祈る、言を以て爾を尊み、職とし
て信を以て讃美する我を無知なる行より脱れしめ給へ。

ああ たましい たんそく かみなんじ ぞうせいしゆ よ われつみ おか われ きよ たま
嗚呼靈よ、歎息して神爾の造成主に籲べ、ハリストスよ、我罪を犯せり、我を潔め給
へ、神聖なる前驅の祈禱に因りて、我を畏るべき苦難と災禍と憂愁より脱れしめ給へ。

じゆせんしや われはげ よく おお なみ おぼ くふう はなはだ かこ つね しず
授洗者よ、我激しき慾の多くの浪に溺らされ、颶風に甚しく圍まれて、常に沈めら
るる者を引き出して、痛悔の湊に向はしめ給へ。

生神女讃詞

じゆんけつ かみ はは いたか くるま もの むけい えきしや およ しゅうせいじん とも
純潔なる神の母、ヘルウィムより最高き輅なる者よ、無形なる役者及び衆聖人と偕
に爾が生みしハリストスに我望を失ひし者を救はんことを祈り給へ。

第五歌頌

イルモス、神の獨生の子及び言よ、我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ、爾の平安を我等に與へ、我等爾を歌ひて中心に拜む者を憐み給へ。

イイススよ、痛悔の「イソップ」を以て我に沃ぎて、諸愆の汚より潔め給へ、爾が義なる審判を以て萬衆を審判せん時に我が潔き者として爾の前に現れん爲なり。

第三調 火曜日の早課 五八七

第三調 火曜日の早課 五八八

救世主よ、我が極めて不當なる靈の傷は朽ちたり。病む者の醫師、諸善を與ふる主よ、爾の多くの慈憐に因りて我を醫して救ひ給へ。

致命者讃詞

受難者の土の器は地に在りて碎かれたり、然れども靈の堅固はハリストスの力に因りて更に固くなりて輝けり。

致命者讃詞

諸聖人の流さるる血は全地を聖にし、信者の靈を濕し、虚しき教の濁りたる流を涸らせり。

生神女讃詞

少女よ、爾の産は原祖の詛を無結果の者と爲し、我等爾を祝讃して、信を以て讃榮する者の爲に祝福の河を流せり。

又

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘じて人人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。

福たる者よ、爾は肉體を以て地上に天使の如く居りたり。故に我爾に禱る、我が靈を肉體の念より釋き給へ。

主の前驅よ、我罪の深處に陥り、逸樂にて靈を汚して、苦難の中に在りて爾に趨り附く者を救ひ給へ。

預言者よ、爾は諸預言者より最高き者と現れたり、傳へし者を自ら見るを得たればなり。彼に我等の靈を照さんことを常に祈り給へ。

生神女讃詞

言が爾の中に入りしに因りて天より最廣き者と現れたる神の恩寵を蒙れる者よ、我を狹むる諸罪より解き給へ。

第六歌頌

イルモス、諸愆の深處は我を沈め、逆風の狂暴は起りて我を攻む。救世主よ、急ぎて我を救ひ、預言者を猛獸より救ひし如く、我を淪滅より脱れしめ給へ。

我罪の幽闇に味まされて行動なくして臥す、昔我が爲に戈にて傷つけられしハリストス神よ、爾の慈憐を以て我を宥め給へ。

我歎けども惡の中に止まり、哭けども審判に戦かず、我感動なきを病む。神の言よ、爾の仁慈なる定を以て我を宥めて救ひ給へ。

致命者讃詞

至りて光榮なる受難者よ、爾等は羔の如く聊も呼はらず、言をも聲をも出さずし

て、^{ほふり}屠殺と^{きず}創傷との爲に^{ため}曳かれて、ハリストスを^{かしよう}歌頌せり。

致命者讃詞

第三調 火曜日の早課 五八九

第三調 火曜日の早課 五九〇

^{じゆなんしや}受難者よ、^{なんじ}爾等は^{かて}糧として^{もうじゆう}猛獸に^{あた}昇へられ、^{うみ}海の^{ふかみ}深處に^な投げられて、^{たましい}靈にて^{よろこ}悦べり。故にハリストスは^{ふきゆう}不朽の^{えいかん}榮冠を以て^{もつ}爾等を^{なんじ}飾り^{かざ}給へり。

生神女讃詞

^{すく}救はるる^{もの}者の^と戸、^{われ}我等の爲に^{ため}身を取り^みし^と主の^{しゆ}獨過り^{ひとりとお}給ひし^{たま}門よ、^{もん}信を以て^{しん}爾を^{もつ}歌ふ^{なんじ}我等の爲に^{うた}義の門を^{ひら}啓き^{たま}給へ。

又

^{イルモス}イルモス、^{いま}今を^{かぎり}限の^{つみ}罪の^{ふち}淵は^{われ}我を^{かこ}圍み、^わ我が^{たましい}靈は^{ほろ}匹びんとす。祈る、^{いの}主宰^{しゆさい}教導者よ、^{なんじ}爾の^{たか}高き^て手を^{われ}伸べて、^{われ}我を^{ごと}ペトルの^{すく}如く^{たま}救ひ^{たま}給へ。

^{えいちしや}睿智者よ、^{なんじ}爾の^て手の^{した}下に^{かたが}傾きし^{あまみ}甘味の^{いずみ}泉を^{なんじみず}爾水^{もつ}を以て^{せん}洗せり。多く^{おお}罪を^{つみ}犯しし^{おか}我に^{われ}傷感^{しょうかん}の水を^{みず}降さん^{くだ}ことを^{かれ}彼に^{いの}祈り^{たま}給へ。

^{ぜんく}前驅よ、^{なんじ}爾は^{みず}水を以て^{もつ}最高^{いと}き^{たか}天を^{てん}覆へる^{おお}イイスス、^{じんあい}仁愛の^{しゆ}主、^{じれん}慈憐の^{ふち}淵たる^{もの}者を^{かわ}河の^{うち}中に^{あら}洗へり。我に^{われ}赦罪^{しやざい}を流さん^{なが}ことを^{かれ}彼に^{いの}祈り^{たま}給へ。

^{ぜんく}前驅よ、^{なんじ}爾は^{てんこく}天國は^{ちか}邇づけり、^{かいかい}悔改せよと呼べり。愛を以て^よ爾を^{あい}崇めて、^{もつ}爾の^{なんじ}尊き^{あが}覆庇の下に^{なんじ}趨り^{とうと}附く^え者に^{たま}之に入らんことを^え得しめ^{たま}給へ。

生神女讃詞

^{ぞうせいしゆ}造成主に^{なんじ}爾の^み身を^か借しし^{しじよう}至淨なる^{もの}者よ、^{てんじよう}天上の^{ぐん}軍と^{しゆう}衆預言者と^{しと}使徒及び^{およ}致命者^{ちめいしや}と^{とも}偕に^{われ}我を^{なだ}宥めて^{すく}救はんことを^{かれ}彼に^{いの}祈り^{たま}給へ。

第七歌頌

^{イルモス}イルモス、^{いろり}爐の^{ほのお}焰に^{つゆ}露を^{そそ}注ぎ、^{しょうしや}少者を^や焚かるる^{すく}なく^{しゆ}救ひし^わ主、^{せんぞ}吾が^{かみ}先祖の^{なんじ}神よ、^{なんじ}爾は^{よよ}世世に^{あが}崇め^ほ讃めらる。

^{われ}我不朽の^{ふきゆう}衣を^ぬ脱ぎ、^{ちじやく}耻辱の^{おこない}行を^き衣たり。故に^{ゆえ}爾に^{なんじ}呼ぶ、^{こうおん}宏恩なる^{かみ}神よ、^{しよとく}諸徳の^{ころも}衣にて^{われ}我を^{かざ}飾り^{たま}給へ。

^{イルモス}イイススよ、^{われ}我淫行の^{いんこう}目と^め不^ふ節制の^{せつせい}觸とに^{さわり}汚されて、^{けが}爾の前に^{なんじ}汚らは^{まえ}しき^{けが}者と^{もの}爲れり。我を^{われ}蕩子の^{とうし}如く^{ごと}納れ^い給へ。

致命者讃詞

^{ハリストス}ハリストスの^{ぐん}軍士、^{しんせい}神聖なる^{ともしび}燈よ、^{なんじ}爾等は^{うえ}上なる^{いのち}生命を^{あい}愛して、^{おお}多くの^{くるしみ}苦を^{しの}忍べり、故に^{ゆえ}忠信に^{ちゆうしん}讚美せらる。

致命者讃詞

^{せい}聖なる^{ちめいしや}致命者よ、^{なんじ}爾等は^{くるしみ}苦の^ひ火に^{きよ}潔められ、^ひ日よりも^{あきらか}明に^{かがや}輝きて、^{むしん}無神の^{およそ}凡の^{くらやみ}幽闇

生神女讃詞

^{ばんゆう}萬有を^{かこ}圍む^{しゆ}主を^う生みし^{いさぎよ}潔き^{しょうしんじよ}生神女・^{えいていどうじよ}永貞童女よ、^{われ}我を^{かこ}圍む^{むち}無知の^{くらやみ}幽闇及び^{およ}罪より^{つみ}脱れ^のしめ^{たま}給へ。

又

^{イルモス}イルモス、^{みたり}三人の^{しょうしや}少者は^{いろり}爐に^{おい}於て^{せい}聖三者を^{さんしや}像りて、^{かたど}火の^ひ恐嚇を^{おどし}履み、^ふ歌ひて^{うた}呼べ

り、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

ハリストスの授洗者、前驅、日の燈臺よ、怠慢に昧まされて盲と爲りし我が靈を照して、我を痛悔の途に向はしめ給へ。

我審判の時を思ひて痛く畏る、多くの不當なる行を爲したればなり。主の授洗者よ、轉達して我が前に在る火より我を脱れしめ給へ。

我が生命の保護者なる前驅よ、我を見ゆる及び見えざる敵より守り、蔽ひて、天國に與る者と爲し給へ。

生神女讃詞

生神童貞女よ、諸預言者、使徒、致命者と偕に爾の子に祈りて、常に爾を尊む我等を將來の苦難より救はんことを求め給へ。

第八歌頌

イルモス、至高きに天使等より黙さずして讃榮せらるる神を、諸天の天と地、山と岡と深處、及び悉くの人類は、歌を以て造成主及び贖罪主として崇め讃めて、萬世に讃め揚げよ。

萬有の王よ、我良心を失ひたる者は爾を畏るる畏を我が心に抱かずして、肉體の逸樂に生を費して、爾の審判に戦く。祈る、今痛悔する我を忌む母れ。

地上に罪なく童貞女より生れし慈憐多き主よ、痛悔を以て我を地上の罪より洗ひて、溫柔の者の住む聖なる地に移るを得しめ給へ。

致命者讃詞

ハリストス萬有の神の至りて光榮なる受難者よ、爾自身の血に染みたる爾等の足は、敵に障へられずして、嚴に天上に往くを得たり。

致命者讃詞

光榮なる受難者よ、爾等は意を決して苦難及び大なる格闘の爲に衣を脱ぎ、敵を裸體にして、之に耻辱を衣せたり、故に天上に榮冠を冠りて楽しむ。

生神女讃詞

純潔なる者よ、華美に榮えたる主は爾イアコフの華美を愛して、爾の腹に入りて、人の性を諸の華美にて飾り給へり、此れ智慧に超ゆる諸恩賜なり。

又

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

神聖なる前驅イオアンよ、爾は人人の罪を任ふ神の羔を傳へたり。我が諸罪の任を解きて、我に救はるる者の分を得しめんことを彼に祈り給へ。

神の無原なる言よ、爾に祈る、光榮にして神聖なる爾の授洗者に因りて、我全身悪事

の幽暗に圍まるる者を焰の燃ゆる爐及び外の幽暗より脱れしめ給へ。
虚しくして無結果なる靈に悔改の善果を傳へし主の神聖なる預言者よ、荊棘を生ず
る我が靈をおよそいつらくきよたまわぜんこうほしょうため
る我が靈を凡の逸樂より潔め給へ、我が善行の穂を生ぜん爲なり。

生神女讚詞

神の母として、聖なる天使、諸預言者、使徒、致命者と偕に祈りて、常に爾生神女
を讚美する者を諸の蓄害、憂患及び將來の悉くの苦より脱れしめんことを求め給
へ。

第九歌頌

イルモス、祝讚せらるる哉主、イズライリの神、我等の爲に救の角を其僕ダウイド
の家に興しし者や、其矜恤に因りて東旭は上より我等に臨み、我等の足を平安の道に
向はしめたり。

視よ、嘉く納るべき時及び潔の日なり。嗚呼靈よ、是より望を起して、轉じて悔改
の果を結べ、然らずば畏るべき死の斧は爾を無結果の者と見て、古の無花果の如く斫
りて彼處の火に投ぜん。

我は古の富める者の如く逸樂の中に楽しみ、隣に對して多くの無慈悲を抱きて、滅
えざる火を畏れず。主宰よ、求む、我が靈の頑固なるを柔らげ給へ、我味まされし者
が終にだにも慈悲を以て照されん爲なり。

致命者讚詞

致命者よ、爾等はハリストスの神聖なる血に印證せられて、信を以て堅固に苦を忍
びて、不信の諸敵を仆し、衆くの人人を汚らはしき迷より出し、靈妙に神を識る知識
の光にて之を照し給へり。

致命者讚詞

ハリストスの神聖なる致命者よ、爾等は敵の軍を斬る利き劍と顯れ、又聖三者の光明
を容るる器、信者の爲に敬虔の光を輝かす燈、シオンの眞の軍士と顯れ
たり。

生神女讚詞

預言者は爾を光れる雲と預見せり、是より大なる日ハリストス神は我等に現れて、先
に味まされし者を照し給へり。仁慈なる者よ、我が諸慾の雲を拂ひて、神聖なる光
を以て我を照さんことを彼に祈り給へ。

又

イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は
神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生

第三調 火曜日の早課 五九五

第三調 火曜日の早課 五九六

れし子を崇め讚む。

睿智なる預言者よ、爾は律法の影に注目し、明に神の恩寵の暁を見て、地の極を照

して、無知の幽暗を拂へり。故に我等爾を尊む。
ハリストスの致命者、神聖なる授洗者、悔改の燈、敬虔の朝として、舊と新との中保者
よ、悪に縁りて舊びたる我が卑しき靈を新にして、神聖なる智識を以て照し給へ。
睿智者よ、畏るべき時、戦くべき時、定罪の時に於て我定罪せらるる者を彼處に待
つ所の嚴罰より脱れしめ給へ、我が靈の救者が爾新娶者の友の祈禱を聴き給へば
なり。

生神女讃詞

至淨なる母童貞女よ、神の母として、神の言が身にて爾より生れし潔き母として、
無形の者、使徒及び預言者、成聖者及び致命者と偕に常に彼に世界に平安を賜はんこ
とを祈り給へ。

次ぎて「常に福にして」、及び聯禱、光耀歌、及び常例の聖詠。

挿句に傷感の讃頌、第三調。

主よ、我が散らされたる思を聚め、我が荒れたる心を潔め給へ。ペトルに於けるが如
く我に痛悔を、税吏に於けるが如く歎息を、淫婦に於けるが如く涙を與へ給へ、
我が大なる聲を以て爾に呼ばん爲なり、神よ、我を救ひ給へ、爾獨慈憐にして人を愛
する主なればなり。

句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。
爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はく
は爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

我屢歌頌を獻じて罪を犯すと顯れたり、蓋舌にて歌頌を唱へ、靈にて不當の事を思
ふ。ハリストス神よ、痛悔を以て兩ながら之を改めて、我を憐み給へ。

句、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作进行を我等に助け給
へ、我が手の工作进行を助け給へ。

ハリストスの軍士は諸王と苛虐者とを畏るる畏を棄てて、勇敢を以て勇ましくハリ
ストス、萬有の主神、我等の王を承け認めたり、今は我等の靈の爲に祈り給ふ。

光榮、今も、生神女讃詞。

爾は種なく聖神に由りて孕み給へり。故に我等爾を讚榮して歌ふ、至聖なる童貞女
よ、慶べ。

次ぎて「至上者よ、主を讚榮し」。聖三祝文。「天に在す」の後に讚詞及び聯禱。次

第三調 火曜日の早課 五九七

第三調 火曜日の眞福詞 五九八

に第一時課、並に發放詞。



火曜日の眞福詞、第三調。

ハリストスよ、爾は誠なんじ いましめ そむに背げんそきし原祖らくえんアダムを樂園おより逐いだひ出しかせり。然れども爾、洪恩なんじ こうおんなる主しゅよ、十字架じゅうじかに在ありて爾なんじを承うけ認みとめし盜賊とうぞく、救世主きゅうせいしゅよ、爾なんじの國くにに於おいて我われを憶おもひ給たまへと呼よぶ者ものを其そのの中うちに入れい給たまへり。

句、義ぎの爲ために窘逐きんちくせらるる者ものは福さいわいなり、天國てんこくは彼等かれらの有ものなればなり。

ハリストスよ、我度生われ どせいの逸樂いつらくに汚けがれたる靈たましいを以もつて直ただちに爾なんじの洪恩こうおんに就つきて、熱心ねっしんに爾なんじ獨ひとり隱微ひそかなる事ことを知る者ものに呼よぶ、主しゅよ、爾なんじの慈憐じれんに由よりて我われを潔きよめ給たまへ。

句、人我ひとわれの爲ために爾等なんじらを詭のし、窘逐きんちくし、爾等なんじらの事ことを譎いつわりて諸もろもろの悪あしき言ことばを言いはん時は、爾等なんじら福さいわいなり。

舊きゅうと新しんとの中保者ちゅうほうしやと爲なりし至いたりて讚美さんびたる神聖しんせいなる授洗者じゅせんしやよ、罪つみに由よりて舊ふるびたる我われを新あらたにして、爾なんじの祈きとうを以もつて、我われに能よくくハリストスの國くにに入いらしむる痛悔つうかいの途みちを躓つまづきなく行ゆくを得えしめ給たまへ。

句、喜よろこび樂たのしめよ、天てんには爾等なんじらの賞むくい多おほければなり。

勇敢ゆうかんなる聖受難者せいじゆなんしやよ、爾等なんじらは善よき戰たたかいを戦むすひて、無數むすうの病やまいを忍しのびたり、之これに因よりて常つねに衆人しゅうじんの病やまいを援たすけ、悪鬼あくきの惱なやみを退しりぞく。故ゆえに我等われら信しんを以もつて爾等なんじらを讚榮さんえいす。

光榮

我等われらが讚榮さんえいする三位さんいの惟一者ゆいいちは實ものに光ひつなり、生命ひかりなり、全能者いのちなり。蓋ぜん父のうしやと子けだと聖神せいしんとは萬有ばんゆうを持つ惟一者ゆいいちにして、三位さんいに於おいて惟一ゆいいちの主しゅ宰かみ、主し、神ものと知しらるる者ものなり。

今も

童貞女母どうていじよよ、常はに罪つねを犯つみして、仁慈おかなる神じんじを怒かみらしむる我いかを宥われめ、仁慈なだなる者じんじとして、今いま我われに痛悔つうかいの心こころを固かため給たまへ、我わが將來しょうらいの苦くるを免まぬかれて、熱心ねっしんに爾なんじ少女しょうじよの祈きとうを歌頌かしょうせん爲ためなり。



火曜日の晩課

十字架の讚頌、第三調。

ことば 爾なんじが十字架じゅうじかに釘ていせらるるに因よりて造物ぞうぶつは變へんじ、日ひは畏懼おそに因よりて光線こうせんを隠かくし、殿でんの幔まくは裂さけ、凡おおよその信者しんじやは救すくはれたり。故ゆえに我等われら爾なんじの無量むりようの富とみを讚榮さんえいす。

第三調 火曜日の晩課 五九九

第三調 火曜日の晩課 六〇〇

慈憐じれんに因よりて我わが肉體にくたいを受けし神う主宰かみは木しゅさいに釘きせられ、身てい舉みげられて、我等われら仆たおされし者ものを舉あげ給たまへり、其その仁慈じんじなる旨むねの定さだめしが如ごとし。

主しゅよ、爾なんじの脅おきより流ながされし神聖しんせいなる血ちと水みずとの滴したたりにて世界せかいは新造しんぞうせられたり、蓋けだ爾なんじは洪恩こうおんなるに因よりて水みずを以もつて衆人しゅうじんの罪つみを洗あらひ、血ちを以もつて赦免しゃめんを書しるし給たまふ。

再生神女の讚頌。

我われ怠慢おこたの牀とこに臥ふし、懶惰おこたりの中うちに我わが生命いのちの時ときを費ついやして、我わが逝世せいせいの期きを畏おそる。少女しょうじよ

よ、爾の祈禱を以て我を痛悔に興して、救ひ給へ。
潔き者よ、我が心の病を醫し、我が智慧の迷を止め、我に淨き心を以て爾を歌頌し、恩寵を獲、審判の日に於て慈憐を蒙らんことを得しめ給へ。
我が卑しき靈よ、惡の負ひ難き任を卸し、涙を流して就きて呼べ、潔き童貞女よ、我に爾の子及び神の輕き軛を負ふを獲しめ給へ。

光榮、今も、十字架生神女讚詞。

至淨なる者よ、爾が己の子の十字架に在るを見る時、劍は爾の心を刺して、爾呼べり、産の後に我を童貞女と護りし吾が神よ、我を子なき者と爲す勿れ。

次ぎて「穩なる光」。提綱。

挿句に十字架の讚頌、第三調。

ハリストスよ、我爾の尊き十字架、世界の守護者、我等罪なる人の救、大なる潔淨、王の勝利、全世界の美譽なる者に伏拜す。

句、天に居る者よ、我目を舉げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

不順の木は世界に死を生じ、十字架の木は生命と不朽とを生じたり。故に我等爾釘せられし主に伏拜す、願はくは爾が顔の光は我等に輝かん。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に鑿き足れり、我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮とに鑿き足れり。

諸預言者、ハリストスの使徒及び致命者は一體の三者を歌はんことを教へ、迷へる異邦民を照し、人の諸子を諸天使の侶と爲せり。

光榮、今も、十字架生神女讚詞。

我がハリストスよ、爾を生みし無玷なる牝羊、爾の母は爾が十字架に擧げられしを見て、歎歎して呼べり、産の後にも我を潔き者と守りし主よ、我を子なき者と爲す勿れ。

第三調 火曜日の晩課 六〇一

第三調 火曜日の晩堂課 六〇二

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひ」。聖三祝文。「天に在す」の後に讚詞。聯禱及び發放詞。



火曜日の晩堂課

至聖なる生神女の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讚めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

純潔なる女宰よ、我は爾神の母を慈憐及び仁愛の泉と知りて、就きて爾の仁慈に祈る、我に傷感を與へ給へ、我が諸罪の爲に歎きて哭かんと爲なり。
我に靈の涙の滴を與へて、我が行の悉くの汚と悪しき念とを洗ひ、我が靈の不潔を淨め、我を聖神の殿と爲し給へ。 **光榮**

純潔なる者よ、我諸罪の浪に荒らされ、常に激しく敵の行動にて溺らされ、今滅亡の深處に沈められて爾に呼ぶ、我を救ひ給へ。 **今も**
衆の女宰・生神女よ、爾の慈憐の多きに因りて我が不當なる靈を憐み、今爾の帡幪の下に趨り附く者を永遠の火及び悪鬼の攻撃より脱れしめ給へ。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。
至りて讚美たる者よ、悪しき思にて昧まされし我が智慧を神聖なる光にて照し給へ、爾は父より輝きし永在の光を生みたればなり。
義人の敵は我が靈を躓かせて地に仆せり。潔き女宰よ、爾の右の手を以て我を起し給へ。 **光榮**

我不當なる者は税吏の聲を以て爾に呼ぶ、女宰よ、我を潔め、爾の祈禱を以て爾の僕に諸罪の赦を與へ給へ。 **今も**
女宰よ、我が靈の傷を醫し、思念の至りて濁りたる波を鎮め、我に平和の治安を與へ給へ。

第四歌頌

第三調 火曜日の晩堂課 六〇三

第三調 火曜日の晩堂課 六〇四

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。
我逸樂と色慾とを以て肉體を汚し、汚らはしき思に因りて吾が靈の潔淨を失ひ、智慧を昧ましたり。女宰よ、爾の僕を棄つる勿れ。
潔き者よ、我が爲に遁處と避所と防禦、救の角及び保護者と爲りて、常に我を凡の憂患より脱れしめ、我が諸敵を辱かしめ給へ。

光榮

多くの攻撃に圍まれ、常に悪鬼の詭計にて溺らさるる我不當の者は今爾に趨り附く。爾の熱心なる祈禱を以て我爾の僕を救ひ給へ。

今も

諸慾の明ならざる夜は我不當の者を圍む。仁慈にして純潔なる者よ、爾の光を以て吾が靈の雲を拂ひて、神の誠の光に向はしめ給へ。

第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して光榮の諸天使に繞らるる神を見し

とき よ ああ われ わざわい かな われ にくたい と かみ く ひかり へいあん つかさど もの よけん
時に籲べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見せり。

わ いのち とき けわり ごと き われ し もん ちか あくき こうげき おそ つね かれら
我が生命の時は煙の如く消えたり、我死の門に近づきて、悪鬼の攻撃を畏る、常に彼等の行爲を行ひたればなり。純潔なる者よ、我を憐みて救ひ給へ。

どうていじよ わ あく ふち か われ なみだ かわ あた わ しょよく ほのお ことごと け
童貞女よ、我が悪の淵を涸らし、我に涙の河を與へて、我が諸愆の焰を盡く滅し、審判の日に於て我に火及び他の苦より脱れんことを得しめ給へ。

光榮

しじょう もの つみ や わ たましい なんじ じれん もつ いや われ へりくだ つね なんじ
至淨なる者よ、罪にて病める我が靈を爾の慈憐を以て醫して、我に遜りて常に爾の子の誠を行ふを得しめ給へ、我が彼の仁慈を蒙らん爲なり。

今も

わ こ なんじ しんせい きょうかい なんじ わき なが せい ち もつ きよ われ
吾が子よ、爾の神聖なる教會は爾の脅より流れし聖なる血を以て潔められたり、我は十字架に爾の悉くの苦を見て苦しむと、言の母は哭きて言へり。

第六歌頌

イルモス、いま かぎり つみ ふち われ かこ わ たましい ほろ いの しゅさい きょうどうしや なんじ
イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は凸びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

かみ よめ なんじ いさぎよ ち み と かみ こ なんじ つみ ひと ら ため おおい かくれが な
神の聘女よ、爾の潔き血より身を取りし神の子は爾を罪人等の爲に大なる避所と爲せり、故に爾の諸僕に慈憐を垂れ給へ。

じんじ もの なんじ ひかり もつ ふとう おもい くら わ こころ め てら われ ひかり
仁慈なる者よ、爾の光を以て不當なる思に味まされたる我が心の目を照し、我を光

第三調 火曜日の晩堂課 六〇五

第三調 火曜日の晩堂課 六〇六

の子と爲して、明き處に入らしめ給へ。 光榮

しじょう もの よく おもい なみ つね われ みだ あくき あらし おぼ いの われ むよく
至淨なる者よ、愆の念の浪は常に我を擾し、悪鬼の暴風は溺らす。祈る、我を無愆の石に固め給へ。 今も

われ たましい し もつ い しつぼう ひつぎ ふ いの われ て さず われ おこ つうかい
我靈の死を以て寝ねて、失望の枢に臥す。祈る、我に手を授けて、我を起して痛悔の度生に導き給へ。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

坐誦讚詞、第三調。

しょうしんじよ われ ち なんじ こ じゅうじか のうりよく つえ え これ もつ しょうてき おごり おと あい
生神女よ、我等爾の子の十字架を能力の杖として獲て、此を以て諸敵の驕を墜し、愛を以て絶えず爾を崇め讃む。

第七歌頌

イルモス、むかし みたりに しょうしや じん どうと こがね ぞう ふくはい いろり なか うた
イルモス、昔三人の少者はペルシヤ人の尊める金の像に伏拜せずして、爐の中に歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

いさぎよ もの つみ よ やわ わ たましい のうりよく お われ すく たま けだしわれしん
潔き者よ、罪に由りて弱りたる我が靈に能力を佩ばしめて、我を救ひ給へ。蓋我信を以て爾の子に呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

われ し とき ふし えいえん くるしみ おそ なんじ はし つ しょうじよ かみ はは とら もの
我死の時と不死なる永遠の苦とを畏れて、爾に趨り附く。少女、神の母よ、執ふる者の網より我を救ひ給へ。 光榮

い 容れられぬ神を腹に容れし生神女よ、多くの罪に狭めらるる我が智慧を此より釋き給へ。

今も

しょうしんじょ ひと やから なんじ いの じよさい なんじ しょうぼく しん もつ なんじ こ わ せんぞ かみ
生神女よ、人の族は爾に祈る、女宰よ、爾の諸僕、信を以て爾の子に、吾が先祖の神
よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ者を憐み給へ。

第八歌頌

イルモス、けいけん のり しょうしや た がた ひ い ほのお なや しんせい
イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖
なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

われ じつ とうし なら しょうざい うち わ いっしょう つく いま よ しょうじよ われ なんじ まえ つみ
我實に蕩子に效ひ、諸罪の中に我が一生を盡して、今呼ぶ、少女よ、我爾の前に罪
を獲たり、我を爾の子及び造成主の傭人の一の如く爲し給へ、我が萬世に爾を讃榮
せん爲なり。

わ たましい あく み われ およ はか い もの ひと しょうしんどうていじよ なんじ われ よく
我が靈は悪に盈ち、我は凡そ墓に入る者と等しくなれり。生神童貞女よ、爾我を慾
の穴と我が諸悪の泥より引き出し給へ。

光榮

しょうしんじょ なんじ せい たい より うま おお つみ ゆるし われ たま いの
生神女よ、爾の聖なる胎より生れしハリストスに多くの罪の赦を我に賜はんことを祈
り給へ、我が歌はん爲なり、主の悉くの造物は主を歌ひて、世々に彼を讃め揚げよ。

第三調 火曜日の晩堂課 六〇七

第三調 火曜日の晩堂課 六〇八

今も

しじょう もの わ たましい かみ めい よ こ いのち さ としき とら もの あみ われ
至淨なる者よ、吾が靈が神の命に因りて此の生命を去らん時、執ふる者の網より我
を脱れしめ給へ。蓋我呼ぶ、主の悉くの造物は主を歌ひて、世々に彼を讃め揚げよ。

第九歌頌

イルモス、われら しんじや かげ およ ぶん りつぽう おい よしょう み およ ほじ うま だんし
イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は
神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生
れし子を崇め讃む。

じゆんけつ もの ひと やから いま なんじ か きどう とみ え ひる よる よ なんじ
純潔なる者よ、人の族は今爾の勝たれぬ祈祷の富を獲て、晝に夜に呼ぶ、爾の
造成主及び子に爾を歌ふ者を宥めんことを常に息めずして祈り給へ。

ふとう よく や わ たましい きず あくき いざない あ おもい もつ つね わ ちえ みだ
不當なる慾の矢は我が靈に傷つけ、悪鬼の誘惑は悪しき念を以て常に我が智慧を擾
す。故に少女よ、我が醫し難き傷を醫し給へ。

光榮

いさぎよ かみ よめ われ たたか てき きず われ まも たま けだし われ ふとう もの かれ ら こうげき
潔き神の聘女よ、我と戦ふ敵の傷より我を護り給へ、蓋我不當の者は彼等の攻撃
と多くの悪謀と狂暴とに勝へず。祈る、速に我を救ひ給へ。

今も

なんじ わ いや からだ ふのう わ たましい きず わ こころ なげき わ ちえ まよい まどい し
爾は我が卑しき體の不能、我が靈の傷、我が心の歎息、我が智慧の迷と惑とを知る。
故に爾の慈憐を以て我に平愈を與へ給へ。

次ぎて「常に福にして」、及び叩拜。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。其他常例
の如し、及び發放詞。



水曜日の早課

第一の「カフィズマ」の後に十字架の坐誦讃詞、第三調。

十字架は地に建てられて天に摩れり、是れ木が此くの如き高度に至りしに非ず、萬有を充つる爾が此の上に在りて斯く成れり。主よ、光榮は爾に歸す。

句、主我が神を崇め讃め、其足凳に伏し拜めよ、是れ聖なり。

神の 羔よ、爾は松・杉・黄楊樹に擧げられたり、信を以て爾の自由なる釘殺に伏拜する者を救はん爲なり。ハリストス神よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

生神女よ、我等爾の子の十字架を能力の杖として獲て、此を以て諸敵の驕を墜し、愛

第三調 水曜日の早課 六〇九

第三調 水曜日の早課 六一〇

を以て絶えず爾を崇め讃む。

第二の誦文の後に十字架の坐誦讃詞、第三調。

人類の爲に頬を批たれて怒らざりし主よ、我等の生命を朽壞より釋きて、我等を救ひ給へ。

句、神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。

天使の軍は爾の量り難き權能と自由なる釘殺とを見て驚けり、如何にして見えざる者は人類を朽壞より救はんと欲して、身に傷を受けたる。故に我等爾生を施す主に呼ぶ、ハリストスよ、光榮は爾の仁愛に歸す。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

致命者讃詞

ハリストスの恒忍なる致命者はハリストスの全備の武具を衣、信の盾を執りて、受難者に適ふが如く敵の軍を斃せり。蓋生命の望を抱きて、勇ましく暴虐者の悉くの恐嚇と傷とを忍びたり、故に榮冠を受け給へり。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

ハリストスよ、婚姻に與らざる潔き爾の母は爾が死して十字架に懸れるを見て、母として哭きて言へり、吾が子よ、不法にして恩を知らざるエウレイの會、屢爾の大なる賜を樂しみし者は何をか爾に報いたる。我爾の神聖なる寛容を歌ふ。

第三の誦文の後に十字架の坐誦讃詞、第三調。

ハリストス救世主よ、爾は十字架と死とを受けて、我等に不死の生命を流し、世界を朽壞より釋き給へり。故に生命を賜ふ仁愛の主よ、我等は衆人に救を施す爾の苦と、平安を與ふる勝たれぬ武器たる爾の尊き十字架とを讃榮す。

萬物より最高き主宰よ、爾は十字架の辱を忍びたり、我先に甚しく辱かしめられし者を尊くせん爲なり。恒忍なる主よ、爾は戈にて脅を刺されたり、我爾の造物を

朽壞より救はん爲なり。人を愛する主よ、我爾の大なる慈憐と仁慈とを歌ふ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

主宰よ、婚姻に與らざる無玷なる童貞女爾の母は爾が木に擧げられしを見て呼べり、
嗚呼哀しい哉、吾が甘愛なる子よ、如何にして至りて不法なる會は爾萬衆の造成者及び
主宰を木に懸けんことを定めたる。我爾の至大なる仁慈を歌ふ。

尊貴にして生命を施す十字架の規程、其冠詞は、言よ、爾は苦にて人人の苦しめ

第三調 水曜日の早課 六一一
第三調 水曜日の早課 六一二

たり。イオシフの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イブライリ人の爲に海を分ちし者は、
是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。
言よ、爾は尊き爾の身の苦を以て昔悪敵に傷つけられし人類の多病の苦しめを醫し、
凡そ敬虔に爾の量られぬ定制に伏拜する者を救ひ給ふ。
樂園に於て誠に背かしむる誘惑を以て人を縛りし者は今解かれぬ械にて縛られたる、
人を愛する主が身を取りて、我等の罪惡を解かん爲に、甘じて縛られしに因る。

致命者讃詞

大名なる受難者は造物が悪鬼の誘惑に因りて溺るる苦難を見て、傲慢なる敵の力を
悉く血の流の中に沈めて、信者の爲に穩なる港と顯れたり。

致命者讃詞

致命者の會は天上の品位と嚴に並び立ち、常に造られざる神性の光に輝かされて、
地に在りて信を以て神の奇跡を讚榮する者を輝かす。

生神女讃詞

至淨なる者よ、爾は地上に神言、仁慈に因りて己の苦と尊き十字架とを以て我等
を天に上せ給ひし主を生みて、天上の品位より最高き者と顯れたり。

又至聖なる生神女の規程、其冠詞は、生神女に第三の歌を奉る。

イルモス同上

至淨なる者よ、預言者アウワクムは神を以て爾を樹蔭繁き山と預見せり。祈る、慾
に刺されて、死の蔭に在る我を爾の蔭に蔽ひて、我に迫る諸慾より脱れしめ給へ。

二次。

爾の子の神聖なる脅より出でし神聖なる流の注ぐを以て吾が心の疵を滌ひ給へ、
我が宜しきに合ひて爾永福無玷なる者を崇めて讚榮せん爲なり。

潔き者よ、爾は生みし者と同じく行爲する言、人の性を神成せし主を生み給へり。彼
に祈りて、我惑ひて敵の悪謀に因りて弱りたる者に神聖なる慰を得しめんことを求
め給へ。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

爾神の性を以て苦に與らず、仁慈に由りて身を以て苦に與る者と爲り、我等に

第三調 水曜日の早課 六一三

第三調 水曜日の早課 六一四

不死を賜ひし主をエウレイの會は木を以て殺せり。

地を水の上に懸けし言よ、爾は甘じて木の上に懸けられて、惡の穴に陥りし我を天に登せ給へり。

致命者讃詞

創痍に飾られたる至りて讚美たるハリストスの致命者よ、爾等は主の前に立ちて、其極めて富める手より應報を受け給ふ。

致命者讃詞

致命者は欣ばしき靈を以て己を瘡痍の爲に付して、蛇を甚しく哀しませ、天使の品位を歡喜に充てたり。

生神女讃詞

婚姻に與らざる者はハリストスの十字架に擧げられしを見て、哭きて曰へり、幽暗に在る者を照し給ふ光榮の日よ、爾は我が目より隠れたり。

又 イルモス同上

慈憐にして至聖なる童貞女よ、仁愛の言ひ盡されぬ、宏恩の富める主に我等惱まさるる者を宥めんことを祈り給へ。

萬有の造成主の住居たる潔き童貞女よ、我靈を害する盜賊の巢窟と爲りし者の中に撫恤者の住まんことを祈り給へ。

神聖なる手を以て萬有を持つ主を己の手に抱きし生神女よ、我を眷みて、諸慾に傾ける不當の意思より脱れしめ給へ

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

凡の尊貴に超ゆる主宰ハリストス、人を愛する主よ、爾は葦にて首を撃たれて、實に辱を忍びたり、我犯罪に由りて辱かしめられし者を尊くせん爲なり。

恒忍なる主よ、爾は眞の王として、甘じて棘の冠を冠らせられたり、棘を生ずる人の罪を根より絶さん爲なり。救世主よ、我爾の苦を歌ひ讃む。

致命者讃詞

致命者よ、爾等は瘡痍の苦に因りて仆されずして、敵の誘惑を仆し、爾等の足にて甚しく高ぶる暴虐者の驕を踐みたり。

致命者讃詞

至りて讚美たる致命者よ、爾等は朽つべき身を以て神聖なる不朽を獲、苦を以て苦に與らざる者の尊き苦に勇ましく效ひて、無形の品位に加へられたり。

生神女讃詞

至淨なる少女よ、昔預言者は爾を巻軸と見たり、其中に父の指にて身を取れる言、戈

第三調 水曜日の早課 六一五

を以て原祖の書券を破りし者は録されたり。

又 イルモス同上

甘じて創傷と屠殺とを忍び給ひしハリストス、獨慈憐の多き主よ、悪鬼の残酷なる攻撃に傷つけられし吾が靈を爾を生みし者の祈祷に由りて醫し給へ。造成主ハリストスよ、我は爾の手の工業及び造物にして、蛇の悪謀に由りて、度生の逸樂に壞られたり。故に爾を生みし者の神聖なる祈祷に由りて我を新に造り給へ。獨一の永貞童女よ、爾は言に超えて父の言、人人を凡の無知より解きたる主を生み給へり。切に彼に我無知なる愆の擒と爲りし者を解かんことを祈り給へ。至聖なる幕、光の居處、絶えず香料を滴らす器たる至淨なる神の聘女よ、爾は常に手より我等に醫治を流し給ふ。

第五歌頌

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘じて人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。仁慈全能なる主よ、爾は羔の如く木の上に擧げられ、我等の爲に祭として父に獻ぜられて、偶像の祭を止め給へり。生命を賜ふ主よ、爾は戈にて脅を刺されて、爾を三者の一にして二の行爲を有つ主と傳ふる者の爲に救の二の泉を流し給へり。

致命者讃詞

イイススよ、堅固なる受難者は信を以て爾を堅き基及び動かざる石として獲て、尊き石の如く己を其上に建てたり。致命者讃詞 受難者致命者よ、爾等は信に依りて神の力に堅められ、誘惑者の烈しき力を悉く破りて、嚴に榮冠を冠れり。生神女讃詞 至聖なる女宰、吾が靈の轉達者よ、爾は不朽にハリストスを生むを以て先に犯罪に由りて朽壞せし我等の性を新に造り給へり。

又

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して光榮の諸天使に繞らるる神を見し時に籲べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見せり。

童貞女、光れる雲よ、我が肉體の病、靈の疾を醫して、怠惰の雲を拂ひ給へ。我爾に祈りて、愛を以て爾を讚榮する者に壯健を與へ、諸難より脱るるを得しめ給へ。童貞女よ、我凡の罪に盈ちたる者は爾より生れし主に今爾を轉達者及び祈祷者として進む。我の爲に保護者と爲り、我が生命の改造者と爲り、我を神聖なる智識の途に嚮導する者と爲り給へ。

童貞女よ、我が智慧を聖にし、靈を光に導き、我を神聖なる光榮に與る者と爲し給へ、蓋視よ、我悪に盈ち、凡の逸樂の奴隸と爲り、我が良心を汚せり。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は匹びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。詭譎なる蛇は食を以て我を誘ひて、エデムより引き出し、ハリストスは甘じて木の上に擧げられて、復我が爲に是に入るを得しめ給へり。恩者主よ、爾の脅傷つけられしに、我等に傷つけし者は傷つけられて、醫されぬ者と爲り、我等信者は爾が甘じて受けし傷に因りて醫されたり。

致命者讃詞

ハリストスの睿智なる軍士は火に投げられ、燐かるる羔の如く神・萬有の王に祭として獻ぜられて、言ひ難き樂を繼ぎたり。致命者讃詞
受難者よ、爾等は盡くされぬ寶より斟みて、醫治の河を流し、諸愆の害を涸らし、信者の會に飲ましむ。生神女讃詞

純潔なる母・童貞女・女宰よ、爾の血より身を取りし言の殺されしを見て、爾は母として呼びて、生命の源たる主を讃榮せり。

又

イルモス、人を愛する主よ、凶悪なる諸敵に攻められて、將に匹びんとする我等を棄つる勿れ。救世主よ、預言者を猛獸より拯ひし如く、我等を拯ひ給へ。我は高ぶる思念を以てファリセイに超え、常に驕りて無量の罪の淵に進めり。獨潔き者よ、極めて卑しくなりたる我を宥め給へ。二次。
至りて奇異なる降孕と産とを有ちし童貞女よ、今我不當なる者の上に爾の慈憐を奇異なる者と顯し給へ、蓋我不法に於て生まれ、生れて逸樂の奴隸と爲れり。我畏るべき審判を記念する時呼び、泣きて涙を流す、悪しき行を有てばなり。婚姻

第三調 水曜日の早課 六一九

第三調 水曜日の早課 六二〇

に與からざる童貞女、神の母よ、畏るべき時に於て我が爲に轉達者と爲り給へ。

第七歌頌

イルモス、昔三人の少者はペルシヤ人の尊める金の像に伏拜せずして、爐の中に歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。仁愛の主、萬衆の神よ、爾は己の疾苦にて我等の疾苦を止めて、今敬虔に爾の尊き疾苦に伏拜する者を疾苦なき生命に移し給ふ。

ハリストスよ、造物は爾が十字架に釘せらるるを見し時、變じて戦けり、地は震ひ、磐は裂け、日は其光を隠せり。致命者讃詞

致命者はハリストスの法に循ひて、不法なる誘惑を退け、法の爲に審判所の中に苦を受けて、嚴に榮冠を冠れり。致命者讃詞

主の受難者、榮冠を冠りし者よ、爾等は火よりも熱き決心を得て、火に焼かれずして呼べり、神よ、爾は崇め讃めらる。**生神女讃詞**
至淨なる者よ、爾の生みしハリストスが十字架に擧げられしを見て、爾立ちて呼べり、産の後にも我を潔き者と守りし主よ、我を子なき者と爲す母れ。

又

イルモス、三人の少者は爐に於て聖三者を像りて、火の恐嚇を履み、歌ひて呼べり、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。
女宰よ、行に由りては我に救なし、罪に罪を、惡に惡を加ふればなり。故に潔き者よ、爾の祈禱を以て我を宥めて救ひ給へ。**二次**。
審判は門の側に在り、審判座は設けられたり、卑微なる靈よ、己を備へて呼べ、言よ、我を審判する時、爾を生みし者の祈禱に由りて我を定罪する勿れ。
我罪の果を摘みて殺されたり。結果なき靈を攜へて爾に呼ぶ、爾の腹の果を以て朽壞を破りし者よ、之を果を結ぶ者と爲し給へ。

第八歌頌

イルモス、ワフィロンの爐が少者を焚かざりし如く、神性の火は童貞女を殘はざりき。故に我等信者は少者と偕に呼ばん、主の造物は主を崇め讃めよ。
慈憐多きハリストスよ、爾釘せられしに、樂園は復開かれ、自ら旋る焰の劍は爾の聖なる脅を刺しし戈に耻ぢて退きたり。
ハリストスよ、爾と闘ふ者は戈に傷つけられて斃れ、斃れしアダムは生に回りにて、爾甘じて屠られし主に呼ぶ、慈憐多き我が神よ、我爾を祝頌して讚榮す。

致命者讃詞

第三調 水曜日の早課 六二一

第三調 水曜日の早課 六二二

受難者よ、世界は爾等の戦と諸徳と無数の奇跡とを以て照され、萬の病より助けられて、信を以て呼ぶ、主の造物は主を崇め讃めよ。**致命者讃詞**
永光なる聖致命者よ、曩に海陸を滅さんと誇りし者は爾等の足下に倒されて、嘲り觀らる。ハリストスは生を施す右の手にて凋まざる榮冠を以て爾等を飾る。

生神女讃詞

至淨なる者よ、爾は定期に於て期及び時より上なる者を生みたり。彼は己の縛を以て初に造られしアダムを定期の縛より釋き、又己の甘き愛の縛にて之を縛り給へり。

又

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。
全く善なる者にして萬有の王に近くなりし生神女よ、我惡を行ひて怠慢の中に一生を送りし者を善行に充て給へ、我が萬世に爾を讚榮せん爲なり。
神の言よ、昔至榮に預言者を鯨の腹より救ひし如く、斯く救世主よ、滅込の深處に陥

わ たましい すく たま こんいん あずか なんじ う どうていじょ なんじ いの
りし我が靈を救ひ給へ、婚姻に與らずして爾を生みし童貞女が爾に祈ればなり。
しょうしんじょ きょうあくしや われ かみ ぞうぶつ うるわ こども き み これ は どうていじょ
生神女よ、凶悪者は我神の造物が美しき衣を衣たるを見て、之を褫ぎたり。童貞女
なんじ きとう われ つうかい しんせい こども かざ たま
よ、爾祈祷を以て我を痛悔の神聖なる衣にて飾り給へ。

次に生神女の歌、「我が靈は主を崇め」。

第九歌頌

イルモス、棘と火とを以て、シナイ山に立法者モイセイの爲に預象せられ、神の火
を焚かるるなく腹に宿しし者、最光明なる滅されぬ燈たる實の生神女を尊みて、歌
を以て崇め讃む。

仁慈なるハリストス、生を賜ふ主よ、爾は失ひし「ドラフマ」を尋ねん爲に十字架
に於て爾の身を燃し、之を獲て、爾の天上の軍を喜に與る者と爲し給へり。彼等
と偕に我等は爾を恩主として尊みて、歌を以て崇め讃む。

ハリストスよ、爾は十字架に手を擧げて、先に多くの慾に因りて弱りたる我が手を爾
の力にて堅め、實に弱りたる我が膝を神聖なる路を行かん爲に堅固にし給へり。故
に我等爾を崇め讃む。

致命者讃詞

ハリストスよ、爾の堅固にして奇異なる受難者は無量の苦の焔に燃えて、涼しく
する露として爾を獲たり。故に喜びて尊き路を行き、歌を以て絶えず爾を歌頌せ

第三調 水曜日の早課 六二三

第三調 水曜日の早課 六二四

り。致命者讃詞

ハリストスよ、多數の聖受難者の品位は多く爾を悲しましむる人人の會の爲に爾に祈
る。洪恩の主よ、爾の慈憐の多きに因りて我等の不法の多きを潔め給へ、爾人を愛
する主なればなり。

生神女讃詞

童貞女よ、爾は父の輝煌たる、地上の者の形を受けし主を生み給へり。日は其十字架
に擧げられしを見るに勝へずして晦み、拜偶像宗の幽闇は滅えたり。故に我等は彼及
び爾を崇め讃む。

又

イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は
神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生
れし子を崇め讃む。

不朽にして無玷なる童貞女よ、我智慧の朽壞せられ、靈と良心との朽壞せられ、悪
にて汚され、一の善もなき者を棄つる勿くして、敬虔の行にて飾り給へ。

慈憐の多き恩主よ、我は悪に盈ち、爾仁愛なる主より我を疎くする思念に充ちたり。故
に歎きて呼ぶ、痛悔する我を受けて、爾を生みし者の祈祷に由りて我を遠ざくる勿
れ。

純潔なる少女よ、願はくは我爾の幘の下に趨り附きて、爾を祐助の爲に呼ぶ者は、
爾の祈祷に由りて、凡の怒、死を致す諸慾、畏るべき「ゲエンナ」の火、不義なる人人及

び凶悪なる諸敵より救はれん。

潔き女宰よ、神の母として我母の腹より爾を頼みし爾の僕が、凡の蓄害及び悪しき風習より救はれんことを爾より生れし主神及び王に祈り給へ。

次ぎて「常に福にして」、**聯禱及び其他。**

挿句に讃頌、第三調。

我猜忌に因りて樂園より逐ひ出されて、甚しき倒を以て倒れたり。然れども爾は、主宰よ、我を棄てずして、我が爲に我の性を受け、十字架に釘せられ、我を救ひて、我を光榮の中に入れ給ふ。我が贖罪主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

モイセイは山に於て十字形に手を上に舒べて、アマリクに勝てり。爾は、救世主よ、尊き十字架の上に手を舒べ、我を抱きて、敵の奴隷より救ひ、我に生命の記章を與へて、我が諸敵の弓より脱れしめ給ふ。故に言よ、我爾の尊き十字架に伏拜す。

第三調 水曜日の早課 六二五

第三調 水曜日の眞福詞 六二六

句、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作进行を我等に助け給へ、我が手の工作进行を助け給へ。

致命者讃詞

聖なる致命者よ、爾等は善き戦を戦ひしに由りて、死の後にも世界の中に光體の如く輝く。故に勇敢を有ちてハリストスに我等の靈を憐まんことを祈り給へ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞

至仁なる我がハリストスよ、純潔なる者は爾が木に懸れるを觀て、母として哭きて呼べり、我が至愛の子よ、如何ぞ不法なる會は爾を木に懸くるを定めたる。



水曜日の眞福詞。第三調。

ハリストスよ、爾は誠に背きし原祖アダムを樂園より逐ひ出せり。然れども爾、洪恩なる主よ、十字架に在りて爾を承け認めし盜賊、救世主よ、爾の國に於て我を憶ひ給へと呼ぶ者を其中に入れ給へり。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

我がイイススよ、爾は我が爲に十字架に釘せられ、脅を刺されて、我が爲に二の救の泉を流し給へり。故に我爾の苦に因りて救はれて、爾の仁慈を歌頌讃榮す。ハリストスよ、爾の國に於て我呼ぶ者を憶ひ給へ。

句、人我の爲に爾等を語り、窘逐し、爾等の事を譎りて諸の悪しき言を言はん時

は、爾等福なり。

イイスス ハリストスよ、爾は罪犯者と偕に算へられて、我等衆の罪犯を任ひ、萬衆の王として棘を冠りて、原祖の罪の棘を根より絶し給へり。故に我等信を以て今爾の苦を讚榮す。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

勇敢なる受難者、至りて光榮なる聖致命者よ、爾等はハリストスの苦に效ひて、神聖なる力を以て敵の誘を破り、天の光榮を受けて、我等衆の爲に祈り給ふ。

光榮

三位の惟一者、全能なる分れざる三者、惟一の性及び力よ、爾を歌ふ者を凡の敵の害より覆ひて、彼等に生の中に善を行ひし者の受けたる爾の國を得しめ給へ。

今も

第三調 水曜日の眞福詞 六二七

第三調 水曜日の晩課 六二八

神の母童貞女よ、爾は潔き爾の血より身を受けしもの十字架にあるを見て、哭きて呼べり、子よ、悪しき會は衆信者の生命及び復活たる爾を殺して、何をか是れ爾に報いたる。



水曜日の晩課

「主よ爾に籲ぶ」に聖使徒の讚頌、第三調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん、然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

洪恩にして獨慈憐なる仁愛の主よ、尊貴神聖なる爾の使徒の祈禱に因りて、爾の諸僕に爾の平安を與へ、爾を歌ひて、信を以て伏拜する者を患難より救ひ給へ。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。

我が恩者、神聖なる使徒等よ、爾等が十二の位に坐して、萬民の審判者と偕に凡の造物を審判せん時、我を定罪せられざる者と爲して、幽暗と凡の苦より脱れしめ給へ。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

睿智なる我が恩者、神聖なる使徒等よ、爾等に祈る、神の實見者として、我を凶悪者の矢より脱れしめ、彼の悪謀を滅して、屬神の露を以て我を濕し給へ。

次ぎて若し之あらば、月課經の聖人の讚頌。若しなくば、又聖大奇跡者ニコライの讚頌。同調。

句、願はくはイズライリは主を待まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

われ ふとう もの へび か きず いき ししゃ たお ふ しふく
我不當の者は蛇に嚙まれ、傷つけられて、氣息なき死者として仆されて伏す。至福な
る成聖者よ、爾の力ある祈禱を以て速に我を興し給へ、我が爾の速に聴く恩寵
を讚榮せん爲なり。

句、萬民よ、主を讚め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讚めよ。

きけつ もの わ たましい あ あ ぼんぞく かれ あが ほ
詭譎の者は我が靈が悪しき思に味まされて眠れるを見て、我を捕へんことを務めて
息めず、神よ、ニコライの祈禱に由りて我を宥めて救ひ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

しふく
至福なるニコライよ、爾は我等衆の爲に大なる救と顯れたり、爾の諸僕を凡の

第三調 水曜日の晩課 六二九

第三調 水曜日の晩課 六三〇

きなん かんなん ゆうわく しょびょう こうげき およ み しょてき すく たま
危難、患難、誘惑、諸病、攻撃及び見えざる諸敵より救ひ給へばなり。

光榮、今も、生神女讚詞。

いさぎよ もの なんじ きせき ちから おおい けだしなんじ かんなん たす し すく ま わざわい
潔き者よ、爾が奇跡の力は大きなり、蓋爾は患難より助け、死より救ひ、待たざる禍
より脱れしめ、憂を解き、人人の罪過を除き給ふ。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。

挿句に使徒の讚頌、第三調。

せい しと ら なんじ ら こえ ぜん ち つた なんじ ら ぐうぞう まよい やぶ かみ し
聖なる使徒等よ、爾等の聲は全地に傳はれり、爾等は偶像の迷を破りて、神を知る
智識を傳へたり、福たる者よ、是れ爾等の善なる功勞なり。故に我等は爾等の記憶
を歌ひて崇め讚む。

てん お もの われ め あ なんじ のぞ み ぼく め しゅじん て のぞ ひ め しゅふ
句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦
の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

こうらい しと ら なんじ ら いのち ほどこ ぶどう えだ な けいけん み みずか おのれ かみ
光榮なる使徒等よ、爾等は生を施す葡萄の枝と爲りて、敬虔の實として自ら己を神
に獻じたり。故に彼の前に勇敢を有ちて、我等の靈に平安と大なる憐とを賜はん
ことを祈り給へ。

しゅ われ ら あわれ われ ら あわれ たま けだしわれ ら あなどり あ た われ ら たましい おご
句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に驚き足れり、我等の靈は驕
る者の辱と誇る者の侮とに驚き足れり。

しゅ なんじ ちめいしゃ しん かた のぞみ つよ なんじ じゅうじか あい あい
主よ、爾の致命者は信にて固められ、望にて強くせられ、爾の十字架を愛する愛に
て靈を合せられて、諸敵の強暴に勝てり。故に榮冠を享けて、無形の者と共に我等
の靈の爲に祈り給ふ。

光榮、今も、生神女讚詞

どうていじよ われ おお つみ おか もの なんじ おおい いのり もつ くるしみ ひ のが たま いさぎよ
童貞女よ、我多く罪を犯す者を爾の大なる禱を以て苦の火より脱れしめ給へ。潔
き者よ、爾の祈禱を以て我を直くし、爾の母たる禱にて我を救の途に向はしめ給へ。



水曜日の晩堂課

至聖なる生神女のに奉る祈禱の規程。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

第三調 水曜日の晩堂課 六三一

第三調 水曜日の晩堂課 六三二

生神女よ、我に痛悔の歎と靈の涙とを與へ給へ、我が多くの罪過及び良心の不正の爲に泣きて、爾の慈憐を蒙らん爲なり。

童貞女よ、我意念にて躓き、滅込の淵に陥りて、今爾の援助を求む。我が弱りたる靈を神の誠の堅き石の上に動なく建て給へ。

光榮

我は果を結ばざる無花果樹にして、我が神造物主が我を研りて火に投ぜんことを定むるを畏る。女幸よ、速に我に善行の果を結ぶ痛悔を與へ給へ、我が爾を讃榮せん爲なり。

今も

王の清き宮たるべき吾が心は我不當なる諸慾にて之を汚せり。神の恩寵を蒙れる至淨なる者よ、祈る、之を潔めて、貞潔と潔き度生と善行とを以て飾り給へ。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

我と戦ひ我を攻むる者多し、我を環る者より遁るる路なし。潔き者よ、私の祈を棄つる勿れ。

我多くの悪、多くの吾が罪に壓せられて、天の高きに目を擧ぐる能はず。至淨なる者よ、爾我に赦を與へ給へ。

光榮

凶悪なる蛇は毎日我が卑しき靈を裂かんことを謀る。生神女よ、彼が靈を滅す齒を折き給へ。

今も

生神女よ、我爾の僕を凡の禍及び罪の暴風より脱れしめ、爾の祈禱を以て我を救の港に向はせ給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

我が罪の淵と亂れたる意念の烈しき暴浪とを思ひて慄く。至淨なる者よ、爾我を導きて穩なる港に向はしめ給へ。

無感覺は我が靈に至りて、我生の中に行ひし悪を忘れたり。至淨なる者よ、爾我に行ひしことを痛悔するを得しめ給へ。

光榮

かみ はは われ なみだ ながれ あた しょよく ひ け わ ちえ あつ せぞく あらなみ しず
神の母よ、我に涙の流を與へて、諸慾の火を滅し、我が智慧を壓する世俗の暴浪を鎮
め、聖神の火を以て罪の棘を焚き給へ、爾は我の幙、我の美譽なればなり。

第三調 水曜日の晩堂課 六三三

第三調 水曜日の晩堂課 六三四

今も

われ あ おもい あらなみ まった おぼ つね しつぼう ふかみ ひ なんじ よ じよさい
我悪しき思の暴浪に全く溺らされ、常に失望の深處に引かれて、爾に呼ぶ、女宰よ、
我爾の僕を救ひ給へ。

第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して光榮の諸天使に繞らるる神を見し
時に籲べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見
せり。

じよさい なんじ わ たましい やまい からだ ふのう わ ちえ よわき かわ やす し ゆえ なんじ
女宰よ、爾は吾が靈の病、體の不能、吾が智慧の柔弱と變り易きとを知る。故に爾
の慈憐と恩寵とを我に獲しめ給へ、我が爾の幙の下に救はれて、爾を讚榮せん爲
なり。

じゆんけつ じよさい なんじ じんあい こうおん わ たため とぎ なか しょうかん いだ なんじ きた もの なんじ
純潔なる女宰よ、爾の仁愛の宏恩を我が爲に閉す勿れ。傷感を抱きて爾に来る者に爾
の慈憐及び諸罪の潔淨と赦免とを與へ給へ、我が感謝して爾の偉大なるを歌はん爲
なり。

光榮

どうていじょ いたざら われ にく われ せ もの いま わ こうべ け おお われ とら
童貞女よ、徒に我を惡み、我を攻むる者は今我が首の髪よりも多くなりて、我を執
へて己の獲と爲さんと謀る。潔き者よ、彼等を辱かして返らしめ給へ。

今も

へいあん おう う よ せかい へいあん しゅうじん すくい たま いさぎよ どうていじょ わ たましい
平安の王を生みしに因りて世界に平安、衆人に救を賜ひし潔き童貞女よ、我が靈
と體との諸慾の戦を救世主ハリストスを畏るる畏と彼を愛する愛とを以て平安な
らしめ給へ。

第六歌頌

イルモス、今を限の淵は我を圍み、我が靈は凸びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾
の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

ちじょう あ もの うちおもい ことば おこない おい あく もつ われ こ もの ゆえ じよさい
地上に在りし者の中思と言と行とに於て惡を以て我に超ゆる者なし。故に女宰よ、
我爾の仁愛を求む、我に慈憐を垂れ給へ。

ざいあく おこな つね かなしみ う ゆえ われ ら いまくる わざわい かこ ひとり
罪惡行はれて常に悲哀を生む、故に我等今苦しき禍に圍まる。獨「ハリストティア
ニン」等の救なる者よ、我等を助け給へ。 **光榮**

しょうしんどうていじょ なんじ う のち いさぎよ もの あらわ ゆえ なんじ う もの われ ら なんじ
生神童貞女よ、爾は生みし後にも潔き者と顯れたり。故に爾が生みし者に、我等爾
の諸僕が凡の敵の害より救はれんことを常に祈り給へ。 **今も**

かみ ことば なんじ しじょう はは しゅう よげんしや ちめいしや およ せい もんと きとう よ
神の言よ、爾の至淨なる母、衆預言者と致命者と及び聖にせられし門徒の祈祷に由
りて、我等に平安と諸罪の潔淨とを與へ給へ。

次ぎて主憐めよ、三次、光榮、今も、

セダレン
坐誦讚詞、第三調。

至^{しじょう}淨^{もの}なる者^{われ}よ、我^お多^おくの怠^{おこたり}惰^{うち}の中に我^わが生^{いのち}を送^{おく}れり、今^{いま}は我^わが時^{とき}の終^{おわり}に近^{ちか}づきて、
我^わが諸^{しよてき}敵^{われ}が我^{われ}の靈^{たましい}を執^{とら}へて滅^{ほろび}亾^{ふかみ}の深^{おと}處^{おそ}に墜^{おそ}さんことを畏^{おそ}る。純^{じゆんけつ}潔^{どうていじよ}なる童^{なんじ}貞^{なんじ}女^{なんじ}よ、爾^{なんじ}
の僕^{ぼく}を憐^{あわれ}みて、我^{われ}を其^{われ}迫^{その}害^{はくがい}より救^{すく}ひ給^{たま}へ。

第七歌頌

イルモス、昔^{むかし}敬^{けいけん}虔^{けん}なる三^み人^{たり}の少^{しょう}者^{しや}をハルデヤ^{ほのお}の焔^{すず}に涼^{ごと}しくせし如^{われ}く、我^ら等^{しんせい}をも神^{しんせい}性^{せい}
の明^{あか}るき火^ひにて輝^{かがや}かし給^{たま}へ、吾^わが先^{せん}祖^ぞの神^{かみ}よ、爾^{なんじ}は崇^{あが}め讚^ほめらると呼^よべばなり。
女^{じよさい}宰^{さい}よ、我^{われ}體^{からだ}と靈^{たましい}とに汚^{けが}され、不^ふ潔^{けつ}の行^{おこない}に盈^みちたる者^{もの}は爾^{なんじ}潔^{じゆんけつ}淨^{じゆん}無^む玷^{てん}なる神^{かみ}の母^{はは}の
慈^{じれん}憐^{たのみ}を頼^いみて祈^{しじょう}る、至^{もの}淨^{われ}なる者^{あわれ}よ、我^{たま}を憐^{あわれ}み給^{たま}へ。
我^わが罪^{つみ}の多^おく、我^わが惡^{あく}の甚^{はなはだ}しきを思^{おも}へば、我^わが心^{こころ}痛^{いた}く惑^{まど}ひて、我^{われ}を失^{しつぼう}望^{ふかみ}の深^ひ處^ひに引^ひ
く。至^{しじょう}淨^{じよさい}なる女^{なんじ}宰^{われ}よ、爾^{なんじ}我^{おぼ}烈^{はげ}しく溺^{おぼ}らされて亾^{ほろ}ぶる者^{もの}を救^{すく}ひ給^{たま}へ。

光榮

至^{しじん}仁^{しゆ}なる主^{なんじ}よ、爾^{じんじ}が仁^{こうおん}慈^おの宏^{もつ}恩^わの多^{つみ}きを以^おて我^おが罪^おの多^おきを蔽^おひて、我^{われ}等^らの爲^{ため}に寛^{かん}容^{よう}
の者^{もの}と爲^なり給^{たま}へ。蓋^{けだし}我^{われ}等^ら黙^{もた}さずして呼^よぶ、主^{しゆ}吾^わが先^{せん}祖^ぞの神^{かみ}よ、爾^{なんじ}は崇^{あが}め讚^ほめらる。

今も

祝^{しゆくさん}讚^{もの}せらるる者^{しよ}よ、諸^{しよ}愆^{よく}の塵^{ちり}、憂^{うれい}愁^{ふかみ}の深^{せぞく}、世^{わざわい}俗^{むよく}の禍^{いさぎよ}より無^{たのしみ}愆^{われ}と潔^らき樂^たとに我^ら等^ら
を移^{うつ}し給^{たま}へ。蓋^{けだし}我^{われ}等^ら呼^よぶ、爾^{なんじ}は獨^{ひとり}神^{かみ}の恩^{おん}寵^{ちやう}を蒙^{こうむ}れる者^{もの}なり。

第八歌頌

イルモス、敬^{けいしん}神^{しん}の少^{しょう}者^{しや}は無^む形^{けい}の火^ひにて物^{ぶつ}質^{しつ}の火^ひの焔^{えん}を滅^{めつ}して歌^{うた}へり、主^{しゆ}の悉^{ことごと}くの造^{ぞう}物^{ぶつ}
は主^{しゆ}を崇^{あが}め讚^ほめよ。
逸^{いつらく}樂^{がく}の苦^{にく}味^みは肉^{くんにく}體^{たい}の感^{かん}覺^{かく}を經^へて、吾^わが靈^{たましい}を甚^{はなはだ}しく汚^{けが}して、死^しに至^{いた}らしむ。世^せ界^{かい}の女^{じよ}宰^{さい}
よ、我^{われ}が爲^{ため}に救^{すく}いと爲^なり給^{たま}へ。
女^{じよさい}宰^{さい}よ、我^{われ}靈^{たましい}と心^{こころ}と肉^{にく}體^{たい}とを爾^{なんじ}に託^{たく}せり、我^{われ}に爾^{なんじ}の外^{そと}に佗^たに慈^{じれん}憐^うを受^{たのみ}くべき頼^{たのみ}な
ければなり。故^{ゆえ}に爾^{なんじ}の豊^{ゆたか}なる慈^{じれん}憐^{おん}と恩^{ちやう}寵^わとを我^{われ}に與^{あた}へ給^{たま}へ。

光榮

へび ひそか ちか にくたい いつらく どく もつ はなはだ わ ふとう たましい がい いさぎよ
蛇^{へび}は潜^{ひそか}に近^{ちか}づきて、肉^{にく}體^{たい}の逸^{いつらく}樂^{どく}の毒^{もつ}を以^{はなはだ}て甚^わしく吾^{ふとう}が不^た當^たなる靈^{じれん}を害^うせり。潔^{たのみ}
き者^{もの}よ、爾^{なんじ}の祈^{きとう}禱^{りやう}の良^{もつ}薬^{これ}を以^いて之^{たま}を活^たかし給^{たま}へ。

今も

かみ きゆうせいしゆ へいあん きみ う どうていじよ すみやか せかい へいあん つかわ かれ いの たま
神^{かみ}救^{きゆう}世^{せい}主^{しゆ}、平^{へい}安^{あん}の君^{きみ}を生^うみし童^{どう}貞^{てい}女^{じよ}よ、速^{すみ}に世^せ界^{かい}に平^{へい}安^{あん}を遣^{つか}さんことを彼^{かれ}に祈^{いの}り給^{たま}
へ、我^{われ}等^らが平^{へい}安^{あん}の中に彼^{かれ}を讚^{さん}榮^{えい}せん爲^たなり。

第九歌頌

イルモス、我^{われ}等^らは爾^{なんじ}焚^やかれぬ棘^{いばら}及^{およ}び聖^{せい}なる童^{どう}貞^{てい}女^{じよ}、光^{ひかり}の母^{はは}及^{およ}び生^{しょう}神^{しん}女^{じよ}、我^{われ}等^ら衆^{しゆ}の倚^{たのみ}頼^{たのみ}

なる者を崇め讃む。
潔き者よ、吾が靈の諸愆の思念の汚を潔めて、我ら無愆の美しき衣を衣せ給へ。
童貞女よ、我に痛悔の神聖なる門を啓き、我が諸愆と逸樂との門を閉して、爾の力を以て之を禁め給へ。 **光榮**

純潔なる童貞女よ、我が歎の聲、我が泣聲を聴きて、我が不當なる靈に潔淨と拯救とを與へ給へ。 **今も**

童貞女よ、預言者ダニエルは日の老いたる者が寶座に坐するを見し時、其時又實に嚴

に爾の産を見たり。
次ぎて「常に福にして」、及び躬拜。聖三祝文。「天に在す」の後に讚詞。其他常例のし、并に發放詞。



木曜日の早課

第一の誦文の後に坐誦讚詞、第三調。

皆來りて、使徒等を教導師として崇め讃めん、彼等は偶像の迷を虚しくし、人人を生命の光に導き、聖三者を信ぜんことを教へたればなり。故に我等信者は今彼等の尊き記憶を行ひて、ハリストス我が神を讚榮す。

句、其聲は全地に傳はり、其言は地の極に至る。

主よ、爾は使徒等の記憶を輝せり、蓋全能者として彼等を爾の苦に效はん爲に堅め給へり。彼等は勇ましく敵の力に勝てり、故に諸病を醫す恩寵を受けたり。人を愛する主よ、彼等の祈祷に因りて爾の民に平安を與へ給へ。

光榮、今も、生神女讚詞。

生神女よ、爾は無原なる父と一體なる悟られず形られぬ主を奥密に爾の腹に容れ給へり。我等は聖三者の唯一にして混淆せざる神性を曉りて爾の産を世界に讚榮す。故に感謝して爾に呼ぶ、恩寵を蒙れる者よ、慶べ。

第二の誦文の後に坐誦讚詞、第三調。

使徒等は神の言の流を全地に飲ませしに、信の穂は生じて、世界の四極に充ち、稗は皆斫られたり。故に彼等は衆をハリストス神に導きて、造られざる聖三者の名に因

第三調 木曜日の早課 六三九

第三調 木曜日の早課 六四〇

りて洗を授けたり。

句、諸天は神の光榮を傳へ、穹蒼は其手の作爲を誥ぐ。

再右の坐誦讚詞を誦すべし。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

聖なる受難者よ、慈憐なる神に我等の靈に諸罪の赦を賜はんことを祈り給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

至淨なる者よ、爾が實に生神女たるを預言者は傳へ、使徒は教へ、致命者は承け認め、我等は信じたり。故に爾の産を崇め讃む。

第三の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

ハリストスよ、爾は慈憐なるに由りて、爾の使徒等を地の四極に遣ししに、彼等は鋭く尖りたる箭の如く、凡の不虔と妄信とを殪し、救の教を植えたり。宏恩なる主よ、彼等の祈祷に因りて我が靈に平安を與へ給へ。

聖ニコライよ、我等爾眞實の傳道師、世界の最光明なる燈を讃め歌ひて、信を以て祈りて呼ぶ、無罪の者を死より脱しし如く、斯く我等をも諸の災禍、憂愁、及び凡の害より救ひ給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

純潔なる女宰よ、多くの罪にて殺されたる我が靈を活かし給へ、爾の子の前に母の勇敢を有てばなり。蓋爾獨智慧及び明悟に超えて父及び聖神と同無原なる言、常に世界に生命と不朽と大なる憐とを賜ふ主を生み給へり。

光榮にして讚美たる聖使徒の規程。フェオファンカノンの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。來りて、我等は教會の柱、信の基、敬虔の礎、衆信者を堅むる聖使徒等を崇め讃めん、彼等の祈祷に由りて救を得ん爲なり。二次。

義なる審判者よ、我放蕩の者は畏れて審判に先だちて自ら己を定罪す、無数の悪しき行を有てばなり。故に爾に祈る、望を失ひし我を爾の使徒の神聖なる祈祷に由りて救ひ給へ。

敬虔の動かざる柱よ、我敵の誘惑に因りて躓きて地に伏し、難に遭ひて惑へる者を起し給へ、我が犯したる罪の赦を得ん爲なり。

第三調 木曜日の早課 六四一

第三調 木曜日の早課 六四二

生神女讃詞

潔き者よ、聖預言者、使徒、致命者と偕に爾より身を取りし主に切に祈り給へ、願はくは彼は我が悉くの肉慾を殺して、我等に永遠の生命を賜はん。

又聖大奇跡者ニコライカノンの規程。イオシフの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、紅の海に至妙なる奇蹟を行ひし主に歌はん、蓋彼は海を以て敵を蔽ひ、イズライリを救ひ給へり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

至りて光明なる滅えざる燈、地上に建てられし柱、神聖なる港に送る嚮導師たるニコライを我等衆常に世俗の浪に溺らさるる者は尊みて、愛を以て讚美せん。

至福なるニコライよ、爾は神の力に堅められて、智慧に適ふ敬虔の熱心を得たり、故に非義に死に定められし者を救へり。祈る、我等を凡の非義なる侵害より救ひ給へ。神父よ、爾絶えず主に捧を獻げ給へ、彼が獨仁慈なるに因りて、我等を諸の罪、災禍、憂愁及び永遠の火の苦より脱れしめん爲なり。

生神女讃詞

神聖なる慈憐の言ひ難き淵に由りて我等の悉くの不法を除く立法者を容れ給ひし神聖の約置たる至りて潔きマリヤを我等同心に讃め歌はん。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

世界の四極を神聖なる教に充てたるハリストスの實見者よ、吾が靈を義徳の行及び善なる思に充て給へ。二次。

ハリストスの門徒よ、我を凶悪者の多くの誘惑、及び凡の憂愁、凡の災難、凡の侵害より脱れしめ給へ。

嗚呼我が不當にして卑微なる靈、屢罪を犯して神を怒らす者よ、悪を行ふを息めずして、如何ぞ之を赦すを求めん。

生神女讃詞

イアコフの見たる神聖なる梯、此に縁りて神が降りて我等を升す者よ、使徒等と偕に我等を宥めんことを切に祈り給へ。

又

イルモス、果を結ばざる子なき靈よ、榮えたる果を獲て、楽しみて呼べ、神よ、我爾

第三調 木曜日の早課 六四三

第三調 木曜日の早課 六四四

に因りて堅められたり、主よ、爾の外に聖なるはなく、義なるはなし。

睿智なる神父ニコライよ、爾は磨ぎたる屬神の劍と顯れて、異端者の悪しき稗を斫り、信者の爲に諸徳の救の道を平にし給ふ。

聖なる者よ、我等は爾醫治の流を注ぐ泉に祈る、爾の祈禱を以て我等衆の諸愆の汚を洗ひて、我等を災禍及び憂患より脱れしめ給へ。

爾の力ある祈禱にて敵を倒す神父ニコライよ、今も諸愆の攻撃に由りて弱りたる我等の意念を爾の聖なる祈禱を以て堅め給へ。

生神女讃詞

純潔なる神の母よ、智慧に超ゆる爾の産を智慧は悟る能はず。故に爾に祈る、我が智慧に恩寵を與へて、常に爾を讃榮せしめ給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

言よ、爾は使徒等を電の如く、暮れざる日の光線の如く世界の四極に遣して、衆を照し、無神の幽暗を拂ひ給へり。二次。

言よ、甚しき罪の海は我を溺らし、不當なる思の暴浪は我が卑微なる靈を擾す。舵手なる主よ、爾の門徒の祈祷に由りて我を救ひ給へ。

主宰よ、我爾の畏るべき降臨を思ひて慄く、審判に先だちて吾が衷に我を定罪する良心及び我が無感覺を責むる苦痛を有てばなり。

生神女讃詞

童貞女・神の少女より生れし神の言・救世主よ、彼及び爾の睿智なる使徒の聖なる轉達に由りて、我等の靈を凡の侵害と凡の患難より救ひ給へ。

又

イルモス、潔き者よ、アウワクムは樹蔭繁き山として爾の至淨なる體を預見して籲べり、神は南より、聖なる者は樹蔭繁き山より來らん。

神父ニコライよ、凡の信者は常に爾を神の前に轉達者として進む。故に爾に祈る、我等を烈しき誘惑及び罪の墮落より脱れしめ給へ。

睿智にして至福なる神父よ、爾は心の中に活ける水として主の恩寵を有ちて、常に患難の火及び諸罪の早に惱まされて滅びんとする者を濕し給ふ。

昔非義に死に曳かるる者を救ひし至福なる者よ、今我等をも害を爲す人人の攻撃及び凡の悪鬼の誘惑より救ひ給へ。

生神女讃詞

第三調 木曜日の早課 六四五

第三調 木曜日の早課 六四六

至淨なる者よ、爾は最多き慈憐に因りて人體を取りし言を言ひ難く生み給へり。彼に我等衆を肉慾の汚及び凡の度生の患難より救はんことを祈り給へ。

第五歌頌

イルモス、人を愛する主よ、爾は見えざる者にして地に現れ、悟り難き者にして甘じて人人と偕に居りたり。我等朝の禱を奉りて爾を讃め歌ふ。

ハリストスよ、爾は地上に身を取りて、門徒等を爾の光榮を傳ふる天と爲し給へり。

主よ、彼等に由りて我等の靈を憐み給へ。二次。

言よ、爾の諸僕を爾の使徒等の納れらるべき祈祷に由りて、諸慾及び凡の患難と烈しき攻撃より脱れしめ給へ。

嗚呼我が慾に耽りたる靈よ、結果なき者にして、如何ぞ爾は畏るべき審判の前に立たん、速に痛悔して、諸徳の果を結べ。

生神女讃詞

潔き者よ、爾の淨き血より身を取りて、言ひ難く地に現れし主に、其爾の子たるに因りて、我等に潔淨を賜はんことを常に祈り給へ。

又

イルモス、ハリストス神よ、爾の暮れざる光にて我が謙卑の靈を照して、爾を畏るる畏に導き給へ、爾の誠は光なればなり。

至りて潔き光の前に立ちて、常に彼處より出づる光線に照さるる神父よ、衆の爲に潔淨と平安とを求め給へ。

至仁の主よ、無智なる意念を以て衆人に超えて爾を怒らする我をニコライの熱切なる祈祷に因りて宥め給へ。

神父ニコライよ、我怠惰の中に吾が生を費して、爾に祈る、我が汚たれる思を痛悔に起し給へ。

生神女讃詞

天使等の歡喜たる、獨恩寵を蒙れる者よ、我が憂ひて煩悶に沈める心を歡喜に充て給へ。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は匹びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

使徒の會よ、屬神の睿智の河を流し、世俗の意念の流を涸らして、敬虔の者の會に飲ましめ給へ。二次。

我が卑微なる靈よ、歎息し、流涕し、主に籲びて曰へ、主宰よ、我爾に罪を獲た

第三調 木曜日の早課 六四七

第三調 木曜日の早課 六四八

り、仁慈なる主よ、爾の睿智なる使徒の祈祷に因りて我を潔め給へ。

諸愆の河は溢れて、吾が靈の家を溺らせり。屬神の河たる使徒等よ、残はれたる我を新にして活かし給へ。

生神女讃詞

ハリストスよ、使徒の會は爾を生みし者と偕に祈る、仁慈の主、寛容なる神として爾の諸僕に潔淨と平安とを降し給へ。

又

イルモス、諸愆の深處は我を沈め、逆風の狂暴は起りて我を攻む。救世主よ、急ぎて我を救ひ、預言者を猛獸より救ひし如く、我を淪滅より脱れしめ給へ。

睿智者よ、爾は節制を以て肢體を制して、老いざる生命を得たり。祈る、我等をも爾の祈祷に因りて、之に與る者と爲して、罪惡を脱れしめ給へ。

睿智なる成聖者よ、爾の聖にせられし祈祷の帆を以て我等を多種の誘惑の海及び罪の深處より脱れしめて、生命の港に送り給へ。

成聖者よ、爾はミラリキヤの寶座の飾と爲りて、司祭諸長の裝飾と顯れたり。祈る、爾の祈祷を以て我等を世の誘に惱まされざる者として護り給へ。

生神女讃詞

潔き母よ、爾の胎に入りし言は唯一の神として慈憐の多きを以て、昔犯罪に由りて人人の中に入りし朽壞を外に逐ひ給へり。

第七歌頌

イルモス、昔三人の少者はペルシヤ人の尊める金の像に伏拜せずして、爐の中に歌へり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

光明なる使徒等よ、世界の光なるハリストスは爾等を迷の幽暗を拂ひ、信者の智慧を照す光と顯し給へり。二次。

神の聲たる使徒等よ、我等に向ひて設くる所の敵の網を破りて、爾等に趨り附く我等の爲に痛悔の途を平にし給へ。

神の言を傳へし主の使徒等、神聖なる鹽たる者よ、肉慾に因りて朽ちたる吾が靈を潔めて活かし給へ。 生神女讃詞

イアコフの榮たる者よ、祈る、爾の潔き血より生れし主に今使徒等と偕に祈りて、諸徳の華美を以て我を飾り給へ。

又

イルモス、三人の少者は爐に於て聖三者を像りて、火の恐嚇を履み、歌ひて呼べり、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

神父ニコライよ、爾は眞實の牧師長として、昔主の民を害する狂暴なるアリイを爾

第三調 木曜日の早課 六四九

第三調 木曜日の早課 六五〇

の言の縲綯にて縛り給へり。

神父ニコライよ、爾は潔く爾の至聖なる度生を終へて、今諸聖人と偕に居りて、敬虔に爾を讃美する者に成聖と光照とを遣し給ふ。

神父ニコライよ、我等は爾を備はりたる保護者、熱心なる轉達者として常に呼ぶ、我等を諸慾及び我等に及ぶ所の俟たざる誘惑より脱れしめ給へ。

生神女讃詞

光を生みし潔き者よ、簡慢に由りて靈を味ましし我を照して吾が心の燈を燃し給へ、我が熱心に爾を讃榮せん爲なり。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

我凶悪者の誘惑に因りて諸慾の武器にて傷つけられ、無智にて心を殘へり。靈體の醫師たる光榮なる使徒等よ、我全身病める者を醫し給へ。二次。

聖なる傳道師の言は全地に傳はりて、正しく惟一の神、聖三者の一の性、一的能力、一の權柄を萬世に尊まんことを教へたり。

主宰よ、我多くの罪を行ひ、常に罪惡に在りて爾の神聖なる恒忍を盡しし者を憐みて、痛悔に召し給へ、爾は、言よ、我の不能と怠惰と無智とを知ればなり。

生神女讃詞

神聖なる熾炭を言ひ難く執りし神聖なる鉗たる至りて潔き生神女よ、爾及び讃美たる聖使徒等の祈祷の露を以て我が諸慾の燃ゆる炭を滅し給へ。

又

イルモス、至高いとたかきに天使等てんしより黙もださずして讚榮さんえいせらるる神かみを、諸天しよてんの天てんと地ち、山やまと岡おかと深處ふかみ、及びおよ悉ことごとくの人類じんるいは、歌うたを以て造成主ぞうせいしゅ及び贖罪主しよくざいしゅとして崇め讚めて、萬世ばんせいに讚め揚げよ。

克肖者こくしやうしゃよ、爾なんじは溫柔おんじゆうなる者と爲りて、溫柔おんじゆうなる者の地ちを嗣つぎたり。故ゆえに我信われしんを以て爾なんじに祈いのる、常つねに我われと戦たたかふ凶悪者きやうあくしやの暴浪あらなみを爾なんじの祈きとうを以て鎮め給へ。

聖ニコライせいよ、爾なんじは非義ひぎに死しに定められたる軍將ぐんしやうを救すくひし如ごとく、斯かく救世主きやうせいしゅに祈りて、我等われらを悪あしき人人ひとびとの侵害しんがい及び凡おおよその悪鬼あくきの詭計きけいより救すくひ給へ。

聖ニコライせいよ、爾なんじは人人ひとびとに正直せいぢやくなる救すくいの道みちを示しめせり、生いのちを度わたる我等われらを爾なんじの祈きとうに因りて之これに向むかはしめ給へ、我等われらが共に生命いのちの門もんに入いらん爲ためなり。

生神女讚詞

至淨しじやうなる者ものよ、爾なんじより生うまれし主しゅは我が力ちから我が歌うたなり。童貞女どうていじよよ、慾よくに由りて弱よわりた

第三調 木曜日の早課 六五一

第三調 木曜日の早課 六五二

る我われを堅かためて、彼かれの救すくいの戒いましめを行おこなはしめんことを切せつに彼かれに祈いのり給へ。

次つぎて生神女せいじんじよの歌うたを歌うたふ、「我が靈たまは主しゅを崇あがめ」、拜をがと共に。

第九歌頌

イルモス、我等われら信者しんじやは影かげ及び文ぶんなる律法りつぽうに於て預象よしやうを見みん、凡おおよそ始めて生うまるる男子だんしは神かみに獻ささげられたり。故ゆえに我等われらは無原むげんの父ちちより始めて生うまれし言ことば、夫おおよなき母ははより始めて生うまれし子こを崇あがめ讚ほむ。

爾なんじの門徒等もんどうらの言ことばにて地ちの四極しきやくを固かためし無原むげんなる父ちちの言ことばよ、無智むちの慾よくに躓つまづきて悪鬼あくきの誘惑いざないを以て溺おぼらさるる我われを彼等かれらの祈きとうに由りて宥なだめ給へ。二次。

諸慾しよよくの奴隸なれいと爲りし我が靈たまよ、我等われらの爲ために苦くるしみを受けし主しゅに祈いのりを獻ささげよ、彼かれが其肉體そのにくたいの苦くるしみに效ならひし聖せいなる門徒もんどうの祈きとうに由りて、爾なんじを永遠えいゑんの苦くるしみより救すくはん爲ためなり。

ハリストスはりすとすの門徒等もんどうらよ、主しゅと偕ともに坐ざして審判しんぱんに服ふくする者ものを審判しんぱんせん時とき、不當ふどうの行おこないにて汚けがされたる吾われが靈たまを定罪ていざいせられざる者ものとして護まもり給へ、爾等なんじらは我が善ぜんなる保護者ほごしや及び世界せかいの轉達者てんたつしやなればなり。

生神女讚詞

諸聖しよせいの聖せいなる神かみを智慧ちえ及び言ことばに超こえて生うみし潔いさぎよき童貞女どうていじよ、至淨しじやうなる童貞女どうていじよ、ハリストスはりすとすの宮みや、至聖しせいなる童貞女どうていじよよ、聖せいなる使徒等しどうじんと偕ともに衆人しゆじんの爲ために祈いのり給へ。

又

イルモス、モイセイぎんはシナイ山おひに於て棘いげらの中に、爾なんじを焚やかれずして神性しんせいの火ひを胎内たいないに孕はらみし者ものとして觀み、ダニイルなんじは爾なんじを截きられざる山やまとして觀み、イサイヤいさいやは芽めを萌きざし杖つえ、ダワイドだわいどの根ねより出いでし者ものなりと呼よべり。

神父しんぶニコライニコライよ、地上ちじやうの世界せかいは爾なんじを神聖しんせいなる垣牆かきと保固かため、及び善おおよき避所よとして獲かくれがたり、蓋え我等われらは常つねに爾なんじの轉達てんたつに因りて凡おおよその誘惑いざない及び侵害しんがいより救すくはる。故ゆえに我等われら信しんを以もつ

て爾を歌ひて崇め讃む。
至福なる者よ、我多くの攻撃に狭められて、爾の熱心なる祈祷の廣きに趨り附きて、
爾に呼ぶ、吾が靈の病を醫し、失望の浪を鎮め、我が智慧の紛擾を治め給へ。
造成主は來りて、全地を審判せん、我不當にして備なき者は我が悪事の多きを思ひ
て慄く。恒忍なる主よ、爾の克肖者ニコライの神聖なる祈祷に由りて我を宥めて救
ひ給へ。

生神女讃詞

光を生みし童貞女よ、爾は我が救の光照と顯れて、吾が靈の暗黒なる雲を拂ひ給

第三調 木曜日の早課 六五三

第三調 木曜日の早課 六五四

へり、我が爾の祈祷に由りて聖なる事を行ひて晝の子と爲らん爲、歌頌の中に敬み
て爾を讃美せん爲なり。

次ぎて「常に福にして」、聯禱及び光耀歌。

挿句に讃頌、第三調。

聖なる使徒等よ、爾等の聲は全地に傳はれり、爾等は偶像の迷を破りて、神を知る
知識を傳へたり、福たる者よ、是れ爾等の善なる功勞なり。故に我等は爾等の記憶
を歌ひて崇め讃む。

句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。
爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はく
は爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

ハリストスの誠を玷なく守りし聖なる使徒等よ、爾等は費なく受け、費なく與へ
て、我等の靈と體との苦を醫し給ふ。故に勇敢を有ちて彼に我等の靈の憐を蒙
らんことを祈り給へ。

句、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作进行を我等に助け給
へ、我が手の工作进行を助け給へ。

聖なる致命者よ、爾等は善き戦を戦ひしに由りて、死の後にも世界の中に光體の如
く輝く。故に勇敢を有ちてハリストスに我等の靈を憐まんことを祈り給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

爾は種なく聖神に由りて孕み給へり。故に我等爾を讃榮して歌ふ、至聖なる童貞女
よ、慶べ。

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」、第一時課、及び發放詞。



木曜日の眞福詞、第三調。

ハリストスよ、爾は誠に背きし原祖アダムを樂園より逐ひ出せり。然れども爾、洪恩

なる主よ、十字架に在りて爾を承け認めし盜賊、救世主よ、爾の國に於て我を憶ひ給へと呼ぶ者を其中に入れ給へり。

句、義の爲に窘逐せらるる者は、福なり、天國は彼等の有なればなり。

使徒等よ、爾等は十字架の杖を以て人人を無知の深處より引き出し、エルリンの迷を地より拂ひて、實に信者を救ふものと爲れり。故に讚美せらる。

句、人我の爲に爾等を語り、窘逐し、爾等の事を譎りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福なり。

第三調 木曜日の眞福詞 六五五

第三調 木曜日の眞福詞 六五六

光榮なる使徒等よ、爾等は義の日の靈妙なる光線及び光明と爲りて、邪教の黒暗を拂ひ、衆人を神を知る智識の光に導き給へり。故に我等は爾等を尊む。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

睿智なる聖受難者よ、爾等は苦の火を忍びて、上より恩寵の露を承け、ハリストスの悦を爲す者として恒に人人の苦を醫し給ふ。故に我等信を以て爾等を尊む。

光榮

三者の聖にせられし傳道師、ペトルとパウエル、マルコとルカ、マトフェイ、シモン、イアコフ、アンドレイ、イオアン、フォマ、ワルフォロメイ、及び睿智なるフィリップよ、我等が凡の患難より救はれんことを常に熱心に彼に祈り給へ。

今も

使徒の飾、聖受難者の歡喜たる神の恩寵を蒙れる女宰よ、我等衆の爲に救世主及び神に祈り給へ、我等が諸罪の赦を受けて、神聖なる生命に與る者と爲らん爲なり。



木曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に十字架の讚頌、第三調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん、然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

主よ、爾は神の性を以ては苦に與らざる者にして、爾の人の性を以て苦を受け、十字架に釘せられ、戈にて脅を刺されて、是より我が爲に言ひ難き機密の二の河を流し給へり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。

萬有の王よ、爾は棘を以て編みたる冕を戯に冠らせられて、罪の棘を根より絶せり。救世主よ爾は韋を手執りて、我等衆爾を信ずる者を上の書に録し給へり。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

寛容なるハリストスよ、エウレイ人の不義なる嫉妬は爾を十字架に釘して後、爾が死

せし後にも敢て息まざりき、残忍の者は爾を惑はす者なりと讒して、ピラトに爾の墓を守るを求めたり。嗚呼醫されぬ怒や。

又至聖なる生神女の讃頌、同調。

第三調 木曜日の晩課 六五七

第三調 木曜日の晩課 六五八

句、願はくはイズライリは主を待まん、蓋 憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其 悉くの不法より贖はん。

爾の腹より出でて輝きし入らざる日の十字架に在りて入りたるを見し時、爾は靈に痛く悲しみて呼べり、甘じて入りたる日よ、復輝きて、我及び世界を照し給へ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

生ける者と死せし者とを審判せん爲に來らんとする主を生みし女幸よ、病みて死したる吾が靈を痛悔に由りて爾の子の脅より流れたる神聖なる血を以て活かして、我を其生活の誠を行ふ者と顯し給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

牝羊及び母は云へり、子よ、我産苦なくして爾を生みし時、憂及び悲の闇を脱れたり、然れども今は、吾が主宰よ、爾が十字架に擧げられしを見て、苦しき矢は吾が心を貫き、我無量の哀に沈む。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

至淨なる者は呼べり、言よ、爾の釘せらるるに由りて世界は憐を蒙り、造物は照され、異邦人は救を得たり、唯我は今爾主宰の自由なる苦を見て心裂かる。

挿句に讃頌、第三調。

ハリストスよ、我等は爾の尊き十字架、世界の守護、我等罪人の拯救、大なる潔淨、諸王の勝利、全世界の美譽なる者に伏拜す。

句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

モイセイは山に於て十字形に手を上に舒べて、アマリクに勝てり。爾は、救世主よ、尊き十字架の上に手を舒べ、我を抱きて、敵の奴隷より救ひ、我に生命の記章を與へて、我が諸敵の弓より脱れしめ給ふ。故に言よ、我爾の尊き十字架に伏拜す。

句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に鑿き足れり、我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮とに鑿き足れり。

主よ、爾の十字架の能力は大なり、蓋一の處に建てられて、全世界に行動し、漁者の中より使徒、異邦人の中より致命者を現して、我等の靈の爲に祈らしむ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

我が至仁なるハリストスよ、純潔なる者は爾が木に擧げられしを見て、母として泣きて呼べり、吾が至愛の子よ、如何ぞ不法なる會は爾を十字架に擧げたる。

木曜日の晩堂課

至聖なる生神女の規程。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、
 是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。
 至淨なる者よ、我爾、預言者アウラクムが神を以て預見せし樹蔭繁き山に祈る、愆
 の火に苦しめる我を爾の蔭に蔽ひて、死の蔭の甚しき患難より脱れしめ給へ。
 潔き者よ、爾の子の神聖なる脅より出でし神聖なる血の注ぐを以て吾が心の疵を滌
 ひ給へ、我が宜しきに合ひて爾永福無玷なる者を崇めて讃榮せん爲なり。

光榮

潔き者よ、爾は父と同じく行爲する言、人の性を神成せし主を生み給へり。彼に祈
 りて、我惑ひて敵の悪謀に因りて弱りたる者に神聖なる慰を得しめんことを求め給
 へ。

今も

童貞女よ、爾の神聖なる祈禱を以て我に諸罪の潔淨を與へ給へ、女宰よ、爾の祈禱
 は有能なればなり。爾を歌ふ者をも諸罪、諸愆、憂愁、患難より脱れしめ給へ。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者
 よ、爾の愛に我を固め給へ。
 慈憐にして至淨なる童貞女よ、仁愛の言ひ盡されぬ、宏恩の富める主に我等苦しめら
 るる者を宥めんことを祈り給へ。
 萬有の造成主の殿たる潔き童貞女よ、我靈を害する盜賊の巢窟と爲りし者の中に
 撫恤者の入らんことを祈り給へ。

光榮

神として萬有を持つ主を己の手に抱きし生神女よ、我を眷みて、諸愆に傾ける不當
 の意思より脱れしめ給へ。 今も

至淨なる生神女よ、祈る、我に爾の至大なる慈憐を啓きて、我が爲に患難の中に於
 て熱心なる扶助及び拯救と爲り給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付した

ればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。
神として甘じて創傷と屠殺とを忍び給ひし、ハリストス、獨慈憐の多き主よ、悪鬼
の残酷なる攻撃にて傷つけられし吾が靈を爾を生みし者の祈祷に由りて醫し給へ。
造成主ハリストスよ、我は爾の手の工業及び造物なり、蛇の悪謀は度生の逸樂を以
て我を壞れり。故に言よ、爾を生みし者の祈祷に由りて我を新にし給へ。

光榮

獨一の永貞童女よ、爾は言に超えて父の言、人人を凡の無知より解く主を生み給へ
り。切に彼に我無知なる逸樂の擒と爲りし者を解かんことを祈り給へ。

今も

至聖なる幕、光の居處、絶えず衆に香料を注ぐ器たる純潔なる神の聘女よ、爾は常
に手より我等に醫治を流し給ふ。

第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して光榮の諸天使に繞らるる神を見し
時に籲べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見
せり。

童貞女、光れる雲よ、我が肉體の病及び靈の憂を醫して、煩悶の雲を拂ひ給へ。我歌
ひて、愛を以て爾を讚榮する者に壯健を與へ、諸難より脱るるを得しめ給へ。

童貞女よ、我凡の罪に盈ちたる者は爾より生れし主に今爾を轉達者及び祈祷者とし
て進む。我が生命の改造者と爲り、我を神聖なる智識の途に嚮導する者と爲り給へ。

光榮

童貞女よ、我が智慧を聖にし、靈を照し、我を神聖なる光榮に與る者と爲し給へ。
蓋視よ、我慾に盈ち、凡の逸樂の奴隸と爲り、我が良心を汚せり。

今も

靈に豊なる飲料を與ふる美しき房を生ぜし神聖なる葡萄たる生神女よ、爾我に其
甘味を飲ませ、逸樂の酔を醒まして、我を救ひ給へ。

第六歌頌

第三調 木曜日の晩堂課 六六三

第三調 木曜日の晩堂課 六六四

イルモス、人を愛する主よ、凶悪なる諸敵に攻められて、將に凸びんとする我等を棄
つる勿れ。救世主よ、預言者を猛獸より拯ひし如く、我等を拯ひ給へ。

我は思念にて高ぶれるファリセイに超え、常に驕りて無量の罪の淵に進めり。獨潔
き者よ、極めて卑しくなりたる我を宥めて救ひ給へ。

至りて奇異なる降孕と産とを有ちし童貞女よ、今我不當なる者の上に爾の慈憐を奇異
なる者と顯し給へ、蓋我不法に於て生まれ、生れて逸樂の奴隸と爲れり。

光榮

我畏るべき審判を記念する時歎き、泣きて涙を流す、悪しき行を有てばなり。婚姻

にあずか どうていじよ かみ はは おそ とき おい わ ため てんたつしや な たま
に與らざる童貞女、神の母よ、畏るべき時に於て我が爲に轉達者と爲り給へ。

今も

いさぎよ どうていじよ およそ ちえ なんじ おい おこな れいみよう しえい きせき さと かつ い
潔き童貞女よ、凡の智慧は爾に於て行はれし靈妙にして至榮なる奇跡を悟り且言
ふこと能はず、如何にして爾は生みて童貞女に止まる、生れし者は性に於て神なれ
ばなり。

次ぎて主憐めよ、三次。光榮、今も、

坐誦讚詞、第三調。

ハリストスよ、婚姻に與らざる 潔き爾の母は爾が死して木に懸れるを見て、母と
して哭きて言へり、吾が子よ、不法にして恩を知らざるエウレイの會、屢爾の大
なる賜を樂しみし者は何をか爾に報いたる。我爾の神聖なる寛容を歌ふ。

第七歌頌

イルモス、三人の少者は爐に於て聖三者を像りて、火の恐嚇を履み、歌ひて呼べり、
我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。
女幸よ、行に由りては我に救なし、罪に罪を、悪に悪を加ふればなり。故に 潔き者
よ、爾の祈祷を以て我を宥めて救ひ給へ。
審判は門の側に在り、審判座は設けられたり、卑微なる靈よ、己を備へて呼べ、言
よ、我を審判する時、爾を生みし者の祈祷に因りて我を定罪する勿れ。

光榮

しじょうもの われ つみ み つま ころ けつか たましい たずさ なんじ よ なんじ
至淨なる者よ、我罪の果を摘みて殺されたり、結果なき靈を攜へて爾に呼ぶ、爾
の腹の果を以て朽壞を破りし者よ、我を果を結ぶ者と爲し給へ。

今も

ああ れいみよう ひみつ ああ おそ おうぎ いか かみ ひと ごと ち あらわ かれ
嗚呼靈妙なる秘密、嗚呼畏るべき奥義や、如何にして神は人の如く地に現れたる、彼
の知るが如く、望むが如く、嘉するが如し、彼は其欲する如く行ひ給ふ。

第三調 木曜日の晩堂課 六六五

第三調 木曜日の晩堂課 六六六

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に悩まされずして、神聖
なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。
全く善なる者にして萬有の王に近くなりし生神女よ、我悪を行ひて怠慢の中に一生
を送りし者を善行に充て給へ、我が萬世に爾を讚榮せん爲なり。
神の言よ、昔至榮に預言者を鯨の腹より救ひし如く、斯く救世主よ、滅込の深處に陥
りし我が靈を救ひ給へ、婚姻に與らずして爾を生みし童貞女が爾に祈ればなり。

光榮

しょうしんじよ きょうあくしや わ うるわ ころも き み これ は かみ はは どうていじよ
生神女よ、凶悪者は我が美しき衣を衣たるを見て、之を褫ぎたり。神の母、童貞女
よ、爾親ら祈祷を以て我を痛悔の神聖なる衣にて飾り給へ。

今も

いさぎよ もの およそ ぞうぶつ おのの ところ しゅ じれん よ われら ため おさなご な もの なんじ
潔き者よ、凡の造物が戦く所の主、慈憐に由りて我等の爲に幼児と爲りし者を爾
て いだ たま くれ いの およ しん もつ しょうしんじよ われら ぼんせい なんじ あが ほ
は手に抱き給へり。彼に祈りて、凡そ信を以て、生神女よ、我等萬世に爾を崇め讃
むと、呼ぶ者を救はんことを求め給へ。

第九歌頌

イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は
かみ ささき ゆえ われら むげん ちち はじ うま ことば おっと はは はじ うま
神に捧げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生
れし子を崇め讃む。

ふきゆう むてん どうていじよ われ ちえ たましい きゆうかい あく もつ りょうしん けが いっ
不朽にして無玷なる童貞女よ、我智慧と靈との朽壞せられ、悪を以て良心を汚し、一
の善もなき者棄つる勿くして、敬虔の行にて飾り給へ。

じれん おお おん しゅ われ あく み なんじ じんあい しゅ われ うと おもい み ゆえ
慈憐の多き恩主よ、我は悪に盈ち、爾仁愛なる主より我を疎くする思念に充ちたり。故
に歎きて呼ぶ、痛悔する我を受けて、爾を生みし者の祈祷に由りて我を遠ざくる勿
れ。

光榮

じゅんけつ しょうじよ ねが われ なんじ おおい した はし つ なんじ たすけ ため よ もの
純潔なる少女よ、願はくは我爾の幘幘の下に趨り附きて、爾を祐助の爲に呼ぶ者は、
なんじ きとう よ およそ いかり し いた しょうよく おそ ひ ふ き ひとびと およ
爾の祈祷に由りて、凡の怒、死を致す諸愆、畏るべき「ゲエンナ」の火、不義なる人人及
び凶悪なる諸敵より救はれん。

今も

どうていじよ いた うるわ しゅ なんじ たましい うるわ おもい うるわ にくたい うるわ
童貞女よ、至りて美しき主は爾を靈にて美しく、思にて美しく、肉體にて美し
き者と視て、親ら知るが如く爾の童貞の胎より身を取りて、我等の醜きを飾り給へ
り。彼に我等の救はれんことを祈り給へ。

次ぎて「常に福にして」、及び躬拜。聖三祝文。「天に在す」の後に司祭高聲。讃詞。
其他常例の如し、及び發放詞。

~~~~~

第三調 木曜日の晩堂課 六六七

第三調 金曜日の早課 六六八

### 金曜日の早課

#### 第一の誦文の後に十字架の坐誦讃詞、第三調。

じゅうじか ち た てん さわ こ き か ごと たかさ いた あら ばんゆう  
十字架は地に建てられて天に摩れり、是れ木が此くの如き高度に至りしに非ず、萬有  
を充つる爾が此の上在りて斯く成れり。主よ、光榮は爾に歸す。

句、主我が神を崇め讃め、其足凳に伏し拜めよ、是れ聖なり。

きゆうせいしゅ なんじ じゅうじか およ し くるしみ う さだ ぞうぶつ あいだ これ しの たま  
救世主よ、爾は十字架及び死の苦を受けんことを定めて、造物の間に之を忍び給  
へり。爾が己の身を十字架に釘するを許しし時、其時日は光線を隠し、其時盗賊は之  
を視て、十字架に在りて爾を歌ひて敬みて呼べり、主よ、我を憶ひ給へと、乃信  
じて樂園を受けたり。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

言の無玷なる牝羊、不朽なる童貞女母は産苦なくして彼より生れし者の十字架に懸れるを觀て、母として泣きて呼べり、嗚呼吾が子よ、爾は人を耻辱の苦より救はんと欲して、如何ぞ甘じて苦を受くる。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

神の羔よ、爾は松・杉・黄楊樹に擧げられたり、信を以て爾の自由なる釘殺に伏拜する者を救はん爲なり。ハリストス神よ、光榮は爾に歸す。

句、神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。

天使の軍は爾の量り難き權能と自由なる釘殺とを見て驚けり、如何にして見えざる者は人類を朽壞よれ救はんと欲して、身に傷を受けたる。故に我等爾恩主に呼ぶ、ハリストスよ、光榮は爾の仁愛に歸す。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

至りて讚美たる致命者よ、爾等の勇敢なる忍耐は惡の魁たる敵の惡謀に勝てり、故に爾等は永遠の福樂を獲たり。眞實の證者よ、主ハリストスに彼を愛する人人の群を救はんことを祈り給へ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

洪恩なるハリストスよ、爾は十字架の上に甘じて耻づべき死を忍び給へり、爾を生みし者は之を見て心刺されたり。世の罪を任ひし獨至善にして人を愛する主よ、爾の至大なる慈憐に由りて、彼の祈禱を以て世界を宥めて救ひ給へ。

第三の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

罪なき主よ、爾は言ひ難き慈憐に因りて、詛の器たる十字架を忍びて、初めて造られし人を初の詛より解き給へり。故に我等爾の尊き苦に伏拜して爾の聖なる

第三調 金曜日の早課 六六九

第三調 金曜日の早課 六七〇

定制を讚榮す、爾獨至大なる慈憐に由りて之を成就して、爾の造物を救ひ給へり。人類の爲に頬を批たれて怒らざりし主よ、我等の生命を朽壞より釋きて、我等を救ひ給へ、爾は人を愛する主なればなり。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

生神女よ、我等爾の子の十字架を能力の杖として獲て、此を以て諸敵の驕を墜し、愛を以て絶えず爾を崇め讃む。

尊貴にして生命を施す十字架の規程、其冠詞は、十字架は信者の譽及び榮なり。イオシフの作。第三調。

第一歌頌

イルモス、昔日は深處より出でたる乾ける地の上に升れり、蓋水は徒歩にて海を渡る民の爲に左右に壁の如く堅く立てり。彼等神に悦ばるる歌を捧げて曰へり、主に謳はん、彼嚴に光榮を顯したればなり。

こうおん しゅ なんじ つえ もつ うみ なみ こ たみ とお なんじ じゅうじか ぜんちよう  
洪恩なる主よ、爾は杖を以て海の浪を凝らせ、民を過らしめて、爾の十字架を前兆  
せり。爾は此を以て迷の水を撃ちて、凡そ信を以て爾の力を歌ふ者を神を知る智識  
の地に移して救ひ給へり。

めい もつ ふち つく みず もつ その みや おお ち みず うえ か しゅ なんじ き かか  
命を以て淵を造り、水を以て其宮を蔽ひ、地を水の上に懸けし主よ、爾は木に懸れ  
ども、指磨を以て一切の造物を振はせ、衆人の心を爾を畏るる畏に堅め給ふ。

### 致命者讃詞

ハリストスの致命者よ、爾等は彼の苦しみに與るを以て神の子と爲り、上なるシオン  
の住者及び嗣業と爲りて、其中に榮冠を冠りて欣ばしく呼ぶ、主に謳はん、彼嚴  
に光榮を顯したればなり。

### 致命者讃詞

致命者よ、爾等は手足を斷たれ、身を鐵塔にて抓かれ、火の中に投ぜられて、聊も  
ハリストス萬有の神を諱まずして、熱心に呼べり、主に謳はん、彼嚴に光榮を顯し  
たればなり。

### 生神女讃詞

至りて善なる童貞女・女幸よ、爾は生みたる子の甘じて木に懸けられしを見て、泣  
き苦みて呼べり、萬有の神、仁愛なる主宰、光榮の主よ、如何ぞ此くの如き苦を忍  
ぶ。

又至聖なる生神女の規程、第三調。

### 第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、  
是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

第三調 金曜日の早課 六七一

第三調 金曜日の早課 六七二

至淨なる童貞女よ、爾の神聖なる祈禱を以て我に罪過の潔淨を與へ給へ、爾の祈禱  
は力ありて、爾を尊む者を諸罪、諸慾、憂愁、患難より救ひ給へばなり。

童貞女よ、爾の祈禱の水を以て我が無量の諸罪諸慾の暑熱に因りて弱りたる私の卑微  
なる靈を霑し給へ、我が神聖なる涼氣を得て、歌を以て爾を熱心なる轉達者とし  
て崇め讃めん爲なり。

潔き女幸よ、我全身罪に沈み、痛く失望せし者に爾の慈憐の手を舒べて、我を痛悔  
の高きに上げ、我に涙の流を與へ給へ。

至淨なる者よ、爾は我等の爲に熱心に爾の子に祈る勇敢を有つに因りて、爾の祈禱  
を以て我が罪惡の書券を破り給へ、我等「ハリストティアニン」は獨爾を轉達者とし  
て有てばなり。

### 第三歌頌

イルモス、主、爾を頼む者の堅固よ、爾の尊き血にて獲たる教會を堅め給へ。  
人體を取りし言よ、爾は極めて耻づべき釘殺を忍びて、爾を尊む者に眞の尊貴を獲  
しめ給へり。

主宰よ、爾が詛と爲りて、十字架を以て祝福を流ししに、地に生るる者は詛より解



かれたり。

### 致命者讃詞

至りて讚美たる者よ、爾等は地上に寄寓者と爲りて、眞の天の住民及びハリストスと共に嗣と顯れたり。

### 致命者讃詞

致命者よ、爾等は十字架を最強き武器として獲て、殘害者なる敵の一切の力に勝てり。

### 生神女讃詞

潔き者よ、爾は生みて後にも童貞女に止まれり、人體を取りし神、十字架に釘せらるるを甘ぜし主を生みたればなり。

又

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

至淨なる生神女よ、祈る、速に我が爲に爾の慈憐の門を啓きて、誘惑の中に我が爲に熱心なる扶助者及び拯救と爲り給へ。

至淨なる者よ、我爾の僕を凡の烈しき罪の暴風より脱れしめて、爾の祈祷を以て我を救の港に向はしめ給へ。

潔き母童貞女よ、我を我が濁りたる諸慾、今我が卑しき靈を攻めて之を侵す者より救ひ給へ。

第三調 金曜日の早課 六七三

第三調 金曜日の早課 六七四

仁慈なる生神女よ、我に涙の雨雲を予へて、此を以て我が諸慾の爐を滅して、吾が靈の諸の汚を滌ひ給へ。

### 第四歌頌

イルモス、ハリストスよ、爾の仁慈は天を覆へり、蓋爾は聖所の匱たる爾の無玷なる母より出でて、手に抱かるる嬰兒として爾の光榮の殿に現れ給へり。萬有は爾の讚美に充てられたり。

ハリストスよ、爾は獨新なるアダムと爲りて、手を十字架に釘せられ、甘じて葦にて撃たれ、醋と膽とを飲ませられて、陥りシアダムを起し、爾の上なる國に升せ給へり。

神の言、慈憐なる主よ、預言者は爾を屠に牽かるる羊、争はず號ばざる羔として預見せり。蓋爾は甘じて十字架に釘せらるるを忍び給へり、自由に罪を犯しし者を援けて救はん爲なり。

### 致命者讃詞

ハリストスの致命者は信の鋤を以て靈を新にし、窘逐を忍ぶを以て種を播き、苦の豊なる穂、信者の會を養ふ者を聚め給へり。故に彼等は常に讚榮せらる。

### 致命者讃詞

忍び難き苦に狹められし致命者は、神聖なる希望に進められて、天上の國の廣きに至

り給へり、我が口を開きて、常に彼等の戦を歌はしめん爲なり。

### 生神女讃詞

母童貞女よ、爾は鉗の如く神聖なる熾炭、爾の種なき神聖なる胎を焼かずして、更に之を霑す者を受け給へり。爾は其身にて甘じて木に懸けられしを見て、歌を以て彼を讃榮せり。

### 又

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

女宰よ、我一切の望を爾に負はせて、靈を全くし俯伏して祈る、生命を生みし者よ、我に死を致す病を免れしめて、我を救の生命に升せ給へ。

潔き女宰、世界の爲に有力なる扶助者よ、我を己より遠ざくる勿れ、我を爾の面より辱かしめて退くる勿れ、我を悪鬼の悦と爲す勿れ。

女宰よ、我にも善行なき不當の者は逸樂の鋭き矢に傷つけられて、全身病を得たり。

故に爾に呼ぶ、至淨なる者よ、我を救ひ給へ。

潔き者よ、不當なる行の水は我が卑微なる靈にまで至れり。我罪なる思に攻められて、憂ひて爾に呼ぶ、女宰よ、爾の僕を棄つる勿れ。

第三調 金曜日の早課 六七五

第三調 金曜日の早課 六七六

### 第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して光榮の諸天使に繞らるる神を見し時に籲べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見せり。

主宰よ、爾は木の上に寝ねて、罪過の勞に痛く疲れたる我を息はせ給へり。イススよ、爾は耻辱の苦を受けて、我の耻辱を下し給へり。言よ、我爾の權柄及び神聖なる苦を歌ふ。

人を慈しむ主よ、爾は十字架に於て爾の身を燈の如く燃して、失はれし「ドラマ」を尋ね、之を獲て、爾の友たる天軍を共に喜ばん爲に召し給へり。ハリストスよ、我等は爾の國の權柄を歌ふ。

### 致命者讃詞

惑はす者は惑はされぬハリストスの受難者の足下に倒され、死して行動なき者と見られ、彼等は實に天使等に加へられて、言ひ難き歡喜に満たされたり。

### 致命者讃詞

烈しき沍寒に凍えさせられ、甚しき傷に蔽はれ、種種の苦に付されし致命者は天の國の神聖なる温暖に移りて、常に信者の爲に温き轉達者と顯る。

### 生神女讃詞

至淨なる童貞女は昔肋骨よりエワを造りし主が木に釘せられて、戈を以て脅を刺さるるを見て、母として呼べり、吾が子、不死の生命よ、爾如何ぞ死する。

又 イルモス同上

靈に神聖なる飲料を與ふる美しき房を生ぜし神聖なる葡萄たる童貞女よ、我が靈を諸慾の有害なる飲料、逸樂の酔、及び永遠の火より救ひ給へ。

至淨なる神の聘女よ、我諸慾の泥に陥りし者を諸罪の深き濼より出し、爾の祈祷の流を以て我を諸慾の汚より洗ひて、救の光明なる衣を衣せ給へ。

平安の王を生みしに因りて世界に平安、衆人に救を賜ひし潔き童貞女よ、我が靈と體との諸慾の今の戦を救世主ハリストスを畏るる畏と彼を愛する愛とを以て平安ならしめ給へ。

至淨なる者よ、我が諸罪を病める靈を爾の慈憐にて醫して、我を謙遜を以て常に爾の子の戒を行ふに導き給へ、我が彼の恩寵を蒙らん爲なり。

第六歌頌

イルモス、翁は神より諸民に來りし救を親しく見て、爾に籲べり、ハリストスよ、爾は私の神なり。

ハリストスよ、爾は羔の如く甘じて屠られて、甘じて木の實を食ふに因りて死

第三調 金曜日の早課 六七七

第三調 金曜日の早課 六七八

せし者を復生命に升せ給へり。

生命を賜ふ主よ、爾十字架に擧げられしに、悪鬼の迷は墜ち、信者の大數は擧がりて爾を崇め讃む。

致命者讃詞

血に染みたる緋衰衣を衣たる致命者は、美しき榮冠に飾られて、今萬有の王の前に立つ。

致命者讃詞

聖致命者の不朽體は凡そ來り就く者に醫治を流して、苦の多きを溺らす。

生神女讃詞

少女よ、人の智慧は性に超ゆる爾の産の奥密を悟る能はず、爾智慧に超えて神を生みたればなり。

又

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は凸びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

至淨なる者よ、爾慈憐なるに因りて、我信を以て爾の保護を求むる爾の僕に諸罪の赦を與へて、我を將來の審判より脱れしめ給へ。

贖罪主の母、女宰よ、我が逝世の時、無知に因りて我が行ひし事を空氣中の鬼に詰らるる時に、我を防ぎて護り給へ。

生神女よ、我全く不當にして常に汚の中に在る者は、今我が足の痕に死を見て、爾に呼ぶ、我を援け給へ。

慾の思の浪は常に我を擾し、凶悪の鬼の暴風は我を沈む。至淨なる者よ、我を無慾

の石に固め給へ。

第七歌頌

イルモス、爾、火に在りて神を傳へし少者に露を注ぎ、又不朽の童貞女に入りし神言を、我等讚美して、敬みて歌ふ、我が先祖の神は崇め讃めらる。三者の一なる主宰よ、爾は黄楊・杉・松に擧げられて、多くの逸樂の深處に陥りし者を擧げ給へり。我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。主よ、爾は無垢なる羊の如く祭に獻ぜられて、尊き血を以て造物を悪むべき悪鬼に獻ぐる血より潔め、汚らはしき祭を滅し給へり。神の言よ、光榮は爾の權能に歸す。

致命者讚詞

受難者は動かざる柱の如く苛虐者の前に立ちて、迷を動かし、信者の心を堅めて歌へり、主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

致命者讚詞

ハリストスの受難者、榮冠を冠れる者は火よりも熱き決心を得て、火に焼かれずし

第三調 金曜日の早課 六七九

第三調 金曜日の早課 六八〇

て歌へり、主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

生神女讚詞

潔き者よ、爾は獨比なき降孕と言ひ難き産とを有ちて、人體を取りし主宰、身にて十字架に釘せられし者を生み給へり。我等彼を歌ひて呼ぶ、主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

又

イルモス、昔敬虔なる三人の少者をハルデヤの焔に涼しくせし如く、我等をも神性の明るき火にて輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼べばなり。女宰よ、我體と靈とに汚され、不潔の行に盈ちたる者は爾潔淨無玷なる神の母の慈憐を頼みて祈る、至淨なる者よ、我を憐み給へ。我が罪の多く、我が悪の甚しきを思へば、我が心痛く惑ひて、我を失望の深處に引く。至淨なる女宰よ、我烈しく溺らされて囚ふる者を救ひ給へ。仁慈なる者よ、悪しき行に由りて卑しくなりたる吾が靈を憐みて、我を痛悔の途に向はしめ、爾の子の旨を行ふに導きて、苦より脱れしめ給へ。至仁なる者よ、爾が仁慈の宏恩の多きを以て我が罪の多きを蔽ひて、我等の爲に寛容の者と爲り給へ。蓋我等黙さずして呼ぶ、至淨なる者よ、爾の腹の果は祝福せられたり。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焔に惱まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。言よ、不順にして無知なる民が爾を死に定めしに、爾は柔順に甘じて釘せられて、



あまん ころ もの い たま ゆえ かれら なんじ うた よよ あが ほ  
甘じて殺されし者を活かし給へり。故に彼等は爾を歌ひて世に崇め讃む。  
しゅさい なんじ じゅうじか て の はじ つく もの ふ せつせい き み の て  
主宰よ、爾は十字架に手を伸べて、初めて造られし者の不節制に木の實に伸べたる手  
を醫し給へり。日は畏を以て爾を靚て光線を隠し、造物は皆震へり。

### 致命者讃詞

じゅなんしゃ なんじら せい たたかい おつ もつ ふけん むしん ながれ か いやし いずみ なが  
受難者よ、爾等は聖にせられし戦の熱を以て不虔無神の流を涸らし、醫治の泉を流  
して、諸愆の汚を洗ひ、豊に信者の心に飲ませ給ふ。

### 致命者讃詞

ため くるしみ しの かつ しんせい いましめ おこな よ むけい もの どうじゅうしゃ  
ハリストスの爲に 苦を忍び、且神聖なる誠を行ひしに因りて、無形の者の同住者  
な じゅなんしゃ なんじら よよ とうと もの いまうえ まち しる かも いの たま  
と爲りし受難者よ、爾等を世に尊む者が今上なる都城に録されんことを神に祈り給

第三調 金曜日の早課 六八一

第三調 金曜日の早課 六八二

へ。

### 生神女讃詞

われ ら しゅう しんじや なんじら のち どうていじょ とど しょうしんじょ こがね つぼ ともしび しょくあん つえ しんせい  
我等衆信者は爾産の後にも童貞女に止まりし生神女を金の壺と燈、食案と杖、神聖  
なやま くも おう みやおよ ひ さま ほうざ とな  
なる山と雲、王の宮及び火の状の寶座と稱ふ。

又

かみ ちから もつ ほのお うち しょうしゃ くだ あらわ しゅ しいら  
イルモス、神たる力を以て焰の中にエウレイの少者に降りて、現れし主を、司祭等  
よ、崇めて萬世に讃め揚げよ。

いつらく ながみ にくたい かんかく へ わ たましい はなはだ けが し いた せかい じよさい  
逸樂の苦味は肉體の感覺を経て、吾が靈を甚しく汚して、死に至らしむ。世界の女宰  
よ、我が爲に救と爲り給へ。

じよさい われ ころ たましい にくたい なんじ たく われ なんじ そと た じれん う たのみ  
女宰よ、我心と靈と肉體とを爾に託せり、我に爾の外に佗に慈憐を受くべき頼な  
ければなり。故に爾の豊なる恩寵を我に與へ給へ。

へび ひそか ちか にくたい いたらく どく もつ はなはだ わ ふとう たましい がい いきぎよ  
蛇は潜に近づきて、肉體の逸樂の毒を以て甚しく吾が不當なる靈を害せり。潔  
き者よ、爾の祈祷の良薬を以て之を活かし給へ。

せい じよさい ざいあく はなはだ よる われ われ たましい てら じけい あぶら も ともしび  
聖なる女宰よ、罪惡の甚しき夜は我を掩ふ、我靈を照す慈惠の油にて燃ゆる燈  
を持たざればなり。故に我上なる宮より逐ひ出されたり。

次に生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」。

### 第九歌頌

われ ら しんじや かげ およ ぶん りつぼう おい よしょう み およ はじ う だんし  
イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は  
かみ ささ ゆえ われら わげん ちち はじ うま ことば おつと はは はじ うま  
神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生  
れし子を崇め讃む。

ぜん ち な うえ もとづ じれん おお なんじ じゅうじか てい  
全地を無の上に基けし慈憐の多きイイスス ハリストスよ、爾は十字架に釘せられて、  
われ あ ならわし よ つみ ひぢ おほ もの じんじ しゅ あわれ ひ いた なんじ  
我悪しき習に由りて罪の泥に溺れし者を、仁慈なる主として憐みて引き出し、爾  
の耻づべき死を以て我を尊くし給へり。

は し もつ われ とうと たま  
ハリストスよ、爾性にて見えざる神は肉體にて十字架に擧げらるる者と見られたり、  
み せかい み てき すく した あ もの てん もの なんじ おおい のうりよく げんべい  
見ゆる世界を見えざる敵より救ひ、下に在る者を天の者、爾の大なる能力の權柄を

さんえい もの な ため  
讚榮する者と爲さん爲なり。

### 致命者讚詞

いた こうえい きゆうせいしゅ じゆなんしや なんじ ら せい てん し ら おな えら せい  
至りて光榮なる救世主の受難者よ、爾等は聖天使等と同じき選ばれたる聖にせられ  
し軍、其中に生命の樹たるハリストスを有つ樂園、神に飾られたる教會の尊き品位  
と現れたり。

### 致命者讚詞

よろこ しゆさい ほうざ まえ た せい ちめいしや ちじょう なんじ ら きおく われ ら きおく  
欣ばしく主宰の寶座の前に立てる聖致命者よ、地上に爾等を記憶する我等を記憶し  
て、彼處より豊に光線を遣して我等を照し給へ、我等が債の赦を受けん爲なり。

### 生神女讚詞

第三調 金曜日の早課 六八三

わ こ こうたい なんじ ていきつ み かく いかん いのち かしら なんじ し わた  
吾が子よ、光體は爾の釘殺を見て隠れたり、如何ぞ生命の首たる爾を死に付ししエ  
ウレイの不信の會は隠れざりしと、生神女は呼べり。我等絶えず彼を崇め讃む。

第三調 金曜日の早課 六八四

又

われ ら なんじ や いばら およ せい どうていじよ ひかり はは およ しょうしんじよ われ ら しゅう たのみ  
イルモス、我等は爾焚かれぬ棘及び聖なる童貞女、光の母及び生神女、我等衆の倚頼  
なる者を崇め讃む。

いさぎよ もの わ たましい しょよく おもい けがれ きよ われ むよく うるわ ころも き たま  
潔き者よ、吾が靈の諸慾の思念の汚を潔めて、我に無慾の美しき衣を衣せ給へ。  
童貞女よ、我に痛悔の神聖なる門を啓き、我が諸慾と逸樂との門を閉して、爾の力  
を以て之を禁め給へ。

じゆんけつ どうていじよ わ なげき こえ わ なきこえ き わ ふとう たましい きよめ すくい  
純潔なる童貞女よ、我が歎の聲、我が泣聲を聴きて、我が不當なる靈に潔淨と拯救  
とを與へ給へ。

われ わ あ おこない おも まった のぞみ うしな まど じよさい こう われ なた すく  
我は我が悪しき行を思ひて、全く望を失ひて惑ふ。女宰よ、功なき我を宥めて救  
ひ給へ。

次ぎて「常に福にして」、小聯禱、光耀歌。

### 挿句に十字架の讚頌、第三調。

ふじゆん き せかい し しょう じゅうじか き いのち ふきゆう しょう ゆえ われ ら なんじてい  
不順の木は世界に死を生じ、十字架の木は生命と不朽とを生じたり。故に我等爾釘  
せられし主に祈る、願はくは爾が顔の光は我等に輝かん。

しゆ つと なんじ あわれみ もつ われ ら あ しか われ ら しょうがいよこ たの  
句、主よ、夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。  
なんじ われ ら う ひ われ ら わざわい あ とし か われ ら たの たま ねが  
爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代へて、我等を樂しましめ給へ。願はく  
は爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん。

われ そねみ よ らくえん お いだ はなはだ たおれ もつ たお しか なんじ  
我猜忌に因りて樂園より逐ひ出されて、甚しき倒を以て倒れたり。然れども爾は、  
しゆさい われ す わ ため われ せい う じゅうじか てい われ すく われ  
主宰よ、我を棄てずして、我が爲に我の性を受け、十字架に釘せられ、我を救ひて、我  
を光榮の中に入れ給ふ。我が贖罪主よ、光榮は爾に歸す。

ねが ねが しゆ わ がみ めぐみ われ ら あ ねが わ て わざ われ ら たす たま  
句、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給  
へ、我が手の工作を助け給へ。

しゅうみんきた せい じゆなんしや きおく どうと けだしかれ ら てん し ら およ ひとびと ため みもの な  
衆民來りて、聖なる受難者の記憶を尊まん、蓋彼等は天使等及び人人の爲に觀玩と爲

りて、ハリストスより勝利の榮冠を受けて、我等の靈の爲に祈り給ふ。

光榮、今も、十字架生神女讃詞。

純潔なる者よ、爾より生れし主の木に懸けられしを見て、爾は哀しみて呼べり、吾が甘愛なる子、人類に恩を施しし者よ、爾の光明なる華美は何處にか隠れたる。

第三調 金曜日の早課 六八五

第三調 金曜日の眞福詞 六八六

次ぎて「至上者よ、主を讃榮し」、聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、聯禱、第一時課、及び發放詞。



金曜日の眞福詞、第三調。

ハリストスよ、爾は誠<sup>いましめ</sup>に背<sup>そむ</sup>きし原祖<sup>げんそ</sup>アダム<sup>らくえん</sup>を樂園<sup>お</sup>より逐<sup>いだ</sup>ひ出<sup>しか</sup>せり。然れども爾、洪恩なる主よ、十字架<sup>じゆうじか</sup>に在<sup>あ</sup>りて爾<sup>なんじ</sup>を承<sup>う</sup>け認<sup>みと</sup>めし盜賊<sup>とうぞく</sup>、救世主<sup>きゆうせいしゆ</sup>よ、爾の國<sup>なんじ</sup>に於<sup>くに</sup>て我<sup>われ</sup>を憶<sup>おも</sup>ひ給<sup>たま</sup>へと呼<sup>よ</sup>ぶ者<sup>もの</sup>を其<sup>その</sup>中<sup>うち</sup>に入<sup>い</sup>れ給<sup>たま</sup>へり。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

主宰救世主よ、爾暮れざる日が十字架に在るを見て、日は光を晦まし、磐は裂け、地は震ひ、殿の幔は二に裂けたり、爾萬衆の悟り難き主が非義に苦しめらるるを見ればなり。

句、人我の爲に爾等を語り、窘逐し、爾等の事を譎りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福なり。

生ける者の生命たるイイススよ、爾は衆人の爲に死に曳かれたり、爾の神聖なる苦を以て、神として、昔食の爲に殺されし者を救ひて、樂園の住者と爲さん爲なり。故に我等今信を以て爾の苦を讃榮す。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

致命者よ、爾等は、甘じて我等の爲に苦を受け、人人より耻辱を除きし主の苦に效ひて、多くの苦難を以て敵を斃して、上なる光榮を受けたり。故に宜しきに合ひて讃榮せらる。

光榮

我等衆信者は父、子、及び撫恤者、義なる神に伏拜し、神の宜しきに合ひて、正教の智慧を以て惟一の元始と光榮とを敬虔に歌ひて呼ばん、爾の國に於て我等を憶ひ給へ。

今も

純潔なるものは身を以て甘じて苦を忍び給ふ其子の十字架に在るを觀て、痛く哀しみて哭きて呼べり、嗚呼吾が子、罪に由りて死せし者を活かさんと欲する主よ、如何ぞ殺されたる。

金曜日の晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に聖致命者と成聖者と克肖者との讚頌、第三調。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん、然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

勇敢なる致命者は堅固に苦難を受けて、創傷と縲紲と種種の苦とを忍びしに因りて、實に宜しきに合ひて病なき福たる嗣業に送られたり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

主の成聖者よ、爾等は敬虔神聖なる言を傳へ、悉くの異端の激論を破りて、衆信者の爲に首導者と顯れたり。故に尊敬を受く。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

捧神なる諸神父よ、爾等は形體に在りて無形體の品位に似たる者と爲りて、至榮に彼等の度生を著し給へり。故に彼等の住居に居るなり。

又致命者の讚頌、同調。

句、願はくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

主よ、爾の十字架の能力は大なり、蓋一の處に建てられて、全世界に行動し、漁者の中より使徒、異邦人の中より致命者を現して、我等の靈の爲に祈らしむ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

ハリストスよ、爾の致命者の能力は大なり、蓋彼等は墓に臥して悪鬼を逐ひ、聖三者の信を以て敬虔の爲に戦ひて、敵の權を空しくし給へり。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

諸預言者、ハリストスの使徒及び致命者は我等に一體の三者を歌ふを教へ、迷ひし異邦民を照し、人の諸子を天使等の侶と爲し給へり。

光榮、今も、生神女讚詞。

最尊き者よ、我等如何で爾が神人を生みしに驚かざらん。至りて玷なき者よ、爾は夫の誘を受けずして、世の無き先より母なく父より生れ、聊も變易、或は混淆、或は分離を受けず、二の性の質を全うして守れる子を父なく身にて生めり。故に母、童貞女、女宰よ、正しく爾を生神女と承け認むる者の靈の救はれんことを彼に祈り給へ。

次ぎて「穩なる光」。本日の提綱。

挿句に致命者の讚頌、第三調。



主よ、爾の致命者は信にて固められ、望にて強くせられ、爾の十字架を愛する愛に

第三調 金曜日の晩課 六八九

第三調 金曜日の晩課 六九〇

て靈を合せられて、諸敵の強暴に勝てり。故に榮冠を享けて、無形の者と共に我等の靈の爲に祈り給ふ。

死者の讃頌

凡そ死の後に存せざる人の事物は皆虚し、富貴は留まらず、榮華は伴はず、死來りて皆此を滅さん。故に我等はハリストス死せざる王に籲ばん、我等より移されし者を爾に、凡そ楽しむ者の住居ある處に安ぜしめ給へ。

死者の讃頌

人人よ、我等何爲れぞ徒に忙しき、我が走る路は短し、生命は烟なり、蒸氣なり、灰と塵なり、僅に現れて速に亡ぶ。故に我等はハリストス死せざる王に籲ばん、我等より移されし者を爾に、凡そ楽しむ者の住居ある處に安ぜしめ給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

女の中に聖なる生神女、聘女にならぬ母よ、爾が生みし王及び神に、其仁愛の主なるに因りて、我等を救はんことを祈り給へ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞、及び發放詞。



金曜日の晩堂課

至聖なる生神女の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。潔き神の母よ、爾は全く智慧に超えて救の首、生を施す主を生みて、原母エワの定罪の縲紲を解き給へり。故に萬物は爾を崇め讃む。

至聖なる童貞女よ、靈と體とに烈しき病に苦しめる我を煩悶の深處より引き出して、凡の患難より脱れしめ給へ、爾は、至淨なる者よ、慈憐の泉なればなり。

光榮

我樂の衣を褫がれ、憂と病とに陥りて、全身甚しく傷つけられたり。女宰よ、急ぎて我を圍める誘惑より脱れしめ給へ、爾は我が爲に避所及び希望なればなり。

今も

神の聘女よ、我爾を堅固なる轉達者として獲て、爾の帡幪に趨り附きて祈る、神の母よ、我多くの愆と病と憂とに苦しめる爾の僕を棄てずして、爾の祈祷を以て醫し給

へ。

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神。なて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

我不當の者は己の後に死を見て、傷ましき煩悶と憂愁とに在り。至淨なる者よ、祈る、爾の祈祷を以て我を救ひ給へ。

悪しくして放蕩なる行に汚されたる我が一生は我を訟へて、我を失望の中に沈む。

潔き者よ、我を救ひ給へ。 光榮

女宰よ、獨仁慈に由りて遍く流さるる爾の洪恩の淵は、新なる膏の如く凡そ常に爾を歌ふ者を潤す。 今も

神の聘女よ、我が性を爾より受けたる爾の子及び主は爾の祈祷に由りて爾を歌ふ者を己に合せ給ふ。

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

女宰よ、我一切の望を爾に負はせて、靈を全くし俯伏して祈る、生命を生みし者よ、我に死を致す病を免れしめて、我を救の生命に升せ給へ。

潔き者よ、我甚しき靈の傷を病みて失望せし爾の僕を爾の祈祷を以て醫し給へ、爾は醫師たる慈憐に富める我が神を生みたればなり。

光榮

凡の智慧に超ゆる歡喜を生みし童貞女よ、我甚しき苦難に陥りし者を援けて、爾の神聖なる眷顧を以て樂の衣を我に予へ給へ。

今も

潔き生神女よ、爾は第二の天と現れて、言ひ難く地上に義の日を輝かし給へり、此に由りて神智の永在の光は我等を照せり。

第五歌頌

イルモス、爾萬物を造りし主、悟り難き平安に、朝の禱を奉る、爾の誠は光なるに因りて、我に之を教へ給へ。

我無量の罪に因りて死及び地獄に近づけり。神の母よ、熱切に爾に祈る、我を無数の悪事より救ひ給へ。

潔き童貞女よ、我不當の者は肉體の手の弱りたるに因りて、我が靈の手を爾に伸ぶ、多くの病より我を援けて、醫治を與へ給へ。

光榮

われ しょうけん ころも は しが されて、 しょびょう きず ころも き じよさい なんじ いの われ しょうけん  
我 壯健の 衣を 褌が れて、 諸病の 傷ましき 衣を 衣たり。 女宰よ、 爾に 祈る、 我に 壯健  
を 衣せ 給へ。 **今も**

しょうしんじよ われ ら みな なんじ ちめいしゃ およ した ら せい そうしょく しんじや ほご よろ  
生 神女よ、 我等 皆 爾を 致命者 及び 使徒等の 聖に せられし 裝飾、 信者の 保護として 宜  
しきに 合ひて 讚榮す。

第六歌頌

イルモス、 しゅ わ が 神よ、 我を 淪滅より 引き 上げ 給へと、 イオナは 呼べり。 我も 祈りて なんじ  
に 呼ぶ、 救世主よ、 我が 多くの 悪の 深處より 我を 援けて、 爾の 光に 導き 給へ。

わ むりよう ざいご よ がい な てき おお やまい われ お われ ころ ほつ  
我が 無量の 罪過に 由りて、 害を 爲す 敵は 多くの 病を 我に 負は して、 我を 殺さんと 欲  
す。 生 神女よ、 爾 親ら 我を 之より 脱れ して、 凡の 患難より 引き 出し 給へ。

われ ざいご しょうびょう むりよう うれい ふかみ おと いま はなはだ その うち くる かみ はは  
我 罪過と 諸病と 無量の 憂愁との 深處に 墜されて、 今 甚 しく 其中に 苦しむ。 神の 母よ、  
救の 手を 伸べて 我を 引き 上げ 給へ。

光榮

しょうしんじよ われ なんじ うれい うち あ もの けんご もとい およ ゆうりよく たすけ し ゆえ  
生 神女よ、 我 爾を 憂愁の 中に 在る 者の 堅固なる 基 及び 有力なる 援助として 知る。 故  
に 爾の 幟の下に 趨り 附きて 爾に 祈る、 我を 烈しき 災禍 及び 重き 病より 脱れ しめ 給  
へ。

今も

どうていじよ かみ はは われ ら なんじ しんせい ほ う うね うた しんじや ころこ こ ほ  
童 貞女・ 神の 母よ、 我等 爾を 神聖なる 穂を 生ぜし 畝として 歌ふ、 信者の 心は 此の 穂  
に 由りて 信を 以て 養は れて、 靈の 饑饉は 息み たり。

次ぎて 主 憐めよ、 三次。 光榮、 今も、

坐誦讚詞、第三調。

なんじ はは さん のち さん まえ ごと じゆんけつ どうていじよ まも ゆいいち しゅ かみ せい はな  
爾 母を 産の 後に も 産の 前の 如く 純潔なる 童 貞女と 守りし 唯一の 主は、 神の 性を 離れ  
ずして、 爾の 腹の 内に 身を取 れり、 神は 人し 爲りて 斯く 止まり 給へり。 彼に 切に 我等  
に 大なる 憐を 賜はん ことを 祈り 給へ。

第七歌頌

イルモス、 わか し けいけん みたり しょうしゃ ほのお すず ごと われ ら しんせい  
昔 敬虔なる 三人の 少者を ハルデヤの 焔に 涼しく せし 如く、 我等を も 神性  
の 明るき 火にて 輝かし 給へ、 吾が 先祖の 神よ、 爾は 崇め 讚めらると 呼べば なり。

どうていじよ かみ よめ われ しつぼう ふかみ おちい もの じれん た たま しじょう もの いの  
童 貞女・ 神の 聘女よ、 我 失望の 深處に 陥りし 者に 慈憐を 垂れ 給へ。 至 淨なる 者よ、 祈  
る、 爾 我の 爲に 穩静なる 避所と 爲り 給へ、 爾は 患難に 在る 者の 爲に 常に 救の 港なれ  
ば なり。

第三調 金曜日 晩堂課 六九五

第三調 金曜日 晩堂課 六九六

しょうしんじよ しんじや たのみ なんじ ちえ こ い がた かみ ちえ およ のうりよく  
生 神女、 信者の 恃頼よ、 爾は 智慧に 超えて 言ひ 難く 神の 智慧 及び 能力たる ハリスト  
スを 生み 給へり。 故に 慈憐に 力あり、 恩恵に 豊なる 者として、 我に 救の 醫治を 施し 給  
へ。

光榮

しんせい さん もつ ふきゆう あまみ しきよく と しえい かみ はは われ きゆうかい やまいおよ  
神聖なる産を以て不朽の甘味にて四極を富ましし至榮なる神の母よ、我を朽壞の病及  
び苦き諸愆より解きて、救を與へ給へ。

今も

いさぎよ もの なんじ おのれ ため おうみつ もん ち お もの ため きい ほごしゃ さだ しゅ  
潔き者よ、爾を己の爲に奥密の門、地に居る者の爲に奇異なる保護者と定めし主  
は、爾に因りて衆人の爲に永遠の生命に入る門を予へ給へり、宏恩にして萬衆の神  
なればなり。

第八歌頌

イルモス、ワフィロンの爐が少者を焚かざりし如く、神性の火は童貞女を殘はざり  
き。故に我等信者は少者と偕に呼ばん、主の造物は主を崇め讃めよ。

いさぎよ もの なんじ おのれ ため おうみつ もん ち お もの ため きい ほごしゃ さだ しゅ  
潔き者よ、我罪過の數へ難く多きを獲て、今諸病に沈みて苦しむ。故に祈る、我に援助  
の手を伸べて、諸病の深處より引き上げ給へ。

いさぎよ えいていどうじょ いた さんび しやうしんじよ なんじ かみ ため ちじやう ほうざ ひとびと ため てん  
潔き永貞童女、至りて讚美たる生神女よ、爾は神の爲に地上の寶座、人人の爲に天  
の門と現れたり。故に神の母よ、我に救の門を啓きて、我を諸愆の幽暗より脱れし  
め給へ。

光榮

じゅんけつ もの なんじ ぶどう つく ふさ しん もつ かれ うた もの たましい たの  
純潔なる者よ、爾は葡萄にして、造られざる房、信を以て彼を歌ふ者の靈を樂しま  
しむる酒を流す者を生じ給へり。

今も

さん のち ふきゆう とど じゅんけつ もの いの われ なんじ しょ ぼく きゆうかい のが たま  
産の後に不朽に止まりし純潔なる者よ、祈る、我等爾の諸僕を朽壞より脱れしめ給  
へ。蓋我等は信を以て思を一にして歌ふ、悉くの造物は主を崇めて、世世に彼を讚  
め揚げよ。

第九歌頌

イルモス、モイセイはシナイ山に於て棘の中に、爾を焚かれずして神性の火を胎内  
に孕みし者として觀、ダニエルは爾を截られざる山として觀、イサイヤは芽を萌し  
し杖、ダウィドの根より出でし者なりと呼べり。

ああ じんじ どうていじょ ああ せかい よろこび かくれが ああ しんじや ほご うれい すくい  
嗚呼仁慈なる童貞女よ、嗚呼世界の歡喜と避所よ、嗚呼信者の保護と憂よりの拯救  
よ、我が死の時に爾現れて、我を滅さんと欲する悪鬼より脱れしめ給へ。

ぞうせいしゅ かみ たいない はら いさぎよ どうていじょ はは なんじ うち あ ちから あくき ごうまん たお  
造成主神を胎内に孕みし潔き童貞女母よ、爾の内に在る能力にて悪鬼の傲慢を仆し  
て、爾の神聖なる權を歌ひ、信を以て爾の像に伏拜する者の角を擧げ給へ。

光榮

第三調 金曜日の晩堂課 六九七

第三調 「スボタ」の早課 六九八

いさぎよ どうていじょ なんじ み と われ ら せい あらた つく しゅ うた もつ た なんじ  
潔き童貞女よ、爾より身を取りて我等の性を新に造りし主は、歌を以て絶えず爾  
光明有力なる保護者及び眞の生神女を讃め揚ぐる者を母たる爾の祈祷に由りて改め  
給ふ。

今も

なんじ てん し よろこび なんじ ぎしゃ そうしよく なんじ しんじや たのみ なんじ われ ら まもり なんじ しん あい  
爾は天使の歡喜、爾は義者の裝飾、爾は信者の倚頼、爾は我等の守護、爾は信と愛



とを以て爾を讃め揚ぐる者を老いざる生命に度らしむる橋なり。

次ぎて「常に福にして」。聖三祝文。「天に在す」の後に讃詞。及び其他常例の如し、並に發放詞。



「スポタ」の早課

第一の誦文の後に致命者の坐誦讃詞、第三調。

至りて讃美たる致命者よ、爾等の勇敢なる忍耐は悪の魁たる敵の悪謀に勝てり、故に爾等は永遠の福樂を獲たり。眞實の證者よ、主ハリストスに彼を愛する人人の群を救はんことを祈り給へ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

至りて讃美たる受難者、病める者の聖なる醫師よ、爾等は信を以て光明なる燈の如く輝く。爾等は窘逐者より受くる苦を畏れずして、偶像の邪教を斃し給へり、眞の十字架を勝たれぬ武器として有ちたればなり。

光榮、今も、生神女讃詞。

生神童貞女よ、我等は爾我が族の救の中保者と爲りし者を讃め歌ふ、蓋爾の子我等の神は爾より受けし身にて十字架に苦を受けて、我等を朽壞より救ひ給へり、人を慈む主なればなり。

第二の誦文の後に坐誦讃詞、第三調。

ハリストスの恒忍なる致命者はハリストスの全備の武具を衣、信の盾を執りて、受難者に適ふが如く敢の軍を斃せり。蓋生命の望を抱きて、勇ましく暴虐者の悉くの恐嚇と傷とを忍びたり、故に榮冠を受け給へり。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

聖なる受難者よ、慈憐なる神に我等の靈に諸罪の赦を賜はんことを祈り給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

主よ、我等が爾の言に因りて爾の偏頗なき審判の前に立たん時、我が救世主よ、爾

第三調 「スポタ」の早課 六九九

第三調 「スポタ」の早課 七〇〇

を信ぜし者を辱かしむる母れ、我等皆罪を犯したれども爾より離れざりしに因る。故に爾に祈る、ハリストスよ、受けし者を爾の義者の居處の中に安ぜしめ給へ、爾は獨罪なき者なればなり。

光榮、今も、生神女讃詞。

至淨なる者よ、爾が實に生神女たるを預言者は傳へ、使徒は教へ、致命者は承け認め、我等は信じたり。故に爾の産を崇め讃む。

聖致命者、成聖者、克肖者、及び死者の規程、イオシフ師の作。第三調。

### 第一歌頌

イルモス、奇妙至榮に奇跡を行ふ神よ、爾は淵を地と爲し、兵車を沈め、爾を我が王及び神として歌ふ人人を救ひ給へり。

睿智なる受難者よ、爾等皆勇ましく多種の苦を忍びしに因りて光榮を得たり、故に常に讚榮せらる。

神聖なる役者、人體を取りし言の睿智なる聖機密の執行者よ、爾等は神聖なる力を以て能く主の群を牧して、天上の生命を有つ者と現れたり。

世の爲に釘せられし克肖者よ、爾等は肉體の一切の逸樂を棄て、聖神の器と爲りて、神聖なる力を以て誘惑の鬼を滅し給へり。

### 光榮

洪恩なる主よ、爾の命に因りて地より敬虔なる信を以て移りし者に終なき生命と暮れざる光とを得しめて、彼等を安ぜしめ給へ、爾は仁慈なる主なればなり。

### 生神女讚詞

至淨なるものよ、われ等敬虔の心を以て爾を身にて神を生みし者として、尊き女等、齋を以て輝き、苦を以て敵を斃しし者と偕に常に崇め讚む。

又死者の規程、月課經の規程なき時に序を逐ひて之を歌ふ。フェフォンの作。

### 第一歌頌

イルモス、昔イズライリは杖にて截り分ちたる海を、野を行くが如く過りて、明に十字架の道を預象せり。故に我等は奇異なる吾が神を讚美して歌はん、彼光榮を顯したればなり。

附唱、神よ、爾は爾の聖所に於て巖なり。

爾の葬を以て死を死し、地獄の苛虐を斃し、我等に先だちて天に升起しハリストスよ、爾は己と偕に受難者の群を升せ給へり。今は爾に移されし靈を安ぜしめ給へ。

附唱、主よ、寝りし爾の諸僕の靈を安ぜしめ給へ。

第三調 「スポタ」の早課 七〇一

第三調 「スポタ」の早課 七〇二

神聖なる致命者を堅固にして、彼等を以て迷を滅しし救世主よ、彼等の祈禱に由りて、爾を信じて世を終へし者に神として不死と福たる嗣業とを獲しめ給へ。

### 光榮

主宰よ、爾は屠られて、爾の血を諸僕の爲に流し、洪恩の主として彼等の爲に債を償へり。之に因りて、慈憐なる主よ、我等爾に祈る、爾に移されし爾の諸僕を安ぜしめ給へ。

### 今も

己の死を以て我等の死を滅し、老いざる生命と世々に存する福樂とを流しし神を生み給ひし潔き生神女を我等歌ひ讚めん。

### 第三歌頌

イルモス、果を結ばざる子なき靈よ、榮えたる果を獲て、樂しみて呼べ、神よ、我爾に縁りて堅められたり、主よ、爾の外に聖なるはなく、義なるはなし。

神の力に堅めらるる光榮なる致命者よ、爾等は悪に強き敵の害を爲す力を盡く滅して、勝利の神聖なる榮冠を受け給へり。

克肖者を敵に勝つ者と顯しし主宰、成聖者を至聖なる傅膏にて聖にせしハリストスよ、彼等の祈祷に因りて爾を歌ふ者を成聖し光照し給へ。

我等は衆預言者と偕に、齋を以て輝き、信を以て苦を忍びて、悪謀の蛇を踐みし神聖なる婦の會を歌ひ讃めん。 光榮

洪恩なるハリストスよ、祈る、神聖なる旨を以て我等より移し者を諸聖人と偕に納れて、爾の諸聖人の祈祷に因りて、其存命の時に行ひし諸罪を赦し給へ。

### 生神女讃詞

至淨なる者よ、爾の聖なる産に由りて救はれし我等はガウリイルの聲を以て忠信に爾に呼ぶ、慶べよ、且祈る、爾の祈祷を以て、我等衆の爲に諸罪の赦を求め給へ。

又

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

我を土より造り、又土に還しし不當なる我を更に美しく新にせし主よ、致命者の祈祷に因りて寝りし者の靈を安ぜしめ給へ。

洪恩なる主よ、受難者・致命者の縲綬、鞭撻、創傷、及び種種の苦に因りて、爾の諸僕の靈を諸聖人の居處に納れ給へ。 光榮

人を愛する主宰よ、信と爾に於ける倚頼とを以て寝りし爾の諸僕を「ゲエンナ」の火及び地獄の暗き居處より脱れしめ給へ。 今も

第三調 「スポタ」の早課 七〇三

第三調 「スポタ」の早課 七〇四

至淨なる生神女よ、爾は、死の力を滅して、我等に不朽を賜ひし造成主の母として、衆造物に超えて聖にせられし者なり。

### 第四歌頌

イルモス、潔き者よ、アウワクムは樹蔭繁き山として爾の至淨なる胎を預見して籲べり、神は南より、聖なる者は樹蔭繁き山より來らん。

睿智なる受難者よ、爾等は羔の如く甘じて屠られて、十字架の木のの上に人類の爲に屠らるるを甘じ給ひし羔たる神の子の前に皆羊の子の如く攜へられたり。

我等は克肖者と偕に光榮なる司祭諸長、信者の爲に燈と爲りし者、諸異端と諸慾の深き幽暗とを破りて、信を以て暮れざる光に移りし者を尊まん。

神の聲を宣べし預言者は美しき言を以て信者の靈を照し、捧神なる女等は功勞の光明と奇跡の光線とを以て彼等の心を輝かす。

光榮

仁慈なる神の言よ、生を終へし者を天上の光榮に與る者と爲して、彼等に地に在りて知ると知らずして行ひし諸罪の赦を與へ給へ。

### 生神女讃詞

我等は致命者の光榮、成聖者と克肖者との神聖なる飾、信者の固、預言者の宣傳なる至りて讚美たる主の母を歌ひ讚めん。

### 又

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。

慈憐を以て我等の爲に墓に入りて、神として墓を虚しくし、致命者を勝利者と顯しし主宰よ、爾の寝りし諸僕を安息の處に入れ給へ。

受難者の勇敢なる功勞、其爾の爲に忍びし創傷と百體の切斷とを悦びて受けたる主宰よ、移しし者を苦より脱れしめ給へ。

### 光榮

己の指塵にて生命の尺度を定むる主よ、爾に移しし者の罪の隔を毀ちて、彼等に爾の終なき生命と不朽の光榮とを獲しめ給へ。

### 今も

純潔なる者よ、爾獨降孕と産とを童貞に合せて、實に母及び童貞女と現れ給へり、死の力を破りし神を生みたればなり。

第三調 「スボタ」の早課 七〇五

第三調 「スボタ」の早課 七〇六

### 第五歌頌

イルモス、ハリストス神よ、爾の暮れざる光にて我が謙卑の靈を照して、爾を畏るる畏に導き給へ、爾の誠は光なればなり。

主の受難者よ、爾等の痛傷し創痕とは敵に醫されぬ創痕を負はせたり、今爾等は衆信者の創痕を醫し給ふ。

我等は克肖者の多數を歌頌し、ハリストスの成聖者を讚美し、其預言者を讚榮せん。

彼等は今常に我等の爲に祈り給ふ。

我等の爲に人體を取りし神を愛する光榮なる女等は義の爲に苦を受け、齋を修めし者は今天に居り給ふ。

### 光榮

主ハリストスよ、地より移しし爾の忠信なる諸僕を安樂の處、生ける者の地、爾の光の輝く處に入れ給へ。

### 生神女讃詞

至淨なる女宰よ、神は爾より身を取りて、今爾を諸天使より上なる者、悉くの造物に超ゆる者と顯し給へり。故に我等爾を讚め歌ふ。

### 又

イルモス、爾萬物を造りし主、悟り難き平安に、朝の禱を奉る、爾の誠は光なるに因りて、我に之を教へ給へ。



仁慈なる主よ、我等より移りし者を、致命者に因りて、尊き受難者の祈祷に因りて、  
冢子の教會に義人等と偕に入れ給へ。  
多くの罪の贖の爲に爾の至聖なる血を流ししハリストス救世主よ、今爾の致命者  
の祈祷に由りて、敬虔に寝りし者を安ぜしめ給へ。 **光榮**  
言よ、世を逝りし者の靈を智慧に超ゆる爾の永遠の安樂の處に向はしめて、諸聖人  
と偕に神聖なる光を被らしめ給へ。 **今も**  
我等は爾圍まれぬ言、死者に生を賜ふ主を言に超えて胎内に孕みし童貞女を宜しき  
に合ひて崇め讃む。

### 第六歌頌

イルモス、諸慾の深處は我を沈め、逆風の狂暴は起りて我を攻む。救世主よ、急ぎ  
て我を救ひ、預言者を猛獸より救ひし如く、我を淪滅より脱れしめ給へ。  
尊き教會の燈、羔及び牧者ハリストスの聖にせられし羔たる至榮なる致命者は聖  
なる歌を以て讚美せらるべし。  
謙遜を以て神を高くせし克肖者の會は高くせられ、善行を以て聖三者を榮せし

第三調 「スポタ」の早課 七〇七

第三調 「スポタ」の早課 七〇八

成聖者の大數は榮せられたり。  
雄拔しく勇みたる聖にせられし女等の會は神聖なる奇跡を顯すことと苦を勇敢に忍  
ぶこととを以て不法なる敵に傷つたり。 **光榮**  
ハリストスよ、信を以て地より移りし者を聖者の會に合せ、信なるアウラムの懷  
に入れて、常に爾の至大なる慈憐を讚榮せしめ給へ。

### 生神女讃詞

至淨なる生神女よ、爾は致命者、預言者、克肖者、及び悉くの古世よりの義人等の譽  
なり。故に我等歡の聲を以て爾を彼等と偕に崇め讃む。

又

イルモス、主我が神よ、我を淪滅より引き上げ給へと、イオナは呼べり。我も祈りて爾  
に呼ぶ、救世主よ、我が多くの惡の深處より我を援けて、爾の光に導き給へ。  
ハリストスよ、受難者の祈祷に由りて、信を以て寝りし者の哀を喜に易へ、樂を以  
て美しく彼等に帶し、彼等を導きて爾の光に向はしめ給へ。  
ハリストス神よ、移されし者を爾の慈憐の多きに因りて列祖の懷、爾の顔の光の  
輝く處に安息せしめて、彼等の悉くの罪過を顧みる勿れ。

### 光榮

ハリストスよ、此の世を逝りて度生の艱難を脱れし者の上に爾の仁愛の奇妙なる憐  
を顯して、彼等を歡喜と平安とに飽かしめ給へ。 **今も**  
潔き神の母よ、我等は爾の至榮なる産に由りて朽壞と死とを免れたり、蓋爾は我等  
の爲に不朽の泉を生みて、爾の光を以て全世界を照し給へり。

## 第七歌頌

イルモス、三人の少者は爐に於て聖三者を像りて、火の恐嚇を履み、歌ひて呼べり、  
我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。  
主の至榮なる受難者は火の中に立ちて、天より神聖なる露を受け、苦を以て殺され  
て、悪謀の敵を死者と爲せり。  
神聖なる成聖者は舟の如くハリストスの教會を導きて、之を溺らされぬ者として護  
り、眞に險悪なる迷の浪を脱れしめたり。  
眞の修齋者は聖にせられし勤勞を以て肉慾を殺して、無慾の老いざる生命を嗣ぎて歌  
ふ、主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

光榮

第三調 「スボタ」の早課 七〇九

第三調 「スボタ」の早課 七一〇

言よ、爾が移しし爾の信なる諸僕を審判の時に定罪せられし者と爲さずして、爾の  
諸聖人の光の中に安息せしめて、爾の仁慈を歌はしめ給へ。

## 生神女讃詞

純潔なる者よ、爾は實に致命者、克肖者、預言者、聖なる女、及び悉くの神聖な  
る生を度りし司祭諸長の光榮なり。我等は彼等と偕に爾を崇め讃む。

又

イルモス、昔敬虔なる三人の少者をハルデイの焰に涼しくせし如く、我等をも神性  
の明るき火にて輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼べばなり。  
萬衆の生命の原因及び造成の力たる神の言よ、致命者に約せられし安樂を移された  
る爾の諸僕の靈に獲しめ給へ。吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。  
ハリストスよ、朽つべき身を顧みざりし光榮なる致命者は今毅然として爾に祈る、移  
されたる爾の諸僕の靈を安ぜしめ給へ。吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

光榮

十字架の葦を以て衆信者の爲に諸罪の赦を書しし主よ、今爾に移しし靈を此の赦  
に與るを得しめて、彼等に楽しみて爾に歌はせ給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃  
めらる。

今も

己の旨に由りて萬事を行ふ父の言は神として諸慾の中に葬られたる人の性を新に  
し給へり。至淨なる者よ、爾の腹の果は崇め讃めらる。

## 第八歌頌

イルモス、至高きに天使等より黙さずして讃榮せらるる神を、諸天の天と地、山と岡  
と深處、及び悉くの人類は、歌を以て造成主及び贖罪主として崇め讃めて、萬世に讃  
め揚げよ。  
主の受難者よ、爾等は傷を受け、烈しく種種の苦に付されて、眞の生命を諱まざ  
りき、凶悪なる迷謬の偶像を拜せざりき。

せい にせられし じゆなんしや てん しんれい どうじゆうしや なんじ ら どうだい お ともしび ごと そんき  
聖にせられし受難者、天の神靈の同居者よ、爾等は燈臺に置かれたる 燈の如く尊貴  
なる しょとく かがや しゆうじん たましい てら およそ くらやみ はら たま  
諸徳に輝きて、衆人の靈を照し、凡の幽暗を拂ひ給へり。  
たいめい よげんしや およ こくしやうしや かい せい そんえい おんな たいすう よろ かな かしょう  
大名なる預言者及び克肖者の會、聖にして尊榮なる婦の大數は宜しきに合ひて歌頌  
せらるべし。彼等は救世主神に我等の爲に祈り給ふ。

### 光榮

せいししや つかさど たま きゆうせいしゆ なんじ ち うつ しんじや せいじん ら とも なんじ かんぼせ ひかり  
生死者を 司り給ふ救世主よ、爾が地より移しし信者を聖人等と偕に爾の顔の光

第三調 「スボタ」の早課 七一

第三調 「スボタ」の早課 七一

うち い なんじ じれん おお よ かれ ら しょざい ゆるし あた たま  
の中に入れて、爾の慈憐の多きに因りて彼等に諸罪の赦を與へ給へ。

### 生神女讚詞

いた さんび どうていじよ よげんしや つたえ せいせいしや じゆなんしや およ こくしやうしや かがり せい おんな  
至りて讚美たる童貞女、預言者の宣傳、成聖者、受難者、及び克肖者の裝飾、聖なる女  
の歡喜たる者は職として世世に歌はるべし。

### 又

いれもす、しょうは ワイロン に於て活ける神に奉事せんことに熱中して、樂器を顧  
みず、焰の中に立ちて、神に適ふ歌を謳ひて云へり、主の悉くの造物は主を崇め讚  
めよ。

ふし ほうぞう いのち かしら なんじ ししや ため ふきゆう し これ なんじ  
不死の寶藏、生命の首たる ハリストス よ、爾は死者の爲に不朽を知らせて、之を爾  
の致命者に賜ひ、彼等に信を以て敬虔に爾に歌はしむ、主の悉くの造物は主を崇め讚  
めよ。

ぞくしん えいち くるしみ にんたい もつ かがや けんご じゆなんしや うつ たましい ため  
屬神の睿智と苦の忍耐とを以て輝きし堅固なる受難者は移されし靈の爲に ハリス  
トス に赦を求めて呼ぶ、主の悉くの造物は主を崇め讚めよ。

### 光榮

じんじ きゆうせいしゆ なんじ わき さ ほこ もつ なんじ うつ もの かきつけ やぶ これ け  
仁慈なる救世主よ、爾の脅を刺しし戈を以て爾に移されし者の書券を破りて之を滅  
し、諸罪の隔を毀ちて彼等を受けて、爾を歌はしめ給へ、主の悉くの造物は主を崇  
め讚めよ。

### 今も

いさぎよ どうていじよ われら なんじ れいち くも たましい かわき くる もの ため しゃめん かつすい なが  
潔き童貞女よ、我等は爾を靈智なる雲、靈の渴に苦しめる者の爲に赦免の活水を流  
し、衆死者に不死を與ふる者と知りて、信を以て常に呼ぶ、主の悉くの造物は主を崇  
め讚めよ。

次ぎて生神女の歌、「我が靈は主を崇め」。

### 第九歌頌

いれもす、モイセイ は シナイ 山に於て棘の中に、爾を焚かれずして神性の火を胎内  
に孕みし者として觀、ダニエル は爾を截られざる山として觀、イサイヤ は芽を萌し  
し杖、ダウイド の根より出でし者なりと呼べり。

ハリストス の受難者よ、爾等は我等の爲に屠られし者の前に羊の子の如く攜へられ  
て、天使の神聖なる品位を歡喜に満てたり。故に爾等の祈祷を以て衆人を堅めて、衆

を敵の有害なる誘惑より脱れしめ給へ。

ハリストスの聖にせられし司祭諸長、神聖なる光榮に與る者よ、爾等は生命の言を有ちて、燈の如く信者の靈を照せり。火の如く聖神を受けたる克肖者よ、爾等は諸慾を焚き、偶像の迷を滅せり。

我等は聖預言者と偕に律法の前及び律法の中に潔き度生を以て輝きし克肖者の

第三調 「スポタ」の早課 七一三

第三調 「スポタ」の早課 七一四

大數と聖なる女の會とを讃め揚げて呼ばん、主よ、彼等の祈祷に由りて我等衆を救ひ給へ。

### 光榮

ハリストスよ、爾の葬及び復活は衆人の爲に生命と爲れり。故に我等勇みて爾に呼ぶ、受けし所の信なる爾の諸僕を凡の選ばれたる者と偕に安ぜしめて、仁慈なる神として彼等の悉くの罪過を赦し給へ。

### 生神女讃詞

生神女よ、イアコフは梯に於て實に爾の預象を見し時に呼べり、此の處は畏るべき哉と。爾は致命者の光榮、克肖者の譽、諸天使及び衆預言者の飾、信者の救なり。

### 又

イルモス、棘と火とを以てシナイ山に立法者モイセイの爲に預象せられ、神の火を焚かるるなく腹に宿しし者、最光明なる滅されぬ燈たる實の生神女を尊みて、歌を以て崇め讃む。

慈憐の主よ、爾は獨仁慈仁愛なる神として、今爾に移されし者を、致命者の祈祷に由りて、溫柔なる者の地に入れて、彼等に諸罪の赦を與へ給へ、我等が歌を以て絶えず爾を崇め讃めん爲なり。

ハリストスよ、爾が受けし者を諸聖人の居處に、アウラムの懷に、爾の義人等と偕に、爾の顔の言ひ難き神聖なる光の輝く處、實に世世に存する歡喜の在る處に入れ給へ。

### 光榮

生命を賜ふ主よ、爾の旨を以て移しし爾の諸僕に爾の福たる生命、永遠の福樂、眞の樂を獲しめて、彼等を茂き草場に、靜なる水に安息せしめ給へ。

### 今も

純潔なる者よ、爾は聖なる約匱及び神立法者の證詞の幕として、胎内に爾の造成主、己の死を以て古の詛及び死の法を廢せし者を受け給へり。

次ぎて「常に福にして」、聯祷、光耀歌、及び常例の聖詠。

「凡そ呼吸ある者」に致命者の讃頌、第三調。

衆民來りて、聖なる致命者の記憶を尊まん、蓋彼等は天使等及び人人の爲に觀玩と爲



りて、ハリストスより勝利の榮冠を受けて、我等の靈の爲に祈り給ふ。  
ハリストスの軍士は諸王と苛虐者とを畏るる畏を棄てて、勇敢を以て勇ましくハリストス、萬有の主神、我等の王を承け認めたり、今は我等の靈の爲に祈り給ふ。

第三調 「スポタ」の早課 七一五

第三調 「スポタ」の早課 七一六

聖天使の軍は致命者の苦に驚きたり、死すべき肉體を有ち、苦難を顧みずして、救世主ハリストスの苦に效ふ者と爲りたればなり、今は我等の靈の爲に祈り給ふ。聖なる致命者よ、爾等は善き戦を戦ひしに由りて、死の後にも世界の中に光體の如く輝く。故に勇敢を有ちてハリストスに我等の靈を憐まんことを祈り給へ。

死者の讚頌

人人よ、我等何爲れぞ徒に忙しき、我が走る路は短し、生命は烟なり、蒸氣なり、灰と塵なり、僅に現れて速に込ぶ。故に我等はハリストス死せざる王に籲ばん、我等より移されし者を爾に、凡そ楽しむ者の住居ある處に安ぜしめ給へ。

光榮、今も、生神女讚詞。

爾は種なく聖神に因りて孕み給へり、故に我等爾を讚榮して歌ふ、至聖なる童貞女よ、慶べ。

挿句に死者の讚頌、フェオファンの作。第三調。

獨大仁慈なる主よ、我等爾の尊き十字架を讚榮す、此に因りて信と愛とを以て爾を歌ふ者に生命及び樂園の樂は賜はりたり。故に我等爾に呼ぶ、ハリストス神よ、我等より移されし者を爾に、凡そ楽しむ者の住居ある處に安ぜしめ給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

獨慈憐仁愛にして、仁慈の量り難き淵を有ち、親ら造りし人の性を知り給ふハリストス神よ、我等爾に祈る、我等より移されし者を爾に、凡そ楽しむ者の住居ある處に安ぜしめ給へ。

句、彼等の靈は福に居らん。

爾は人として墓に寝ね、神として勝たれぬ力を以て墓の中に寝ぬる者を復活せしめて、黙さざる歌を爾に獻げしむ。故に我等爾に祈る、ハリストス神よ、我等より移されし者を爾に、凡そ楽しむ者の住居ある處に安ぜしめ給へ。

光榮、今も、生神女讚詞。

生神女よ、我等皆爾を鹿き人の性に合せられたる神性の光を載する靈智なる燈臺として知る。爾の子及び神に我等より移されし者を凡そ楽しむ者の歡喜のある處に安ぜしめんことを祈り給へ。

次ぎて「至上者よ、主を讚榮し」、聖三祝文。「天に在す」の後に讚詞、聯禱、發放詞。次に第一時課、并に發放詞。



「スポタ」の眞福詞、第三調。

ハリストスよ、爾は誠なんじ いましめ そむ げんそに背きし原祖アダムを樂園らくえんより逐おひ出せり。然いれども爾しか、洪恩なんじ こうおんなる主しゅよ、十字架じゅうじかに在ありて爾なんじを承うけ認とめし盜賊とうぞく、救世主きゅうせいしゅよ、爾なんじの國くにに於おいて我われを憶おもひ給たまへと呼よぶ者ものを其その中うちに入れ給たまへり。

句、義ぎの爲ために窘きんちく逐さいわいせらるる者ものは福てんこくなり、天國かは彼等れの有ものなればなり。

ハリストスの受難者じゆなんしやよ、爾等なんじらは火ひの苦くるしみに付わたされて、爾等なんじらを涼すずしくして、肉體にくたいの烈はげしき痛いたみを忍しのばん爲ために堅かたむる天てんの露つゆを獲えたり。故ゆえに爾等なんじらは常つねに我わが靈たましいの凡およその疾やまいを輕かろくし給たまふ。

句、人我ひとわれの爲ために爾等なんじらを話ののしり、窘きんちく逐なんじらし、爾等なんじらの事ことを譎いつわりて諸もろもろの悪あしき言ことばを言いはん時ときは、爾等なんじら福さいわいなり。

聖せいにせられし成聖者せいせいしや、光榮こうえいなる預言者よげんしや、克肖者こくしょうしやの大數たいすう、信しんに由よりて苦くるしみを受うけて敵てきの誘惑いざないを破やぶりし神聖しんせいなる女おんなの會かいは天てんの光榮こうえいを受うけたり。救世主きゅうせいしゅよ、彼等かれらの祈禱きとうに因よりて爾等なんじらの諸僕しよぼくを宥なだめ給たまへ。

句、喜よろこび樂たのしめよ、天てんには爾等なんじらの賞むくい多おほければなり。

イイスス神かみよ、信しんに於おいて我等われらより移うつしし者ものを爾等なんじの光ひかりの輝かがやく處ところに、爾等なんじの選えらびたる者ものの殿でんに、永在えいざいの樂たのしみの處ところに入れて、彼等かれらの罪過ざいかを問とふこと勿なかれ、我等われらが熱心ねっしんに爾等なんじ主宰しゅさい救世主きゅうせいしゅを讚さん榮えいせん爲ためなり。

光榮

我等われら信者しんじやは父ちちと子こと神聖しんせいなる神しん、造つくられざる三者さんしや、三位さんいにして惟一ゆいいちの神性しんせいに於おいて常つねに無形むけいの軍ぐんより忠信ちゅうしんに讚さん榮えいせらるる神かみに伏拜ふくはいす。

今も

神かみの恩寵おんちゆうを蒙こうむれる至淨しじゆうなる女じよさい宰なんじよ、爾等でらしより光照おほ及きよめび潔淨しじゆうじんたる衆人しよくざいしゅの贖罪主あらかは現あらわれたり。彼等かれに熱心ねっしんに祈いのりて、將來しやうらいの畏おそるべき審判しんぱんの時ときに、我等われら常つねに忠信ちゅうしんに爾等なんじを歌うたふ者ものを凡およその定罪ていざいより脱のがれしめんこともとを求たまめ給たまへ。